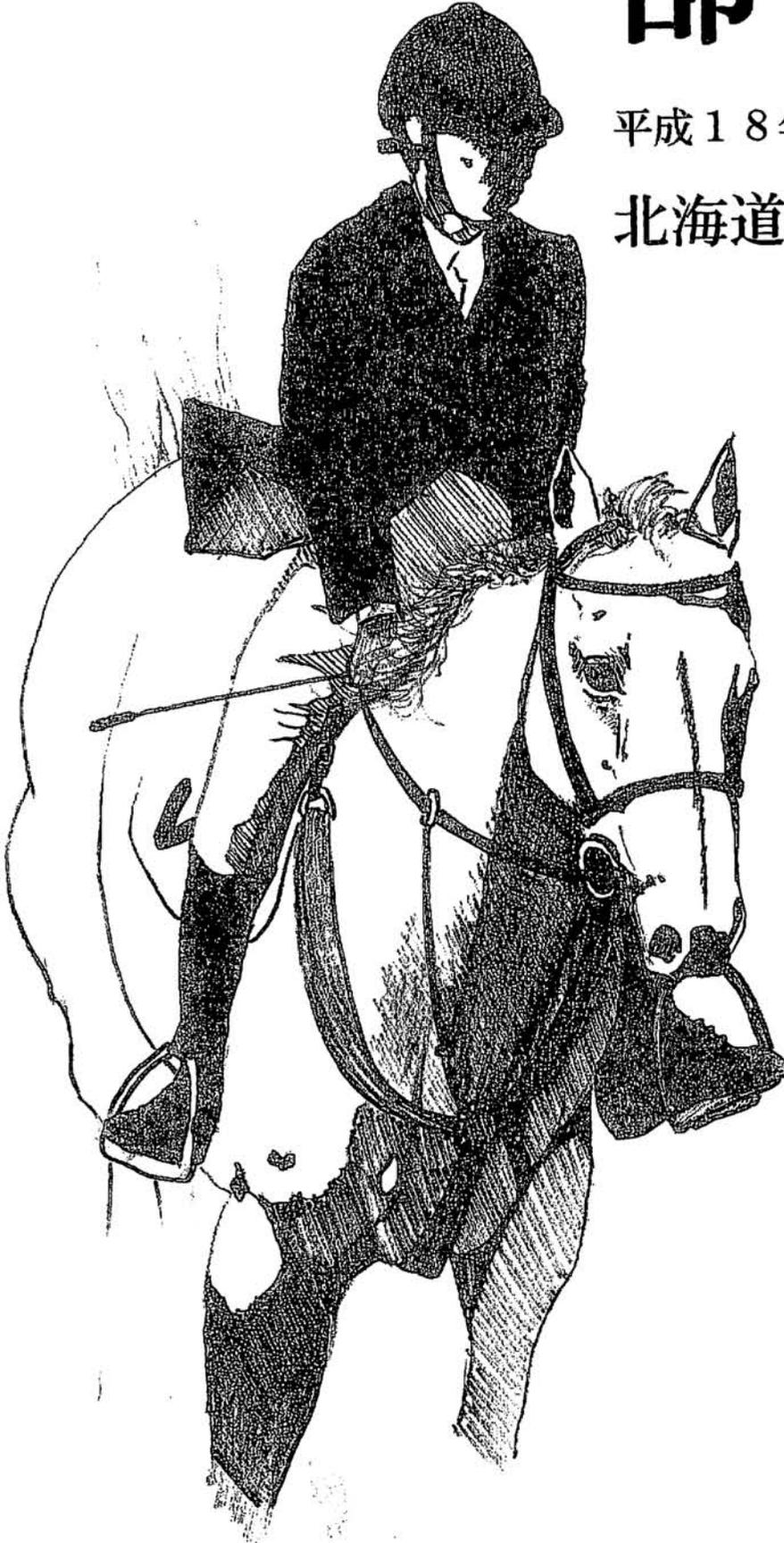


部 報

平成18年度 No.52

北海道大学馬術部



◇目次◇

巻頭書	井上 京	2
前主将より	林 宣隆	3
活動報告		4
戦績報告		10
調教報告		
北旋風号	久保 裕道	27
北彗号	一色 真明	31
北鳳号	林 宣隆	36
エルグレイ号	住江 康晴	39
北翔号	谷口 善彦	41
北椎号	関田 愛子	43
北閃号	池谷 雅史	46
北遥号	前田 晋也	48
北煌号	林 宣隆	51
離厩報告		
北奏号	宮本 亮	53
入厩報告		
北創号	宮本 亮	54
北柊号	谷山 直美	
ネイチャーヒーラー号	山川 倫明	55
OB寄稿		
イギリスの馬術事情	近藤 喜十郎	56
卒部40年記念道東合宿のこと	37北馬同期会	60
半澤道郎氏、岡田光夫氏、小池壽男氏追悼特集		67
北大水産学部馬術部活動報告	工藤 俊彦	89
卒部にあたって		91
部員紹介		97
OB名簿		103
現役部員名簿		112
編集後記		116

記録に留めておくべきいくつかのこと（平成 18 年度）

部長 井上 京

平成 18 年 5 月 4 日、第 34 回半澤杯の終わった夜、悲しい知らせが舞い込んできた。

永年にわたり、北大馬術部の隆盛にご尽力いただいた半澤道郎先生が、その 96 歳の生涯を閉じられた。日本馬術連盟理事、北海道乗馬連盟副会長、北日本学生馬術連盟会長、北海道大学馬術部部长、北海道大学馬術部後援会会長、などを務められ、広く日本の馬術界に貢献されてこられた。先生の人生は馬とともにあったといっても過言ではなかろう。大学を停年退官された後も、ほぼ毎朝、桑園の大学村にあるご自宅から大きな自転車に乗って北 18 条の馬場までお出でであった。白馬を愛され、凛とした姿勢で基礎的な馬場馬術の運動を見せてくださっていた。毎年春になると、新しい障害を作って部に寄贈してくださった。今年はどんな半澤障害がいただけるのだろうと、部員達は楽しみにしていたものだ。当時、大学馬術部としては破格の数とバラエティの障害を揃えていたのも、半澤先生のおかげにほかなるまい。

6 月 17 日の夜に、半澤先生を偲ぶ会が、北 18 条の馬場跡に建てられた遠友学舎で開催された。馬術部 OB のみならず多くの馬術関係者が道内外から集まり、しばし先生のご遺徳を偲びご冥福をお祈りした。この会には、御奥様の直子さま、御長男の進さまもご出席くださったが、ご遺族より馬術部に対し、先生が長年集めてこられてきた馬術関係の蔵書一式と寄付金のご恵贈を賜った。蔵書は、部室 2 階に新たに新たにしつらえた書棚に収納し保管している。

7 月 2 日には、第 8 代部長の小池壽男先生がお亡くなりになった。享年 81 歳。小池先生は馬術部の OB ではないにもかかわらず、部員達と馬術部の馬をいつも気遣ってくださった。毎朝 8 時過ぎに獣医学部へ出勤される先生を、馬場の前で待ちかまえて、馬の故障を見ていただいていた。いつもぬかるんだ厩舎まわりで短靴が汚れるのを気にもかけず、快く馬の様子を見てくださっていたのが、つい昨日のこのようである。

9 月 17 日、岡田光夫元監督がお亡くなりになった。享年 86 歳であった。昭和 17 年の卒部生である元監督は、大学馬術部が馬を借りて乗っていた時代から自馬を持つ時代に移り変わろうという時に、北大馬術部の発展に様々な面でご尽力くださった。昭和 38 年から平成 7 年までの 32 年間の長きにわたって、馬術部監督を務めてくださった。また、全日本高等学校馬術連盟副会長、北海道高等学校馬術連盟会長、北海道乗馬連盟理事長として北海道の乗馬界の中核的な存在として馬術の発展に尽力された。大きな声とおおらかな笑顔にいつも部員達は励まされていた。馬術部のコンパにはいつも半澤先生とともに出席くださり、会が引けた後は楽しみに半澤先生と肩を並べて夜陰に消えていかれた。

馬をこよなく愛された三人の大先輩が北大馬術部によせられたご芳情とご功績に心より感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◇前主将より◇

林 宣隆

今年は北彗&一色が全日の二走で見事入賞しました。彼は公約どおりその役目を果たし、北日本に貴重な1枠をもたらしてくれました。しかし、全日に出場したのはこの1人馬のみで、3年間続いた団体出場を止めてしまい残念な結果に終わりました。団体で全日に行くこと、これは3年前僕らが1年生の時に馬つきとして全日に行き、先輩方の姿を見て以来抱き続けていた目標でした。馬術部はみんなで馬を育て、みんなで練習している以上個人競技ではありません。選手はチームの一員としてチームのために試合に出場し、その喜びや悔しさはみんなで分かち合うものです。そういった意味で全日に団体で出場することには大きな意味があると思います。今年は、その姿を後輩に見せられなくて残念でしたが、後輩たちにはこれからも団体にこだわってがんばってほしいと思います。

最後に、今年はピバホリデイを人の不注意で大きな事故に巻き込んでしまいました。人が原因の事故であり、馬には何も言うことができません。このようなことは二度と起こしてはならないし、この失敗から学んだことをこれからの馬術部に生かさなければなりません。それが、あの場にいた全員への義務であると思います。ピバを含む、ここまでお世話になった全ての馬、全ての関係者に深く感謝します。本当にありがとうございました。馬あつての馬術部、人あつての馬術部だと強く思います。



◇活動報告◇

【主将】

住江 康晴

現在の部の状況は、部員16人（4年2人、3年6人、2年8人）、馬匹が12頭です。最上級生が2人と少なく、役職にしても、馬の管理にしても、当番にしても部を運営する上で、下の学年に頼る部分が多くなってしまいます。ということは、最上級生が中心となって、その求心力によって下の学年をまとめるというのは困難であり、例年以上に3年生、2年生も含めて部の運営に対して意見を持ち、交換し合い、共通の考えで責任を持って部全体が一体となって進んでいく必要があります。このことを前提とした上で馬術部の課題点、問題点をあげて見たいと思います。

・ 競技目標

今年の目標は全日団体出場です。全日出場経験のある高齢な馬が多く、足元などいろいろと不安の出始めている馬もいるが、健在ならば全日を狙っていききたい。そのためにも馬体管理が重要となってきます。慎重になりすぎてもいけないが、高齢馬にとって小さなことが原因であっても悪化したり、回復に時間がかかったりしやすくなります。そのために、シーズンの長い期間を棒に振ってしまっただけでは非常にもったいないです。また、練習時間も限られてくるので、密度の濃い練習を心がけなければいけないでしょう。そのためには、長期的・短期的な目標を立てる、騎乗前にどのようなことをするか考え騎乗中に馬の反応を感じ、騎乗後にそれを次に生かせるように考えるといったことが大切でしょう。経験豊富な高齢馬では、人の練習のほうがメインとなってくるだけに、密度の濃さは特に重要だと思います。

・ 馬の成長

先述したように全日経験馬は高齢になってきて、いつ故障してもおかしくないと毎年の様にいわれ続けながらも何とかここまでやってきている馬が多いです。よって、次を担う馬を育てるとというのが、近年の部報でも書かれてあるとおりであり、世代間でもしっかりと認識されている点だと思います。そのかいあって、全日を目指す馬、北日を目指す馬と段階はあるものの着実に育ってきていると思います。馬の調教、特に新馬の調教では、ひとつの代だけで実を結ぶものではなく、いくつもの代に渡ってやっと花開くことが多いと思います。だから世代間の意志の疎通が重要で、最良で一貫した調教が一番の近道でしょう。そのためにもチーフは前任者の話を真摯に聞き、大いに参考にしなければならないでしょう。

今年は3頭が新たに入厩しました。毎年定期的に新馬を入れ、風通しを良くするといっただけでは何ですが、能力の高い馬を選びたいという狙いもあります。新馬が多くて大変だと思われるかもしれませんが、やはり今後の部の発展のためにはかかせないと思います、OBの方々の協力も賜りながらやっていこうと思います。

ここでひとつ書いておかなければならないことがあります。それは平成17年度に入

厩してきた北奏号が怪我により離厩したことです。怪我をしたときの詳しい経緯はここでは割愛させていただきますが、今回の件で施設や道具が危なくないか見直され、より安全になるように手を加えたところもあります。重要なのは新馬、古馬問わず、すべての馬を扱う際に部員一人ひとりが馬の命を預かっているとしっかり意識しなければならぬということです。扱い方ひとつ誤れば馬の命を脅かしかねないのです。ひとつの事故にはたくさんのヒヤリ、ハッとすることがおきているものであるし、しっかりそういう意識があれば自然と小さなことから気をつけるようになると思います。

たとえば、厩舎の通路が狭くならないようバケツなどはきちんと片付ける、馬棒から馬を出すときは引戸を全開にする、きちんと両手で引き綱を持つ、馬房で馬着を着せるときはきちんと無口をつけてやる、といったように人のかくにん不足や、面倒だし、まあ大丈夫だろうと思ってつい・・・ということが内容にしなければなりません。今までも当たり前のことだとは思いますが、今回のような件が起きてしまった以上、よりいっそう徹底して、このような悲しいことを絶対に繰り返してはなりません。

・ 人の成長

馬の成長と同様に、人の成長も部の発展には欠かせません。未経験者が2年目の代替わりでチーフになれるレベルになり、3年目は馬から教わり、4年目にそれを馬や下級生に還元できるようになるというのがひとつの理想だと思います。何をもちてチーフになるレベルと判断するかはあいまいで難しいところがあるかもしれませんが、2年目の代替わりでそこまで達するには、やはり部で一貫した指導を行うことが重要だと思います。定期的に部班を取り入れたり、今までの流れから大まかな指導法はあると思いますが、今一度話し合っって指導の方向性や部班も形式だけにとらわれて中身がなくなっているか確認する必要があるかだと思います。また、引き続き下級生も含めた全員でのミーティングを積極的・定期的に開き、下級生は騎乗反省を通して考える機会を持つようにしたいと思います。さらにこの場で、チーフは担当馬について考えることを述べてもらい、疑問や質問を積極的に言い合い、チーフ間でも担当馬いがいに関心を向け、その馬をそのチーフだけのものとせず、部全体が力になればと思います。

人がうまくなるために何より大事なものは、当たり前のことですが、馬に乗って練習することだと思います。代替わり後、落馬による骨折などの怪我で練習に参加できないということがありました。先に書いたことに加えて人間のほうの安全も気をつけなければなりません。馬術部は馬を扱うという特異さゆえ、練習中以外でも怪我をする可能性が低くないです。繰り返しになりますが、人も馬も安全に安心して活動できるよう万が一の最悪の事態を考えて、防げる危険は未然に防ぐことが重要だと思います。

代が替わって北奏号の全日入厩検査に不手際があり、多くの方にご迷惑やご心配をおかけしてしまったことを最後に書いておかなければなりません。馬匹でも書かれると思いますが、この場を借りてお詫び申し上げます。そしてこのようなつまらないミスが二度と繰り返されないように、後輩たちにしっかり伝え、これから先に入部してくる後輩たちも、この部報を読み返してもらったときに過去にこのようなこと

があったと知ってもらえたらと思います。

いろいろと問題続きではありますが、そのたびに痛切に感じることは、馬術部は多くの方に支えられているということです。その感謝の念を忘れず、上記のことを念頭に置きやってもらいたいと思います。

【副将】

宮本 亮

馬術部は現役部員一人ひとりが主体となって運営していく部ではありますが、OBの方々や道の乗馬クラブの方々、さらには近隣の方々まで、多くの人の理解と協力があってその運営は可能となっています。自分達だけで何から何までこなすことが困難な中、大切なのはそういった方々に対してどう接していくかだと思います。部員は「マナーのある人、規律を守れる人」でいるべきだと思います。それはあまりにも当然すぎるのですが、しかし自分がどう見られるかで人との関係は崩れもすれば、構築できることもあります。そして部全体でそうしていくためには、まず上が模範となるべきだと思います。反面教師では務まらず、また口で言うだけで通じることではないと感じるからです。馬は人と人とをつないでくれます。そのつながりを大切にしていける部でありたいと考えています。

【主務】

山川 倫明

主務の仕事は、馬術部施設の管理、北大主管の大会の運営などです。

施設に関しては、一昨年の夏頃から次第に裏戸の壊れた箇所が増え始め、昨年の秋にはほとんどの箇所が壊れた状態になったため、学生部を通して修理してもらいました。現在の場所に馬場が移転してから8年が経過し、これからも施設に関する問題が生じるとかと思いますが、その都度柔軟に対応していきたいと思います。

大会運営に関しては、前年度に比べ、部員数の多少の増加があったとはいえ、余裕をもって大会を運営していくには十分な人数とは言えません。しかし、馬術部員の本分である競技参加を疎かにしないためにも、部員一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たし、また、皆協力し合って、それらの両立をしなければなりません。

その他の庶務も含め、主務というのは、部員が快適に活動したり、安心して競技に参加するための重要な役割を担っています。そのあたりをしっかりと意識して、責任感を持たなければならないと思っています。

【馬匹】

谷山 直美

馬匹をやる上で大事なことは、やはり、治療より予防です。過去の失敗から学び、その過ちを繰り返さないよう注意を促し、部員全体の意識を高めることが必要です。また、馬を扱う上では、危険予測ができなければならなく、常に最悪の事態を想定して行動し、安全な環境を整えなければなりません。

2006年6月、北彗号が馬繋台で大怪我をするという事件がありました。新馬などは扱いが難しく、特に注意しなければいけないのですが、このような事件が起こってしまったということは、安全に対する意識と、環境整備が甘かったのだと思います。事故の詳細は離厩報告で書かれていると思うので、省きますが、その怪我のため離厩させていただきました。

このような悲しいことは二度と起こるべきではありません。これを読んだ後輩たちも過去にこのような失敗があったことを知り、繰り返さないようにして欲しいと思います。

また、ここに書かなければならない失敗がもう一つあります。それは、2006年の全日学での、北彗号の入厩に関することです。10月31日までに馬事公苑に入厩する際の、入厩条件を満たせていなかったために、入厩だけは認めてもらえたものの、31日のフレンドリーに出られない、ということがありました。詳細は次のとおりです。

日本脳炎の予防接種について、「夏期（7月1日～10月31日）に入厩する馬については前年度の接種歴に関係なく毎年1回目の接種（基礎）を5月1日以降に開始すること」が必要で、例年は問題なかったのですが、今回、ノーザンの大会の日程が例年よりも早まり、ノーザンの入厩条件に合わせるために、1回目の接種を5月1日以前に開始したとしてしまっていたのです。もっと早くこのことに気づいていれば、対処はできたはずなのですが、部内での連絡が上手く取れておらず、このような事態に陥ってしまいました。書類上のミスでフレンドリーに出られなくさせてしまった一色兄と北彗号、応援して下さった皆様にはお詫びの申し上げようもございません。

獣医関係のOBの方々には、相談させていただいたり、馬を診ていただいたりと、何かとお世話になり、厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【飼料】

内山 知

現在、ハイキューブ約1.0kg、燕麦約1.0kg、ふすま約0.3kg、パワーサプリ25約0.1kg、塩大さじ1杯強を朝、昼、夕の3回、乾草約1.5kgを朝、昼、夕、夜の4回を飼料として与えています。ハイキューブは疝痛予防のためふやかしています。飼料は明治飼料さんから購入し、乾草は、長岡さんからバイト代としていただいています。

今秋、カルシウムとリンの栄養バランスの関係から飼料の調整を行ないました。また、蕁麻疹の出た馬に対し、1番乾草と2番乾草の使い分け、百瀬さんからお聞きした米ぬかの使用を実践し、効果を得ました。

今年度は多方面の方々からたくさんのお礼をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

【後援会】

山中 謙司

現役部員とOBの交流の場として、年4回のコンパ、OB戦、初乗りを行ったり、戦績や部報を送らせていただいております。

北大馬術部OBは全国に散らばっておられ、全ての方と交流を持つことは出来ませんが、なるべく多くの方と交流を持ちたいと思っております。しかしながらH6年卒の倉本さんが開設して下さった北海道大学馬術部ホームページ(<http://www4.big.or.jp/~nono/hokudai/>)の掲示板が昨年の秋に突然使用不可能になりました。これを受けて新たにホームページ(<http://blog.sam-c.co.jp/~miyazaki/hokudai/>)が作成されましたので、こちらをご覧ください。

また現役版のホームページ(<http://circle.cc.hokudai.ac.jp/horse/homepage/>)も作成しましたのでそちらの掲示板もご参加ください。

また馬術部ではEメールでのご連絡も行っております。郵送より早く、経費削減になりますのでメールアドレスをお持ちの方はご連絡くださいますようお願いいたします。ご連絡は部室(TEL / FAX 011-737-1626)または北大馬術部のメールアドレス(hokudaibajutubu@hotmail.com)にお願いします。また住所、メールアドレス等に変更がありましたらご連絡下さい。

【会計】

小島 真宏

今年は北日学が福島で行われましたが305,715円の黒字となりました。大きな理由としては1年生がたくさん入ったことで部費による収入が多くなったこと、そして前年に購入した馬運車の不足分をOBの方々にご寄付していただいたことにあります。大変ありがとうございました。

今後、今年のように部員の大幅増やアルバイトによる収入増があるとは考えにくく、まだまだ財政状況が安定しているとはいえないので、是非ともOBの方々のご理解とご支援の程よろしくお願い致します。

学生割引あり



カットイントライ

北23条西5丁目山水ビル2F TEL011-747-1058

- 受付時間 AM10:00~PM8:00
- 定休日 毎週火曜日・第3月曜日

馬術部会計報告2006年1月～12月

収入

部費	1,200,000
寄付	1,100,740
学馬連補助	980,000
体育会強化費、助成金	347,844
半澤杯収益	209,600
道大会役務費	1,416,195
輸送補助金	27,200
インターハイ役務費	236,400
モモセバイト	456,600
競馬場バイト	1,239,287
鷺田商店バイト	3,500
松永獣医師バイト	128,500
セレクトセールバイト	182,000
薬品立替分	145,854
体温計立替分	47,450
その他	304,260
計	8,025,430

支出

衛生	36,473
企画	47,803
後援会	52,252
作業	118,704
車両	687,562
主務	241,109
飼料	1,950,818
大会関係	789,411
馬匹	913,850
馬備	228,873
ビデオ	60,991
薬品	877,725
交通	1,513,367
電話	52,439
雑費	148,338
繰越金	305,715
計	8,025,430

特別会計

収入

寄付金	
半澤道郎先生御遺族	
八木正巳様御奥様	
岡田光夫様御奥様	
農学部旧林産学科有志	
計 4件	616,825 円

支出

書架代	99,750 円
-----	----------

◇戦績報告◇

●第45回国立七大学総合体育大会馬術競技会（於 福岡県馬術競技場 3月4日, 5日）

参加選手 一色（3） 林（3） 池谷（2）
 優勝 九州大学
 準優勝 東北大学
 3位 京都大学
 4位 名古屋大学
 5位 北海道大学
 6位 東京大学
 最優秀選手 畑（九州大学）
 優秀選手 長村（東北大学）
 川本（京都大学）

●対東北大学定期対抗戦（於 東北大学 4月2日）

参加選手 沖（2） 宮本（2） 山中（2）
 優勝 東北大学・北海道大学

●第12回岩手大学招待学生馬術大会（於 岩手大学 4月22日）

参加選手 谷口（2） 小島（2）
 優勝 帯広畜産大学
 準優勝 北海道大学
 3位 酪農学園大学
 4位 東北大学
 ベタル賞 小島（北海道大学）

●第34回半澤杯記念馬術大会（於 北海道大学 5月3日, 4日）

☆第2課目競技（市川杯） 得点率

1位	小島	北椎	北大（2）	51.2
2位	池谷	北閃	北大（3）	46.3
3位	吉村	北閃	北大（2）	43.5

☆複合馬術競技（太秦杯） 馬場減点 障害減点 総減点

1位	中川	イェリストライマ	酪農学園大学	71.2	8	79.2
2位	杉山	フットンジ 8	酪農学園大学	77.9	4	81.9
3位	伊藤	コハク	酪農学園大学	85.9	0	85.9
6位	林	北風	北大（4）	86.2	4	90.2
open	一色	北慧	北大（4）	74.3	—	—
	山川	北慧	北大（2）	76.9	—	—
	関田	北椎	北大（4）	80.3	—	—
	久保	北旋風	北大（4）	92.0	—	—
	谷口	北翔	北大（2）	—	8	—
	住江	エルクノイ	北大（3）	—	0	—

☆障害飛越競技100cmクラス(河田杯)				減点	J.O.タイム
1位	壁下	キーンホク	乗馬倶楽部インフイーズ	0	40.45
2位	宮本	北風	北大(2)	0	44.54
3位	久保	北旋風	北大(4)	0	48.94
11位	谷山	北風	北大(3)	15	

☆障害飛越競技90cmクラス(小池杯)				減点	タイム
1位	岡本	ファンドリマリ	JRA札幌競馬場	0	67.75
2位	村形	カホソコビ	函館競馬場ホクテ少年団	0	69.32
3位	山村	アリアマツレアリ	函館競馬場ホクテ少年団	0	71.19
6位	池谷	北因	北大(3)	4	67.66
10位	坂井	マインストロム	北大水産学部	8	92.88
12位	関田	北椎	北大(4)	11	88.86
13位	山中	北旋風	北大(2)	13	78.42
15位	一色	北因	北大(4)	13	111.77

☆障害飛越競技70cmクラス				減点	タイム
1位	佐藤	カホソコビ	北大水産学部	0	67.70
2位	前田	北遥	H18卒	0	68.68
3位	宮本	北煌	北大(2)	0	71.77
4位	中井	カホソコビ	北大水産学部	0	72.23
8位	山川	北遥	北大(2)	1	81.16
10位	庄	マインストロム	北大水産学部	3	86.19
11位	関田	北椎	北大(4)	4	70.22
12位	林	北煌	北大(4)	5	79.82
14位	池谷	北因	北大(3)	6	101.07
3反E	沖	北椎	北大(2)		

☆障害飛越競技クロスバー競技				減点	タイム
1位	古賀	フサイヒアレス	JRA札幌競馬場	0	65.57
2位	安達	ファンドリマリ	JRA札幌競馬場	0	60.05
3位	谷口	北煌	北大(2)	0	58.88
4位	前田	北遥	H18卒	0	56.14
5位	山川	北遥	北大(2)	4	65.89
6位	一色	北奏	北大(4)	7	76.62
7位	小島	北奏	北大(2)	7	78.42
3反E	林	北煌	北大(4)		

●三大学定期戦（於 北海道大学 5月13日）

参加選手 小島（2） 山中（2） 吉村（2）
 優勝 酪農学園大学
 準優勝 帯広畜産大学
 3位 北海道大学
 MVP 神田（帯広畜産大学）

●第20回北海道新緑馬術大会（於 ノーザンホースパーク 5月19日～21日）

☆ツースター馬場馬術競技A I 得点率
 1位 松田 柏風 帯広畜産大学 54.800
 2位 玉井 柏爵 帯広畜産大学 54.667
 3位 神林 駿春 酪農学園大学 52.400
 7位 関田 北椎 北大（4） 45.867
 8位 谷山 北椎 北大（3） 39.733

☆ツースター馬場馬術競技A II 得点率
 1位 中川 エ'レストクライマ 酪農学園大学 52.667
 2位 小松 エ'レストクライマ 酪農学園大学 51.200
 3位 高橋 ウニヰ 酪農学園大学 50.400
 4位 林 北風 北大（4） 47.600

☆標準中障害飛越競技D 一般の部 減点 J.O.タイム
 1位 小池 柏嶺 帯広畜産大学 0 34.24
 2位 阿部 グ'イガ'イ 乗馬倶楽部メイフイ-ルズ 0 37.36
 3位 島山 グ'ンドライオン コンドウファ-ムライディングジ-ル 0 38.84
 4位 高野 グ'イクトワ-ル S41卒 0 41.37
 6位 久保 北旋風 北大（4） 4
 11位 住江 エルグレイ 北大（3） 5
 13位 松井 キノミドリ S46卒 8
 2反E 林 北風 北大（4）

☆標準中障害飛越競技C 一般の部 減点 J.O.タイム
 1位 岩坪 キノミドリ エッセイディングファ-ム 0 38.86
 2位 高野 グ'イクトワ-ル S41卒 0 39.80
 3位 松田 柏風 帯広畜産大学 0 40.80

☆標準小障害飛越競技C 減点 タイム
 1位 百瀬 セレブ エッセイディングファ-ム 0 69.26
 2位 前田 北遥 H18卒 0 75.87
 3位 宮本 北遥 北大（2） 0 81.78
 5位 林 北風 北大（4） 4 77.51

☆標準小障害飛越競技 A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	福原	柏鳳	帯広畜産大学	0	46.80
2位	小笠原	柏海	帯広畜産大学	0	47.34
3位	堂下	キィホク	乗馬倶楽部メインフィーズ	0	51.14
4位	松井	岩竜	S46卒	0	52.03
6位	松井	タイキマシヤル	S46卒	0	56.76
9位	池谷	北岡	北大(3)	0	71.45

☆六段障害飛越競技				減点	J.O.タイム
1位	高野	ウイクトワル	S41卒	150cm	
2位	楠木	ジュティム	ノザンホスパーク	140cm	
3位	加藤	スノエンデハ	にいかつぶねり乗馬クラブ	—	

☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技 A 一般の部				成績時間
1位	阿部	ラインハト	乗馬倶楽部メインフィーズ	70.49
2位	松井	タイキマシヤル	S46卒	78.04
3位	加藤	スノエンデハ	にいかつぶねり乗馬クラブ	78.29
7位	松井	岩竜	S46卒	95.80

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技 D 一般の部				成績時間
1位	楠木	リッキー	ノザンホスパーク	73.38
2位	相田	モンテガエルテ	モモンテディングファーム	73.46
3位	阿部	グイタグイ	乗馬倶楽部メインフィーズ	74.24
4位	林	北風	北大(4)	82.42
6位	松井	オノミドリ	S46卒	95.47

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技 C 一般の部				成績時間
1位	川北	ワキンス	ノザンホスパーク	71.38
2位	岩坪	モンテガエルテ	モモンテディングファーム	80.01
3位	神田	柏嶺	帯広畜産大学	81.98
4位	高野	ウイクトワル	S41卒	82.87
11位	谷口	北翔	北大(2)	93.70

☆標準小障害飛越競技 BII				減点	タイム
1位	山川	北椎	北大(2)	0	72.36
2位	太田	ディエスジャック	静内農業高校	0	80.12
3位	関田	北椎	北大(4)	4	72.10
2反E	前田	北遼	H18卒		
2反E	住江	北遼	北大(3)		

☆決勝競技標準中障害飛越競技 C 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	川北	ワキンス	ノザンホスパーク	0	33.24
2位	高野	ウイクトワル	S41卒	0	36.18
3位	楠木	ジュティム	ノザンホスパーク	4	

●第41回北海道春季馬術大会（於 ノーザンホースパーク 6月9日～11日）

☆標準中障害飛越競技D 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	下田	初音I	十勝柏友会乗馬クラブ	0	45.86
2位	細矢	コレ効	JRA日高育成牧場	4	
3位	松井	初ノドリ	S46卒	4	
6位	松井	岩龍	S46卒	4	

☆公認競技ノーマル中障害飛越競技C				減点	J.O.タイム
1位	高野	ウイクトワ	S41卒	0	40.94
2位	阿部	ダイヤ付	RCインフィニ	0	43.09
3位	下田	初音I	十勝柏友会乗馬クラブ	4	

☆標準中障害飛越競技C 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	谷口	北翔	北大（2）	4	42.38
2位	一色	北慧	北大（4）	4	47.52
3位	春田	マカ初音	モセイディングファーム	8	
5位	久保	北旋風	北大（4）	16	

☆標準小障害飛越競技C				減点	J.O.タイム
1位	西原	ダイゲイ	十勝柏友会乗馬クラブ	0	40.46
2位	林	北煌	北大（4）	0	41.68
3位	小島	北煌	北大（2）	0	44.80
4位	前田	北遥	H18卒	0	48.17
5位	宮本	北遥	北大（2）	0	53.93
6位	一色	北奏	北大（4）	6	

☆標準小障害飛越競技A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	岩本	ハップス	JRA日高育成牧場	0	34.17
2位	菅野	デスミ	JRA日高育成牧場	0	37.59
3位	高崎	ルファ	JRA日高育成牧場	0	37.83
5位	松井	タイマシ	S46卒	0	49.53
13位	山中	北旋風	北大（2）	8	
2反E	山川	北椎	北大（2）		

☆六段障害飛越競技				クリアラウンド
1位	高野	ウイクトワ	S41卒	150cm
2位	楠木	ジュティム	ノーザンホースパーク	140cm
3位	伊藤	ウハク	酪農学園大学	130cm

☆一般第2課目馬場馬術競技II				得点率
1位	高崎	ルファ	JRA日高育成牧場	60.392
2位	田中	チェリアドミル	マイホースパーク	48.824
3位	沖	北椎	北大（2）	48.431

☆ツースター馬場馬術競技A II				得点率
1位	川畑	ヤマファンム	酪農学園大学	50.70
2位	伊藤	ブラッジーズ	酪農学園大学	50.50
3位	久保	北旋風	北大(4)	39.50

☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技A 一般の部				成績時間
1位	松井	タイマ・シャル	S46卒	82.96
2位	小島	トチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ	98.89
3位	山口	ミミノゴ・ジヤス	ライディングファーム・フセ	94.53

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技D 一般の部				成績時間
1位	岩本	バハップス	JRA日高育成牧場	73.07
2位	松井	キタノミドリ	S46卒	85.15
3位	小野	ゲンギャノン	JRA日高育成牧場	89.13
4位	松井	岩龍	S46卒	89.25

☆公認競技スピードアンドハンディネス中障害飛越競技C				成績時間
1位	高野	ウイクトワル	S41卒	74.55
2位	阿部	ゲイガ'イ	RCインフィニクス	80.64
3位	高橋	ウニシテ	酪農学園大学	103.14

☆標準小障害飛越競技B II				減点	タイム
1位	会田	ミアリエル	北星乗馬クラブ	0	61.77
2位	園田	シブ'リーズ	静内農業高校	0	64.63
3位	森下	バン'キホ'イ	北星乗馬クラブ	0	66.11
6位	谷山	北椎	北大(3)	0	70.49
8位	林	北煌	北大(4)	0	72.02
12位	小島	北煌	北大(2)	4	65.41
14位	池谷	北遼	北大(3)	4	65.97
15位	前田	北遼	H18卒	6	87.68
17位	山川	北椎	北大(2)	7	90.91

☆決勝競技中障害飛越競技D 一般の部				減点	タイム
1位	高橋	ル'エリエ	ライディングファーム・フセ	4	93.89
2反E	松井	岩龍	S46卒		

☆決勝競技中障害飛越競技C 一般の部 (八木杯)				減点	タイム
1位	高野	ウイクトワル	S41卒	0	68.86
2位	春田	マサネコン	ライディングファーム	4	67.53
3位	岩坪	キタノミドリ	ライディングファーム	8	77.35

●第78回北日本学生馬術選手権大会（於 ノーザンホースパーク 6月18日）

参加選手 一色（4） 林（4） 坂井（水産学部） 工藤（水産学部）

☆予選				得点率
1位	牧		東北大学	55.909
2位	道下	トウカキ' イト	岩手大学	49.697
3位	一色		北大（4）	49.242
4位	坂井		北大水産学部	43.636
☆準決勝				得点率
1位	工藤		北大水産学部	48.939
2位	小松	イト' キュメント	酪農学園大学	47.727
3位	林		北大（4）	46.667
4位	宮澤		北里大学	43.636
1位	一杉		東北大学	54.091
2位	小松	イト' キュメント	酪農学園大学	52.576
3位	青山		福島大学	52.424
4位	工藤		北大水産学部	47.121

●第42回北日本学生馬術女子選手権大会（於 ノーザンホースパーク 6月18日）

参加選手 谷山（3） 中井（水産学部） 庄（水産学部）

☆予選				得点率
1位	神田		帯広畜産大学	51.515
2位	市橋	ニホ' -ナゴ' -ホト'	東北大学	49.091
3位	菊池		福島大学	39.545
4位	中井		北大水産学部	39.091
1位	川畑		酪農学園大学	51.515
2位	福田	アヒ' -ジュ-	弘前大学	51.515
3位	谷山		北大（3）	45.000
4位	庄		北大水産学部	41.818

●第31回北海道馬術大会（於 ノーザンホースパーク 6月30日～7月2日）

☆一般第2課目馬場馬術競技Ⅱ				得点率
1位	菅	ユウジン	旭川乗馬倶楽部	60.588
2位	庄子	テ' イレ' -ガロ-	旭川乗馬倶楽部	52.745
3位	小林	ス' ロ' ト'	モッテライ' イング' ファーム	49.608
5位	山中	北権	北大（2）	46.078
☆ツースター馬場馬術競技Ⅱ				得点率
1位	小松	咲良	酪農学園大学	47.467
2位	山川	北権	北大（2）	44.800
3位	杉山	チャレンジ' 8	酪農学園大学	43.067
4位	久保	北旋風	北大（4）	40.533

☆標準中障害飛越競技D 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	菅野	デスミレ	JRA日高育成牧場	0	40.94
2位	相田	モンテヴェルデ	モゼライディングファーム	0	45.39
3位	渡辺	リゲース	酪農学園大学	0	59.50
6位	松井	オノミドリ	S46卒	4	
2反E	松井	タイマシヤル	S46卒		

☆標準中障害飛越競技C 一般の部				減点	タイム
1位	岩坪	モンテヴェルデ	モゼライディングファーム	0	67.77
2位	阿部	トウクリク	乗馬倶楽部メンフィーズ	4	69.45
3位	畠山	ダンテライオン	コントウファームライディングジム	4	70.42
8位	久保	北旋風	北大(4)	16	95.04

☆標準中障害飛越競技B 一般の部				減点	タイム
1位	谷口	北翔	北大(2)	4	75.17

☆標準小障害飛越競技A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	高崎	ザッザハリ	JRA日高育成牧場	0	39.90
2位	森川	リッキー	ノザンホースパーク	0	39.95
3位	楠木	オナベティ	ノザンホースパーク	0	41.91
6位	池谷	北岡	北大(3)	0	45.45
13位	一色	北岡	北大(4)	2	
18位	松井	岩竜	S46卒	5	
25位	吉村	北旋風	北大(2)	8	
29位	山川	北椎	北大(2)	13	
2反E	宮本	北椎	北大(2)		

☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技A 一般の部				成績時間
1位	山口	ミミコシヤス	ライディングファーム7セ	73.18
2位	谷口	北煌	北大(2)	78.48
3位	松井	岩竜	S46卒	78.69
11位	林	北煌	北大(4)	99.69

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技D 一般の部				成績時間
1位	近藤	サントライト	コントウファームライディングジム	68.00
2位	小島	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ	70.78
3位	春田	マカオコン	モゼライディングファーム	74.30
8位	松井	タイマシヤル	S46卒	83.09
10位	松井	オノミドリ	S46卒	89.26

●第52回北海道体育大会兼第61回国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会

(於 ノーザンホースパーク 8月11日～13日)

☆標準中障害飛越競技D 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	相田	モンテグェルダ	モットライディングファーム	0	32.02
2位	会田	ミス・アリエル	北星乗馬クラブ	4	
3位	森	柏咲	帯広畜産大学	5	
2反E	松井	タイキマ・シャル	S46卒		

☆標準中障害飛越競技C 一般の部				減点	タイム
1位	岩坪	モンテグェルダ	モットライディングファーム	5	84.30
2位	高野	グィクトワール	S41卒	7	92.24
3位	林	北風	北大(4)	8	82.29
4位	一色	北碁	北大(4)	9	101.36
6位	住江	エルグレイ	北大(3)	14	91.17

☆標準小障害飛越競技BⅠ 一般の部				減点	タイム
1位	高野	カハドス	S41卒	0	58.19
2位	高樽	ブライダグ-リック	ライディングファーム・フェ	0	60.41
3位	中村	ユウジン	旭川乗馬倶楽部	3	74.13

☆標準小障害飛越競技A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	森下	ハニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	34.79
2位	松井	柏風	帯広畜産大学	0	55.38
3位	相田	モンテグェルダ	モットライディングファーム	1	
4位	高野	カハドス	S41卒	4	
5位	前田	北遼	H18卒	4	
7位	宮本	北遼	北大(2)	4	
9位	小島	北椎	北大(2)	6	
12位	林	北煌	北大(4)	8	
13位	吉村	北煌	北大(2)	9	
2反E	池谷	北因	北大(3)		
2反E	関田	北椎	北大(4)		
2反E	山川	北因	北大(2)		

☆トップスコア競技				総得点	タイム
1位	高野	グィクトワール	S41卒	1000	65.43
2位	宮永	ハネダグ-バン	立教大学	970	69.90
3位	伊藤	ユウハク	酪農学園大学	900	68.41
6位	松井	岩竜	S46卒	690	66.83

☆六段障害飛越競技				クリアラウンド	
1位	松井	岩竜	S46卒	150cm	
2位	高野	グィクトワール	S41卒	130cm	
2位	荻野	アラビアンキ-	グィクトリ-ライディングクラブ	130cm	

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技 C 一般の部				成績時間
1位	高野	ウイクトワ-ル	S4 1卒	62.77
2位	岩坪	モンテグ'エルダ'	モセライデ'イング'ファ-ム	62.95
3位	岩本	ハ'ルツ'ス	JRA 日高育成牧場	68.72

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技 B 一般の部				成績時間
1位	春田	マチカネコソ	モセライデ'イング'ファ-ム	74.67
2位	住江	エルク'レイ	北大(3)	97.22
E	高野	ウイクトワ-ル	S4 1卒	

☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技 A				成績時間
1位	宮竹	リトキング'タム	帯広農業高校	54.17
2位	森川	リッキー	ノ'ザン'ホ-ホ'ク	56.54
3位	高野	カルバト'ス	S4 1卒	61.07
1 1位	宮本	北遥	北大(2)	80.59
1 2位	前田	北遥	H1 8卒	84.57
1 3位	吉村	北煌	北大(2)	94.90
2 反 E	谷山	北椎	北大(3)	
2 反 E	関田	北椎	北大(4)	
2 反 E	山中	北煌	北大(2)	

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技 D 一般の部				成績時間
1位	相田	モンテグ'エルダ'	モセライデ'イング'ファ-ム	58.26
2位	高野	カルバト'ス	S4 1卒	63.27
3位	石谷	ブ'ライトグ'-リッパ	ライデ'イング'ファ-ム'フセ	65.55
8位	松井	タイキマ-シヤル	S4 6卒	86.34
2 反 E	一色	北因	北大(4)	
2 反 E	池谷	北因	北大(3)	

☆ツースター馬場馬術競技 A				得点率
1位	中川	エ'レストライマ	酪農学園大学	54.000
2位	鈴木	柏海	帯広畜産大学	50.800
3位	玉井	柏蒼	帯広畜産大学	49.067
1 0位	関田	北椎	北大(4)	46.933
1 2位	林	北風	北大(4)	46.000

●第42回北日本学生馬術大会（於 南相馬市馬事公苑 8月30日～9月3日）

☆学生賞典障害飛越競技				一走目減点	二走目減点	総減点
1位	安井	サングル	岩手医科大学	0	0	0
2位	玉井	伯爵	帯広畜産大学	0	4	4
3位	松田	柏鳳	帯広畜産大学	0	4	4
4位	一色	北彗	北大（4）	7	0	7
5位	杉山	チャレンジ8	酪農学園大学	4	4	8
6位	森	柏嶺	帯広畜産大学	4	4	8
7位	鈴木	柏海	帯広畜産大学	4	8	12
8位	高橋	ウラン	岩手大学	8	4	12
9位	松谷	雪雷	北里大学	4	12	16
10位	佐藤	フロンティア	岩手大学	12	4	16
11位	菊地	パワーステーション	東北学院大学	12	8	20
12位	西本	テリオ	酪農学園大学	25	0	25
13位	道下	トホトップ	岩手大学	12	17	29
E	林	北鳳	北大（4）	3反E	—	—
E	久保	北旋風	北大（4）	落馬E	—	—
E	谷口	北翔	北大（2）	3反E	12	—
E	住江	エグレイ	北大（3）	3反E	45秒E	—

☆学生賞典総合馬術競技				関教減点	耐久減点	余力減点
1位	玉井	伯爵	帯広畜産大学	74.1	0.0	0.0
2位	鈴木	柏海	帯広畜産大学	73.1	0.0	8.0
3位	高橋	ウラン	岩手大学	66.4	0.0	20.0
4位	松田	柏鳳	帯広畜産大学	66.7	0.0	28.0
5位	森	柏嶺	帯広畜産大学	73.0	20.0	4.0
6位	一色	北彗	北大（4）	73.0	0.0	26.0
7位	森	柏咲	帯広畜産大学	75.8	22.4	8.0
8位	玉井	柏蒼	帯広畜産大学	67.3	48.8	8.0
9位	佐藤	フロンティア	岩手大学	76.9	35.2	21.0
10位	杉山	チャレンジ8	酪農学園大学	72.9	74.2	32.0
E	林	北鳳	北大（4）	80.6	98.8	3反E
E	久保	北旋風	北大（4）	八行E	—	—
E	池谷	北閃	北大（3）	84.3	5反E	—
open	関田	北椎	北大（4）	78.2	—	—

☆小障害飛越競技A				減点	J.O.タイム
1位	山中	エグレイ	北大（2）	0	27.42
2位	川上	ウラン	岩手大学	0	28.23
3位	尾形	トホトップ	岩手大学	0	29.15
3反E	吉村	北鳳	北大（2）		
3反E	池谷	北閃	北大（3）		
落馬E	山川	北閃	北大（2）		

☆小障害飛越競技 B				減点	タイム
1位	渡辺	ト・初トッブ	岩手大学	0	52.64
2位	佐藤	雪鈴	北里大学	3	68.05
3位	高桑	ロイズジュニア	帯広畜産大学	4	56.56
3反E	関田	北椎	北大(4)		
open	谷口	北煌	北大(2)	4	56.85
open	林	北煌	北大(4)	10	81.98

●第20回北海道秋季馬術大会(於 ノーザンホースパーク 9月15日～17日)

☆標準小障害飛越競技D 一般の部				減点	タイム
1位	相田	モンテグ'エリテ'	トビライディング'ファーム	0	77.99
2位	下田	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ'	8	74.98
3位	森川	リッキー	ノーザンホースパーク	12	73.64
2反E	松井	タイマシヤル	S46卒		

☆標準小障害飛越競技A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	石谷	ミナミゴ'ジヤス	ライディング'ファーム・フセ	0	38.13
2位	百瀬	タイケム	トビライディング'ファーム	0	45.45
3位	森	レインボ'カラ-	帯広畜産大学	0	51.59
15位	谷口	北煌	北大(2)	12	
経路E	松井	タイマシヤル	S46卒		

☆標準小障害飛越競技B I				減点	タイム
1位	弘川	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ'	0	56.44
2位	中垣	ル'エリ	ライディング'ファーム・フセ	0	59.27
3位	瀬川	スプ'ラッシュェット	ノーザンホースパーク	0	60.94
9位	山川	北因	北大(2)	0	76.51
13位	小島	北椎	北大(2)	6	88.69

☆標準小障害飛越競技B II				減点	タイム
1位	中垣	ジ'ヤック	ライディング'ファーム・フセ	0	50.20
2位	内布	ワンボ'イント	ノーザンホースパーク	0	52.78
3位	松本	トウカイボ'イント	ノーザンホースパーク	0	56.20
8位	山中	北椎	北大(2)	0	61.43
19位	小島	北椎	北大(2)	8	74.31

☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技 A 一般の部				減点	タイム
1位	石谷	ミナミゴ'ジヤス	ライディング'ファーム・フセ	0	59.05
2位	森下	バ'ニラシェイ	北星乗馬クラブ'	0	68.48
3位	大塚	柏華	帯広畜産大学	0	69.62
13位	山川	北因	北大(2)	8	103.45

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技D 一般の部				成績時間
1位	春田	マカ初コソ	モモライディングファーム	59.41
2位	相田	モンゲェル'	モモライディングファーム	61.84
3位	下田	トカチアラス	十勝柏友会乗馬クラブ'	67.02
4位	松井	キノミドリ	S46卒	81.56
2反E	松井	タイキマシキ	S46卒	

☆ツースター馬場馬術競技A I				得点率
1位	中川	ヤマノファンム	酪農学園大学	56.000
2位	川畑	ヤマノファンム	酪農学園大学	53.200
3位	松田	柏風	帯広畜産大学	50.400
4位	谷山	北椎	北大(3)	45.333

☆一般第2課目馬場馬術競技II				得点率
1位	伊藤	緑夏	酪農学園大学	53.725
2位	庄子	デ'イビ'-グロ-	旭川乗馬クラブ'	53.333
3位	菅	デ'イビ'-グロ-	旭川乗馬クラブ'	53.137
4位	谷口	北燧	北大(2)	50.000

●OB戦 (於 北海道大学 10月8日)

☆障害飛越競技120cmクラス				減点	タイム
1位	一色	北慧	北大(4)	14	145.92

☆障害飛越競技110cmクラス				減点	タイム
1位	住江	エウレイ	北大(3)	0	113.87

☆障害飛越競技100cmクラス				減点	タイム
1位	山川	北閃	北大(2)	0	113.45
落馬E	吉村	北風	北大(2)		

☆障害飛越競技80cmクラス				減点	タイム
1位	谷口	北燧	北大(2)	0	116.78
2位	小島	北椎	北大(2)	4	123.89
3位	住江	北遥	北大(3)	4	140.34

☆クロスバー競技

1位	内山	北煌	北大(1)
2位	武藤	北閃	北大(1)
3位	野村	北閃	北大(1)
	山西	北椎	北大(1)
	村木	北風	北大(1)
	長谷川	北閃	北大(1)
	斎藤	北椎	北大(1)
	真田	北煌	北大(1)
	平野	北風	北大(1)
	榊	北椎	北大(1)
	鈴木	北遥	北大(1)
	田中	北煌	北大(1)
	竹田	北風	H16卒
	日野	北遥	H18卒

☆リレー競技

1位	チーム九州	吉村	エルグレイ	北大(2)
		馬場	北煌	H17卒
		日野	北閃	H18卒
		中田	北終	H9卒
2位	現役チーム	武藤	エルグレイ	北大(1)
		野村	北煌	北大(1)
		内山	北閃	北大(1)
		山中	北終	北大(2)
3位	チーム	高島	エルグレイ	H16卒
		園井	北煌	H15卒
		関田	北閃	北大(4)
		前田	北終	H18卒

●モモセダービー (於 モモセライディングファーム 10月14日)

☆障害飛越競技100cmクラス				減点	J.O.タイム
1位	相田	モンテヴェルデ	モモセライディングファーム	0	64.41
2位	高橋	ルージュエリ	ライディングファーム・フセ	0	66.53
3位	鈴木	タイナタム	モモセライディングファーム	0	70.53
5位	松井	キナミドリ	S46卒	4	
12位	松井	タイマシヤル	S46卒	8	

☆障害飛越競技70cmクラス				減点	タイム
1位	佐々木	ジャック	ライディングファーム・7他	0	64.22
2位	西原	ライジングハート	ライディングファーム	0	68.40
3位	佐々木	ルージュ	ライディングファーム・7他	0	70.50
5位	山中	エレブ	北大(2)	0	80.34
6位	松井	タイマ-シヤ	S46卒	0	91.47
7位	小島	ボ-ル'ブライア	北大(2)	0	92.84
8位	宮本	タイナム	北大(2)	0	92.94

☆ジムカーナ競技 北大の部				ジムカーナ減点	50cmクラス減点	タイム
1位	榎	エレブ	北大(1)	0	0	35.85
2位	山西	ボ-ル'ブライア	北大(1)	0	0	40.41
3位	平野	ストレイパルキ	北大(1)	0	0	43.62
4位	真田	エレブ	北大(1)	0	0	44.72
5位	長谷川	ストレイパルキ	北大(1)	0	0	49.34
6位	田中	ボ-ル'ブライア	北大(1)	0	4	
7位	内山	ストレイパルキ	北大(1)	0	落馬E	
8位	斎藤	エレブ	北大(1)	4		
8位	村木	ストレイパルキ	北大(1)	4		

●第27回山下杯・河田杯記念馬術大会(於 酪農学園大学 10月15日)

☆障害飛越競技100cmクラス				減点	タイム
1位	吉村	北風	北大(2)	0	50.32
2位	山中	北煌	北大(2)	4	73.34
3位	宮本	イフジコンドル	北大(2)	4	75.91
5位	谷口	北煌	北大(2)	9	79.50

☆障害飛越競技80cmクラス				減点	タイム
1位	小守	チヨ	ホ-ルホ-スコミュ-ン	0	47.03
2位	小島	北椎	北大(2)	0	55.13
3位	佐藤	マキシムブレイス	北大水産学部	0	55.77
3反E	寺野	イフジコンドル	北大水産学部		

☆障害飛越競技60cmクラス				減点	タイム
1位	笠原	イフジコンドル	北大水産学部	0	61.69
2位	森谷	緑春	北大水産学部	0	73.31
3位	武藤	北椎	北大(1)	0	55.14
4位	岡村	マキシムブレイス	北大水産学部	4	80.69

☆障害飛越競技クロスパー競技				減点	タイム
1位	金川	緑春	北大水産学部	0	64.75
2位	坂上	イフジコンドル	酪農学園大学	0	62.34
3位	赤間	マキシムブレイス	北大水産学部	0	70.50
4位	内山	北風	北大(1)	0	52.28

☆ジムカーナ				タイム
1位	牟岐	ヤマノアントム	酪農学園大学	59.03
2位	伊比	ブラッカジーンズ	酪農学園大学	62.48
3位	岡本	ヤマノアントム	酪農学園大学	62.88
7位	平野	ヤマノアントム	北大(1)	85.47
8位	村木	緑春	北大(1)	87.51

●第26回北海道地区乗馬スポーツ少年団交流馬術大会兼第28回札幌地区乗馬大会

(於 北星乗馬クラブ・札幌乗馬倶楽部馬場 10月22日)

☆一般第2課目馬場馬術競技				得点率
1位	金田	ウモス・ハ	北星乗馬クラブ	56.176
2位	田島	ワン・ド・ステラ	北星乗馬クラブ	55.294
3位	青野	ブラザ	北星乗馬クラブ	54.706
9位	谷口	北煌	北大(2)	52.941
11位	住江	北遥	北大(3)	49.706

☆標準小障害飛越競技C 一般の部				減点	タイム
1位	小島	北椎	北大(2)	0	72.07
2位	住江	北遥	北大(3)	0	68.66
3位	西原	ライジング・ハート	モモライディングファーム	0	67.70
4位	谷口	北煌	北大(2)	1	74.49

☆小障害飛越競技 一般の部				減点	タイム
1位	岡本	マキシム・レイズ	酪農学園大学	0	81.50
2位	野村	北煌	北大(1)	0	82.53
3位	水沼	ハリ	北星乗馬クラブ	0	85.63
7位	鈴木	北椎	北大(1)	0	69.90
8位	長谷川	北椎	北大(1)	4	89.16

●第56回全日本学生馬術大会(於 JRA馬事公苑 10月31日～11月5日)

☆学生賞典障害飛越競技				一走目減点	二走目減点	総減点
1位	平原	ジャスコティ	大阪体育大学	0	1	1
2位	安井	ザ・イン・グール	岩手医科大学	4	0	4
3位	岩崎	桜春	日本大学	4	0	4
9位	森	柏嶺	帯広畜産大学	8	4	12
12位	松田	柏嵐	帯広畜産大学	4	8	12
22位	一色	北登	北大(4)	4	14	18
24位	玉井	柏爵	帯広畜産大学	4	16	20
49位	鈴木	柏海	帯広畜産大学	32	16	48
	西本	テリオ	酪農学園大学	32	3反E	—
	杉山	チャレンジャー8	酪農学園大学	落馬E	—	—

☆学生貨典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	林	明商	明治大学	51.5	0	4	55.5
2位	佐藤	明政	明治大学	50.0	0	8	58.0
3位	中島	桜輝	日本大学	58.5	0	0	58.5
15位	森	柏嶺	帯広畜産大学	80.7	0	0	80.7
20位	玉井	伯爵	帯広畜産大学	72.0	20.0	4	96.0
26位	鈴木	柏海	帯広畜産大学	85.7	33.6	8	127.3
42位	一色	北彗	北大(4)	86.8	148.2	4	233.6

●第46回北日本学生馬場馬術定期新人戦(於 東北大学 11月18日)

参加選手 内山(1) 斎藤(1) 鈴木(1)

予選Aグループ

- 1位 東北大学
- 2位 岩手大学
- 3位 北海道大学(予選敗退)

●第29回国立大学対抗馬術大会(於 群馬県馬事公苑 13月3日)

参加選手 山中(2) 吉村(2)

予選Aブロック

- 1位 筑波大学
- 2位 北海道大学(予選敗退)
- 3位 東北大学(予選敗退)

腹へ一口様大歓迎

生肉各種 500円~650円

ハラかつ丼 カツ丼 牛カルビ-丼 伊勢物各種

定食各種 650円~730円

回鍋肉 肉野菜炒め 手キンカツ 他定食各種

制精度 制精度 北大生御用達の店

北の密の 大富屋

AM11:30~2:30 PM5:00~10:30

北21条西4丁目北大通り沿い

◇調教報告◇

北旋風（トルネードダンサー）



セン サラ 鹿毛
平成 2 年 3 月 26 日生
北海道沙流郡門別産
父 アスワン
母 ティーjeeブイ
平成 5 年 9 月 4 日入厩

調教報告

久保 裕道

トルは僕が乗ることに決まった時点である意味でできあがった馬であったので正直調教したというよりは馬と人の関係を作ることにほとんどの時間を費やしたように思う。という訳なので今回はそのことを中心に書いてみようと思う。

僕とトルがきちんと運動を始めたのは 2 月頃からである。それまでは引き継いだ時点で落ちていた筋肉を戻すこともできず、僕自身の騎乗者としての能力が相当欠けていたこと、また上手に調馬策をまわすこともできなかったこともあり、故障を繰り返していたのである。それが解決されてきたのはオフシーズン中最後の故障明けからで、調馬策さえリズムよく元気にまわせれば騎乗しなくても馬の身体が作れるであろうという考えに至ったことが大きかった。結果的にこの考え方が成功し雪の中しっかりと圧雪し丸馬場のなかでひたすら調馬策を回しているうちに最低限の身体ができてきたと思っている。この考え方はシーズン中にも活き、調子が下降線の時は跨らずに調馬策オンリーで調節していくとよい状態が作れたということが多かった。あとは馬との関係ができてきたことも一因であったと思う。たとえば調馬策をまわしている間でも僕の声・舌鼓・口笛にしっかり反応できる状態が出来上がりつつあった点である。このような関係をつくるには曳き運動や手入れが重要であったように思う。結論から言ってしまうえば正直僕のような下手くそでは乗っている時よりも降りている時のほうが馬に対して自分の意志を伝えやすく、人と馬との関係作りにも最も必要であろう「よいことをしたらよく褒める」、またその対である「いけないことをしたら叱る」がやりやすかった。また叱るのはあくまでも褒めるためであるという認識を僕が忘れずに接し続けることができたこともあったと思う。乗馬として馬がハッピーな状態を作るには甘やかすだけではおそらく無理で（叱るだけは論外）人と馬との信頼関係ができていくことが両方にとってハッピーな状態への近道であると思うし、そのためには人から馬に対して誠実に且つ真摯に取り組んでいくことが大事であると思う。

雪が解けてからは乗り始めたもののうまいことがいかず調馬策だけに戻ってみたいとい

う日が続いた。この状況を打開できたのは調馬策の際に故障を恐れずしっかりと前に出そうとしてからである。それまでは故障続きであったことを気にして“元気よく”をイメージしていても駆歩が出てもすぐ速歩に落としたりとしていたが後から振り返ってみると駆歩がでるのは馬がやる気と動けることをアピールしていたようにも思うし（本当に駄目な時に駆歩はでなかった）、またおそらくではあるが馬は速歩よりも駆歩のほうが運動しやすいのではと思う（放牧されている馬を見ているとそのような気がする）。指示も出してないのに駆歩がでたら速歩に落として躓をとという年齢でもない僕の中で断定し（もちろん頃合を見て速歩には落とした）リズムを最重点に置いた中でかなり元気よく調馬策をまわしたところ、それまでよりもずっと身体が解れるようになりそれから後は乗ってからも以前よりはやりやすくなった。また調馬策の際の“元気よく”には運動前の曳き運動がうまくできているかどうか重要であった。この時点で集中してある程度踏み込んで歩かせないと調馬策の時間が延びてしまいあまり馬にとってハッピーではない状況ができてしまうからである（人が乗らない調馬策の時間が長くなってしまおうとトルは飽きてくる為）。そしてそのためには普段の曳き運動が大事になってくる。これは声や舌鼓に対する反応はもちろん人の立ち位置、曳き綱を持つ拳の位置、それに対して馬が頭をどこに置こうとするか、馬の耳はどちらを向いているか等々チェックする点はいくつもあると思う。後は曳き運動をしている時とただ移動のための曳き馬の時では人の振る舞いに差をつけたりもした。曳き運動に関して僕は下級生の時から意識してやっていたし、何よりも新馬の曳き運動をやっていた経験が活きたのか割とスムーズにうまいことできたと思う。

続いて（やっど？）騎乗編である。調馬策で馬が解せる様になっても脚が思うように効かない、元気すぎて制御しきれない、頭を上げて運動にならない等々多くの問題を抱えていて一つずつ解決していかなければならなかった。頭の位置に関してはハミを受けて下げていくなんてことは最初からできなかったのでゴーグを使った。その中で一定の軟らかいコンタクトを意識し外方に関しては引っ張りもしなければ弛ませもしない、つまり人の拳と馬の口が一体になるように心がけた。この点に関しては以上のことを気にすることでとりあえずは解決された（後になってさらに改善することにはなるが）。脚の効きと制御に関しては僕がトルに伝わるように脚が使えていないこと、脚を使うリズムが悪いこと、まっすぐに乗れていないこと、トルが脚に対して反応しなければいけないと感じていなきようなことなどが原因であったと思う。人のバランスに関しては日々の練習はもちろんであるがそれとは別に自分の体がいがんでいるという結論にも達した。そこで整体に行ってみると筋肉の酷使のし過ぎで張りが生じ、体が左側に落ちやすい状態（立っているだけでも）ができていることがわかった。そして治療しながら意識して練習していくと全く上手いことがいかなかった時と比べてはるかにまっすぐに乗れているように感じた。馬に乗ってバランスがうまく取れない人の中にはこのような人もいるかもしれないので自分で感じるものがあれば見てもらったほうがよいと思う。やや脱線してしまったが話を戻して次は最も問題であった脚に対する反応に関してである。まず何よりも十分な推進を与えることを心がけた。このことは最初からしていたことであるが自分の経験から言うと何か新しく試してみる時や失敗した後という時は大抵推進が足りなくなまま運動してしまう傾向があったので乗っている時は何よりも心がけた。次に脚を使うリズムに関して。これは正直試

している中でなんとなくわかってきた感じであった。詳しく言うと馬からどのような反応が返ってくるか、折り合いはどうか、馬が気分良さそうかななどを敏感に察するようにすればクリアできたという感じであった。あとトルに関して何らかの原因で脚に対する反応が鈍くなった際に反応をよくするには、そちら側の脚を使った前肢旋回を正姿勢、逆姿勢を問わず繰り返すこと（しつこくならない程度に）が効果的であった。

以上のようにしていく中でやっとまともに運動に入っていくことができるようになった。上記のことに気をつけながらしっかりと常歩をさせた中で巻き乗り、前肢旋回、斜め横足とどんどん後肢を踏み込ませていけば速歩、駆歩とよい運動ができるようになった。ただトルに関しては速歩で運動するとイレギュラーが入ることが多かったため、しっかりと常歩をさせると速歩は歩様を確認する程度にして駆歩に入るようにした。

次は障害編である。トルは障害に関しては人が自信を持って練習できたのだが、馬のほうから見ると高い障害に関してはやや自信を失くしているようだと言われた。というのも例えば経路中に間歩が合っているようでももう一步馬があわせてから真上に高く飛び、結果として経路廻りがちぐはぐになるという感じだったからである。ということでその自信を取り戻すべくコンビネーション障害を繰り返した。最初はどのような間歩で障害を組むか、高さをどれくらいにすればいいのかが掴めなかったので苦勞したが最終的に最初はバウンスから入ってリズムを作ってから高いのを飛ばすのがトルには合っているという結論に達した。このような練習を週 2 回（あまり丈夫ではなくなってきたので）やっていくと自信を取り戻したのか無理に一步を入れることはなくなった。このことと並行して行ったのは馬に一步入れさせてしまう原因の排除である。結果からいうと原因は何とか制御しようという人の心であった。元氣よく運動させてるつもりだったという言葉が適していると思う。準備運動でも経路を廻ってくるために制御すること、折り合いをつけることを中心にしていたが、このことがトルの売りであるダイナミックな動きを引き出せない要因になっていた。気がついてからは走られようが折り合いを欠こうがとりあえず元氣よくさせてその中で馬と折り合いをつけていくというような練習をしているとうまくいくようになっていき、前述の問題をクリアできるようになった。

というようなことを 6 月中頃までしていた。結果としては馬の調子が上がっていき、精神的にもおそらくハッピーな状態を保って、経路を回れば 120cm より低ければ完璧といわずとも帰ってこれる状態になっていたと思う。しかし 120cm 以上になると単独やコンビネーションでは問題ないが経路になると飛越が安定せず障害間もあまりよくいかないという状態であった。

この状態より 1 ランク上の状態つまり高さが上がって 120cm でも 130cm でも安定して帰ってこれるようになるためにということで取り入れたのが今まで保留にしていたハミ受けである。上で述べたコンタクトのみを意識したやり方では障害間で馬がのびてしまい、高い障害を飛ぶためのパワーを十分に溜められなかったことが飛越の不安定さに出ているということであった。というわけで試してみたところハミ受けがきちんとできていたかは結局最後までわからなかったが拳とハミの関係で何かをするためのエネルギーをためるといふ感じのことは意外に簡単にできた。このことを踏まえて準備運動をしてから経路を回るとずいぶんと安定してきたように思う。またこの拳とハミの関係を意識することによって

どんな運動をする際にも何もかもが安定してきたような気がする。

以上のことができるようになってからは北日に向けて状態を作るだけであった。馬も健康そのものであったし、乗り始めたころとは違い基本的に従順で、体も楽に解れるようになっていたし筋肉も十分についていた。本番の一ヵ月前に帯広に野外の練習（主に人の）にいても問題がなかったし、馬体にもダメージがなかった。正直絶好調であったし、二走と総合の両方で権利を取れるだろうぐらいのテンションで福島に乗り込むことができた。

しかしである。福島に着いたトルは跛行してしまっていた。長距離輸送のダメージが大きかったのか、輸送中に捻ったのか、これまでの運動でダメージがありそれが現れたのかはわからないがとにかく跛行していた。調べてみると右腰を痛めており大会に出場できないかもと個人的に思ってしまう状態であった。調馬策を回そうにも左手前では普通だが右手前では運動すること自体を拒否した。さすがに無理かなと思ったもののどうにかフレンドリーまでにはそれが若干解消され出場できるかなという状態にはなっていた。しかし二走でもトルにいつもの前に行く感じが戻らずトリプルの前での推進にもいつもの反応が全くなくトリプルで捉まり落馬してしまった。総合も予想通りではあったが審判に止められてしまった。

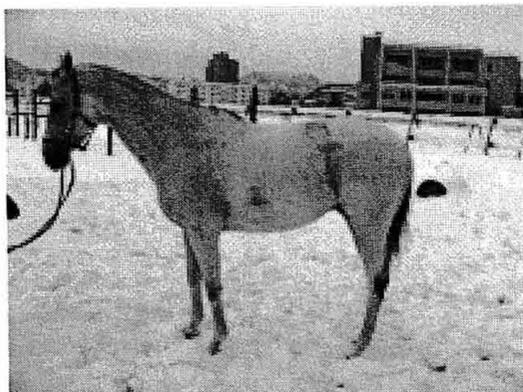
そんな状態でもトルは飛んでくれたし、できるかぎり精一杯のことしてくれた。トリプルに関しては一歩のところをほとんど止まってからも二歩目を入れて飛んでくれた。むしろそれにしがみついていた自分が情けないし、跛行に気付いてからもっとできることがあったのではと思うとトルに申し訳ない気持ちで一杯である。

正直最後はショックな結末になってしまいましたが、下手くそなりに一年間しっかり考えて馬を作っていたことには満足しています。トルは傷を癒してから来年もがんばることが決まりました。来年は北海道開催であるし傷が癒え万全の状態ができればまだまだがんばれると思います。

最後に、こんな下手くそな僕にも最後までサポートしていただいた先輩、ドンパ、後輩の皆様本当にありがとうございました。特に竹田兄には忙しい中顔を出してもらう度的確なアドバイスを頂き、それがなければ全く馬を作れないまま終わっていたと思います。これからは皆様に与えていただいたものを還元していこうと思います。ありがとうございました。



北彗 (メジロゲネシス)



セン サラ 芦毛
平成5年5月30日生
北海道伊達市産
父 メジロティターン
母 メジロマリア
平成10年11月8日入厩

調教報告

一色 真明

今年は何とか全日学二走で入賞でき、いい結果を報告することができて本当によかった。しかし、去年の調教報告で書いたように今年目標は優秀馬匹賞、つまり二走と総合で入賞だった。後輩に総合の権利枠を増やしてこれなかったことを非常に申し訳なく思う。

今季は障害や野外などで多くのことはせず、フラットワークが中心で一貫していた。よって今回は時間軸にそって話を進めていこうと思う。報告というより回想のように、また長々となってしまったこと、ご容赦下さい。

<はじめに…>

今季の最初の問題はまず、昨シーズンの全日学で跛行をとられてしまったことである。肩の動きで跛行をとられたようである。去年の部報にも書いたが、原因はわからない部分が多い。確かに腰は嫌がっているようではあるので、冬の間は完全に曳き運動のみで休ませることにした。

乗り始めたのは地面が見えてきてから。最初はゆっくり調馬策からはじめた。なるべく急に負担をかけないように。腰の状態は結局、全日学とあまり変化はなかったように思う。春先、障害はせず、きちんとフラットワークをすることを心がけた。まずは放棄手綱で常歩をしっかり大きく歩かせ、徐々に手綱をとっていく。停止に始まり、肩内腰内まで常歩で行う。最初のころは頭頸はあまり意識せず、しっかりと脚、騎座に反応するような関係作りを心がけた。このフラットワークは最後の全日学まで続いた。

本来、春先からは、コンビネーションなどの障害をどんどんやっていきたいところではあるが、今年あまりやらなかった。今年北日学が八月末と遅く、そこで権利を取ればいい。昨年、全日学の二走目を減点4でかえってきた自信もあった。何よりもゲネの体のほうが心配だった。なので、障害はあせらず、ゆっくり必要最低限のことだけやっていくことにした。

<半澤杯 5/3,4>

そのため、半澤杯は複合の2スターにのみ出場した。これは冬の間休ませて、その後の

競技での跛行の具合を客観的に見てもらいたかったためである。競技後に審判の方から跛行を指摘されてしまった。今回は、腰が悪いのではないかといわれた。普段の練習ではなんともないのに馬場ラチの中で競技会の雰囲気を感じてしまうと歩毎に巻き込んだり首を振ろうとしたりして跛行しているように見えるのではないかと。確かに腰を痛がっているが、ゲネは元々腰が弱く、長年の金属疲労のようなものでしっかりケアしてうまく付き合っていくしかないのではないだろうか。

乗り始めてからなのだが、今季はなるべく正反動はしないようにした。ゲネの場合、常歩できちんと運動できれば、速歩の運動も問題なくできると考えた。北日、全日学で跛行をとられないようにすることだけを考えて。いつもやっているフラットワークをメインに脚に従うように心がけて常歩で肩内腰内の練習をした。ゲネの場合、肩内は内方脚で腰を蹄跡まで押し出し、まっすぐ歩かせること、外方手綱でリードしていくことが大切だと思う。腰内はまず、内方脚で内方姿勢を作ってあげることが大切ではないだろうか。最初は馬場ラチ沿いで、徐々にラチ無しで鏡に向かって運動し姿勢を確認した。

<春季大会 6/9-11>

半澤杯後からは少し障害も始めた。コンビネーションでモノ障害も飛ばせたが、大体はフラットワークの延長線上で駆歩の輪乗りの中に垂直(たまにオクサー)を置いて常に一定のリズムで飛ぶ練習をした。最初は少し走ったものの、すぐに落ち着いてまわるようになった。

そうして向かえた今季初の障害の試合では1落下こそしたものの、人も馬も半年振りの試合にしては上出来だったと思う。昨季からのいいイメージが続いていた。ぶら下がらず、馬を起こして脚でしっかりはさんで推進し、後は待っていれば飛んでくれる。変に踏み切りは読まないようにした。ゲネを信じて待っているだけ。ただ、今回の1落下は、垂直→オクサーのラインで垂直を詰まって飛んで、オクサーに向けて次の一歩目を大きく出そうと追い出したが、ゲネがバランスを崩してしまい、オクサーの入りが悪くなってしまい落下した。障害後は、しっかり座ってバランスバックして推進することが大切だと言われた。

この大会の後から、普段の練習において駆歩で収縮伸長を大げさなくらいメリハリをつけて行うようにした。この時、しっかり座って手綱にはぶら下がらないように、かつ、しっかりと馬体起こすように心がけた。これにより柔軟にバランスバック、伸長収縮が行えるようになって来た。

<北日学 8/30-9/3>

北日学に向けては、最低限野外の練習をした。ゲネが福島の野外コースで特に前もって練習しないといけないのはカフィンと池への飛び込み障害くらいだと思う。馬場横の池(水たまり?)に障害を置いて飛び込みの練習した。あとは普通にバンケットくらいか。シャンボンを使った調馬索だけの日も多く入れていった。とにかく、馬体の安全が第一。跛行さえとられなければ、大丈夫だと信じて北日学を迎えた。

まず、障害では例年通り難解な経路だった。なんでもないような回転が実は難しかったり障害間の距離が微妙だったり。しっかり下見でここは何歩でいくかを考えていかないと

いけない。それを試合で行うためには普段の練習や試合で常に障害間を意識しておくことが必要だと思う。今回は特に最後の垂直→トリプルの6.5歩ここで失敗すると次のトリプルでAは飛べても、その後続かなくなってしまう。で、自分はどうだったかということ、一走目、120の感じでいくと案の定回転直後の2番でとまられた。130用にエンジンがかかりきっていなかった。きれいに回ろうとしすぎていた。とまった後はエンジンもかかってきて無事通過。最後は起こして7歩でいった。二走目は反省してスタートからかなり出していた。そのまま6歩でトリプルに入って減点0。出した分、前にかかっていきそうで、ぶら下がらずに馬を起こすバランスが難しい。まだまだ改善しないといけないと思う。

調教審査は競技前にしっかり調馬索をかけて、派手に狙わず、無難に無難に目を付けられない様におとなしくまとめようとした。しかし、頭頸をまとめていくとどうも跛行しているように見えるらしく、速歩区間が終わってから審判に注意を受けた。失権はしなかったものの、不安の残る調教審査だった。

翌日、耐久審査はまず、スタートは意外なほど落ちついていた。障害も特に問題なし。各障害のポイントをおさえおけばいいと思う。課題はベース抑えすぎるとタイム減点、出そうとすると暴走気味になってしまう。北日学は多少走られてもクリアできるが、全日学では厳しいと思う。インスペクションはなんとか無事通過できた。北海道の他大学の方も一緒に通過を喜んでくれ、本当に嬉しかった。

余力は一走目と同じ失敗をしてしまった。動いて無さすぎ。意識が甘かった。

<全日学 10/31-11/5>

今年は北日学の日程が遅く全日学まであまり余裕は無かった。ただ木村兄が来札された際に経路練習を見ていただき、いいリズムでの走行のイメージがつかめた。また、今年から二走に水濛が入るということでビニールシート(擬似水濛)とトイレトペーパー(擬似着地板)を使って馴致をした。野外用にはなるべく幅の狭い障害とスキージャンプをバンケットに作って練習した。

馬事公苑に入厩してからは諸事情により競技当日まで乗り運動ができなかった。その分、毎日数時間曳き運動して、地下馬道や走路などの馴致をした。逆に輸送疲れも取れ、よかったのかもしれない。

ぶっつけ本番の一走目。それまでの馴致の効果もあってか、驚くほど落ち着いていた。初めての水濛も難なくクリア。水濛後の大きく270度回転してのレンガでリズムが崩れ(他の人馬もこのレンガで多くミスしてた)、その後のオクサーを落下こそしたものの、上出来の減点4だった。今振り返ると、二走目は人がプレッシャーを感じたのか動きが硬く、序盤から走行のリズムの悪かった。そのまま6番オクサーで突っ込んで止まってしまった。人馬ともに気合を入れなおしてリトライ。ゲネはそれで覚醒したのか、とびが非常に高くなった。人はそれについていくのが精一杯。上にあがりだした分、飛び幅は狭くなり、最後のトリプルは1歩2歩が2歩3歩になってしまった。それでも信じて起こして待っていると、ゲネは自分から飛んでくれた。6番でとまった後は結局無過失。総減点18で22位入賞できた。

翌々日は最大の難関、調教審査。巻き込み跛行を恐れて、やや首を高め速歩入場。審

判には止められなかったが、逆にキリンさん状態になってしまった。それでも速歩区間はそのまま誤魔化せばいいと思い、キリンさんのまま通過。駈歩区間から盛り返そうと思ったが、ゲネの馬場内での緊張具合は半端ではなかった。終わってみれば調教最下位。お恥ずかしい。もう少し速歩区間から持ち直していけばよかったのかもしれないが、失権することを考えるとなんとも言えない。失権しなかっただけでもよしとしよう。

ちなみに、自分の事は棚に上げて言うが、総合で結果を出したかったら、調教審査が勝負である。野外や余力でいかに減点が少なくても、調教審査が悪いと入賞圏内に届かないことは十分ある。最近更にその傾向が強くなったように思う。耐久、余力で減点 0 は当たり前(最低でもタイム減点のみ)。調教でいかに勝負するかである。そのため、近年、北日本全体の入賞が難しくなっている。障害が飛べるだけではもう全日学総合は通用しない。すでにこの時点で僕は勝負になっていなかった。

翌日、耐久審査は、スタートゲートでまたやってくれた。スタート時刻の数秒前にゴールしてきた馬がいて、それにつられてゲネは突然暴走。再度スタートゲートに入るのに一苦労だった。スタートを切った後は今度は大暴走。終始、暴走か抑えすぎでいいペースを作れなかった。終わってみれば 4 反抗。順調に行けば、今後のためにも放牧地の大きなスキジャンプにトライしたかったが、そんなレベルではなかった。これほど巻き込んで暴走するとなると、ハミの変更など馬装面でもなにか対策をとった方がいいかもしれない。全日学の耐久コースは年々幅の狭い障害やタイトなラインで、勢いだけでは回れなくなっている。しっかりと自分と馬の実力、そこまでの走行の流れなど様々な状況を考え、通るルートを的確に判断する必要がある。そのためにもコースの下見はできる限り何度も色々な状況を想定しながら行う必要がある。登場する障害は毎年同じようなものも多々あるので、自分たちで作って馴致するのもいいかもしれない。馬の調子を考慮しながらできる限り野外のコースを回ること。僕は 3 年間ゲネと総合に出てきたが、それでも今になってようやく野外のペースがわかってきたような気がするだけだ。なるべく野外を経験してもらいたい。

インスペクションは無事通過して、余力審査。二走目同様、上に高く飛んでついていくのに精一杯になり、十分前に出せなかった。結果は 1 落下。結局最後までしっかり経路で前を出していくことができなかった。ゲネの潔癖性は大きな武器だ。あとはいかに経路中、手綱にぶら下がらずいいリズムで元気よくいけるかがポイントだと思う。

最後に、僕がここまでの成績を残せたのも、ドンパをはじめとする部員の支えがあったからこそだと思います。林主将の代で結果を残せて本当に良かった。沖、宮本、ゲネの馬付本当にありがとう。君たちのおかげで競技に集中できました。特に宮本君、来季以降キミとゲネがこの舞台で活躍できることを楽しみにしています。

木村兄、3 年間本当にありがとうございました。思い悩んだ時も木村兄に支えていただいたからこそ今の僕とゲネがあると思います。4 年間木村兄が僕の目標でした。

ゲネ、きみはかわいいね。

もう跳ねちゃだめだぞ。体に悪いから。

疝痛に気をつけてあまり無理するなよ。若くないんだから。
これからも長く部員に馬術を教えてあげてくれ。
ここまで僕を高い舞台へ連れてきてくれてありがとう。
これだけ長くきみと一緒にすごせて本当に楽しかった。幸せだった。

4年間ありがとう。



北鳳 (ヤスノインディアン)



セン サラ 鹿毛
平成 8 年 4 月 29 日生
北海道三石郡三石町産
父 ダイヤモンドショール
母 ヒカリハード
平成 13 年 12 月 2 日入厩

調教報告

林 宣隆

ヤスの調教報告を見てみると、馬と人との関係作りという言葉が多く見られます。放牧しても 1 頭でいたり、集牧する時には逃げ回ってつかまらなかったりと気持ちが強い馬であったので、僕も代替わり後はその点から始めました。まず、なるべく多くの機会に外乗へ行き、慣れない雰囲気の中でヤスの馬上にいるようにしました。常に、人の指示を聞かせるようにするのです。彼は場の雰囲気に飲まれると、頭に血が上りパニックになる傾向があるので、まずはそうなったときの対処と、そのようなにならないような関係作りを心がけました。これは、連習後の常歩でも外回りの野外コースを使ってやりました。ついでに野外の拾い跳びもしました。

秋シーズンは人馬共に調子よく 110 のコースをコンスタントに回ってこられるようになりました。ただこの馬は、物が入った障害やオクサーの障害ではひるむのでしっかり前に出しておくことと、最後まで脚ではさんでおくことが大切でした。馬の管理の面では、なぜかこの時期に毎年毛が抜け 2 段階で冬毛になります。これは栄養面と関係があるかもしれないので注意してください。またこの時期は腰にもきやすいので腰毛布を早めにするといいと思います。

冬に入ると、人馬ともに基礎練習を主に行いました。鍔上げ正反動で八の字乗りと、前肢旋回、後肢旋回、巻き乗り、輪乗りの開閉をひたすら行いました。ヤスは左脚の反応が悪かったのでそれを重点にしましたが、この時期は人の練習により多くの時間を割いたと思います。ここでの基礎練習は後々大いに役に立ったと思います。というより、このような若い馬に乗るにはまず人がうまくなることが先決だと思います。

春シーズンに入ってもメニューはほとんど変えず、脚の反応を確実にすることと、さらにコンビネーションを取り入れました。コンビネーションではゆったりと馬を跳ばせることを意識しました。ヤスは体を硬くして、着地のときに頭を上げるクセがあるので、リラックスさせることが大切です。彼は障害への前進気勢は生まれ持ったものがあるので、あとはその動きに人が遅れないようにすれば、自分から楽に跳んでくれました。

ここで余談ですが、このような障害の練習で人に必要とされる左右と前後の二つのバランスについて少し触れたいと思います。左右とは回転や方向転換で人と馬との重心を一致

させることで、前後とは馬の動き出しや前後の動作にどれだけ遅れないかです。これらの2つのバランスはできているようで意外とできていないのでチーフも1度基本に戻って練習するべきだと思います。馬と人の動きが一致すると、より小さな力で馬が動くようになり、障害でも走られなくなると思います。

その練習方法としては、左右のバランスは鏡上げ正反動でひたすら八字乗りをすればよく分かります。左右の両坐骨だけで自分を支えられ、馬を誘導できて初めて自由に脚が使え、正しい指示が馬に伝えられるようになります。

前後のバランスは鏡の踏み方がポイントです。指の付け根の一番力が入るところで鏡をつかむように踏み、動き出しで脚が前に流れ、馬の動きに遅れてしまうことを防ぐのです。これらは関田の高校の先輩である貫名さんに教えていただいたことですが、それにより発進や移行がよりスムーズになりました。最終的に目隠しでも駈歩飛越ができるようなバランスになれば飛越直前の馬の動きを感じられ、先跳びせずに最後まで待つこともできるようになります。これらのバランスの練習は回数勝負だと思うので繰り返し行うことが上達の早道だと思います。ぜひ練習してください。

さて、話はそれでしたが、春先も馬の調子はよく、半沢杯、三大戦、新緑大会とたて続けに出場し成績もまずまずでした。しかし、この後、肩に八行を出してしまいました。ヤスはもともと以前から肩に八行を持っていて、特にそれは試合の後の休み明けによくみられていました。そのため試合の後の休み明けはゆっくりと、そしてしっかりとほぐして運動をするように心がけていたのですが、ハードな日程もあってか八行させてしまいました。これでシーズンのほとんどを棒に振ってしまい、畜大へ耐久馴致に行くことすらできなくなりました。無事は名馬といいますが、まさにその通りで、ケガをしたら何にもなりません。経験が全ての若い馬に何もできず、さらに人の経験も積むことができなかったことは大きな反省点です。復帰したのは、結局、国体予選からでした。ここでは120に挑戦し、帰ってくる事ができたため、北日での2走への出場も決めました。ツースターの方は週に2回以上は周り、人馬の体に叩き込むようにしました。

そして、いよいよ北日を向かえました。二走では、最後のトリプルまでは満点で行ったものの、単一、オクサー、単一というトリプルの、オクサーの前で1歩余分に入り、人が空中分解し、最後の単一で拒止、その後はオクサーを跳んでくれませんでした。人の失敗でオクサー恐怖症を再発させてしまったのが最大の原因ですが、まだまだトリプルをスムーズに抜けるには馬も技術不足のような気がしました。これは、先にも言った着地で頭を上げる跳び方にも関係しており、現時点での最大の課題であると感じています。

やや夏負け気味ということもあり、二走目はパスして総合に挑みました。調教審査は人の実力通りで、耐久はカフィンとトラケネンで反抗しましたが帰ってくる事ができました。いつもの前進氣勢がなかったということもありますが、これは馴致をすれば確実に跳んでくれると思うので再来年はできれば馴致をしてほしいと思います。福島はどの馬もこの2つの障害が勝負であり、権利に直結すると思います。耐久に関してはもう一つ、馬場でペース走をして野外のペースを知っておくことも大切です。それが耐久コースで、さら

に回数も多くできたらなおさらいいと思います。要は経験ということ。余力は、物の入ったオクサーで 2 反抗、そしてまたしても最後のトリプルで終わってしまいました。帰ってこれば権利が取れたのに……。悔しいですが結果は結果です。

「飛越能力はあるが、飛越技術がまだまだ足りない」というのが終わって初めての正直な感想です。しかし、しっかりと試合で力を発揮し反省点もはっきり出たので、その弱点を徐々に克服して次の機会でヤスの能力を最大限に引き出してあげてほしいと思います。

その方法として、まずは人のスキルアップだと思います。と言うのも、この部報で自分の技術不足で権利を逃したという 1 文を自分も含めて何回も見てきました。特に北大ではチーフになったとたんに馬ばかりに目がいってしまい、自分の技術のことを忘れがちです。馬がうまく動いてくれないのは自分が下手なせいの場合が多いのです。そういった意味で第 3 者に練習を見てもらったりミーティングを開いてお互いを指摘することは重要です。北大のチーフに最も必要なのは自分の技術に対する向上心だと思います。

次に、ヤスに関しては経験を積ませることです。畜大やノーザンに野外の馴致に行ったり、北星や酪農などの大会に出て、慣れない場を経験させるといいと思います。また、うちの野外もどんどん跳ぶといいと思います。もちろん人の経験値も上がります。

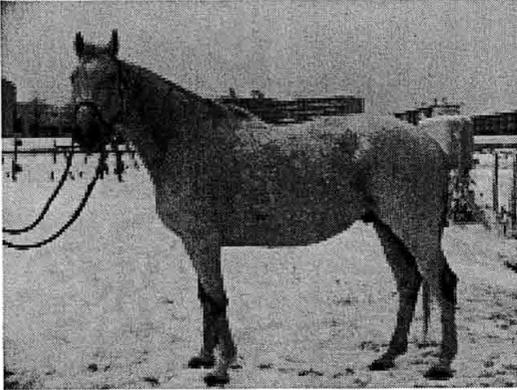
フラットワークは、OB 戦のときに川崎さんに奥歯を削っていただいたこともあり、ハミへの反抗も減り口向きも大分良くなりました。しかし、まだまだ逃げるところがあるため、脚に確実に従わせること、さらに低伸運動までできればよいと思います。低伸運動は肩や腰の故障の軽減にもつながります。ツースターは週に 1 回は回って、人が慣れておくことが大切だと思います。

障害は、まだまだ勢いで跳んでいるところがあるので、一定のペースで大きく飛ばせることが大切です。コンビネーションも横木を利用して、首を使って跳ばせること、低いオクサーを繰り返し跳んで苦手意識をなくすことも心がけるといいと思います。ダブル、トリプルなどの連続障害の練習も低い高さで行うとよいかも知れません。今回の経験上、福島の花柄のついでとレインボーには不安があるので、再来年は馴致に行くか、もしくはフレンドリーで跳んでおくべきだと思います。次のチーフは是非がんばってください。

僕はヤスを通して、喜十郎さん、貫名さん、広瀬さんを始め、あらゆる方面のいろいろな方々にご指導をいただきました。結果、全日の権利を取れませんでした。ヤスの確実な 1 歩になれたと信じています。本当にありがとうございました。北日で必死に馬付きをしてくれた後輩たちもありがとうございました。次は君たちの番なので、ヤスを全国へ連れて行ってあげてください。応援しています。

そして最後に、中田兄には 1 年生の頃からお世話になり最後の全日まで応援に来ていただき大変感謝しています。七大戦で 2 回も九州へ行くという不思議な縁もありましたが、ここまで現役のことを気にしてくれる OB はなかなかいないと思います。北日後の「俺も馬に乗りたくなった」という中田兄の一言に、小さな恩返しができたと感じました。これからもそんな熱いみんなの兄貴でいてください。僕もそれに近づけるようにがんばります。

エルグレイ



セン サラ 芦毛
平成元年6月10日生
北海道三石郡三石町産
父 メジロエスパード
母 スナークリーズン
平成14年9月16日入厩

調教報告

住江 康晴

エルグレイはよく調教されている馬であり、自分が調教したことはありません。完全に馬が先生役で、どれだけ自分が馬から教わり、うまくなるかでした。だから、ここではエルグレイとやってきたことを書きたいと思います。半ば反省文のようになってしまうかもしれませんが、ご了承ください。

乗り替わった頃は、とことん基本を見つめ突き詰めることが課題でした。まっすぐ乗ることや、脚の位置といった騎手の姿勢、手綱に頼らず自分の騎座と脚でバランスをとることなどと馬の動きが大きいために、体が硬くなってしまったこともあり、まず馬の動きになれ、問題点に着手していくことから始めました。エルグレイは全身氣勢を受け止められず、馬がのめって收拾がつかなくなり、前に速くなるのでさらに脚を使うことができないう悪循環に陥るわけです。また、馬の形をもとめてこぶしが強くなり、推進が足りないので、馬が動ききっていないと指摘されたこともありました。特に障害練習や経路走行では、本格的に走られるのが怖くて脚は使えずこぶしで抑えるだけになってしまいました。それでも、エルグレイは北日までのすべての経路走行で反抗することなく回ってきてくれました。本番の北日では、経路のレベルも高く、でもエルグレイだったら大丈夫、自分はなるべく馬の邪魔をしないようにしていけば帰ってこれるだろうと思っていました。ところが、いざ本番になると人が雰囲気飲まれ、力んで体が硬くなり手綱にぶら下がる傾向が強くなってしまいました。それでもエルグレイは最終障害まで懸命に飛越してくれました。ただ、最後の一番ボリュームのあるトリプルに馬がひるんだときに、人が馬を励ましてやるができませんでした。初めて経路で拒止され頭が真っ白になりうまく対処できず3反抗で失権となってしまいました。エルグレイは持病の肺のほうは健康でしたが、シーズン中にフレグモーネになり一ヶ月以上乗れない時期があり、その経験不足も露呈した形になったと思います。

障害飛越では飛越合間をバランスバックしようとして拳でつい張り上げる傾向があるのでまずは人のバランスをバックさせることが課題だと思います。またストライドが大きく、遠くから障害を踏み切ったときに馬が伸びきったままにならないように経路の切れ目などでうまくまとめることもあります。そしてエルグレイは能力の高い馬だけに、人のミスを

人のミスとして現れないことがあるので、しっかり人がミスしたところを見つけ出して直す必要があります。

全日の権利を取るために北大にいる馬に乗せてもらいながら全日の権利が取れなかったことは本当に悔しく、申し訳ない気持ちで一杯です。またエルグレイにのさせてもらえることになりましたので、今年こそはしっかり権利を取って皆の期待にこたえたいです。

最後になりましたが、いつも練習を見てくださった前田兄、フレグモーネの際快く受け入れてくださったノーザンファームの川崎兄、北日前の最終調整に体調が優れないなか練習を見てくださったメインフィールドの小野さんをはじめ、OBの方々、関係者のかたがた、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。



ポリエーム
満点!



コンパ予約受付中
コンパ150名様OK!
当店誕生日、御利用の方には
カラー写真・粗品を
差し上げます。

焼鳥 居酒屋 きよた

札幌市北区北17条西4丁目

☎(011)747-7000

北翔 (シンコウブラウン)



セン サラ 鹿毛
平成 2 年 3 月 6 日生
北海道浦河郡浦河町産
父 クライムカイザー
母 アーマゲイ
平成 15 年 1 月 19 日入厩

調教報告

谷口 善彦

はじめに、シンコウブラウンという馬は、乗馬としてとても高いレベルにあり、僕のような未熟な技術では調教と呼べるようなことはできませんでしたが、1年乗って感じたことやこうすればよかったという反省を書こうと思います。

僕がこの馬を任されたのは全日が終わった11月中旬でした。前任の林兄にはとにかく右脚の反応と体調管理をしっかりするよう言われました。この馬は柔らかく、動きに力強さもあるのですが、右後ろの腱が切れているせいで右手前では踏み込みが甘くなったり、内方姿勢を十分に取らなかつたりするからです。実際毎日乗るようになりそれを痛感しました。左右の姿勢で違う馬に乗っているような感覚でした。そのため冬はひたすら左右の脚に対する反応が良くなるような運動を続けました。最初は巻乗り、8字乗り、前肢旋回を主に行い、特に右回転では腰を外に振らせるくらいのつもりで強めの扶助を使うようにしました。納得のいく動きができるようになったら斜め横足や肩内・腰内などの横運動も取り入れていきました。馬場が良くなる頃にはだいぶ動かしやすくなった気がしました。あと足場が良いときは速足で頭を下げて運動させできるだけ筋肉を維持できるように心がけました。

シーズンに入ってから徐々に速足・駆足も増やし、常足同様内方姿勢をしっかりとするようにしました。また常足・ゆっくりとした速足でキャバレッティをたくさんまたがせ体をほぐし、その後の運動で柔軟に動かせるようにしました。運動の最後には必ず低進運動を入れ背中を大きく使わせました。この運動は踏み込みが良くなり、筋肉も付くので他の馬もどんどんやっていくべきだと思います。

一年を通して駆足の練習量が少なかったということは大きく反省すべき点だと思います。駆足をしたときもただ駆足をしているだけで、馬を本気にできていませんでした。あまり激しい運動を長時間できる馬ではないからこそ、いかに短時間で馬が前に出ている状態を作れるかということをもっと考えるべきでした。北日での失敗も結局このことが最大の原因だったと思います。この馬は試合の雰囲気を感じ取り自分からやる気になってくれます。ノーザンの大会ではそのおかげで成績だけ見れば一応の格好をつけることはできていました。でも北日では僕が普段からその前進氣勢に頼りきって脚がおろそかになり、収める方

にばかり集中してしまっていたため本番でも肝心なところで馬が本気になっておらず、また本気になっていないと感じてからもその対処ができず簡単に反抗を繰り返されたのだと思います。それまでの大会の準備運動でもっと自分から前に前に出して、いつでも障害を飛べる状態にしておかなければいけなかったと思います。そしてそれを日々のFWからもっと練習し、普段のFW・準備馬場での運動・経路廻りを一連の流れで行えるようになっておくべきでした。他にも失敗を挙げたらきりはありませんが、このことさえきっちりできていればシンコウブラウンほどの馬であればどんな障害でも飛んでくれると思います。

最後に、これほど完成された馬が北大に在籍することは稀だと思います。僕がこの馬に行える調教というのはほとんどありませんが、この馬から学んだことを他の馬にしっかり還元できるように日々の練習に生かしていくつもりです。また下級生もチャンスがあればシンコウブラウンみたいな馬にどんどん騎乗し“良い動き”という感覚を掴んで欲しいと思います。



北椎（シーベスト）



セン サラ 黒鹿毛
平成 7 年 6 月 5 日生
北海道浦河郡浦河町産
父 タマモクロス
母 シークイン
平成 15 年 8 月 25 日入厩

調教報告

関田 愛子

シーベストは前チーフの日野兄から引継ぎ、九月から乗り始めました。それまでにシーベストには練習でも競技会でも乗ることが多く、特徴は大体わかっていました。一番の問題は左肩を張ることであり、障害でも反抗するときは決まって左への逃避だということです。これについて、左脚に従っていないことが原因だと指摘され、左脚に対する反応を良くすることを一番の課題として一年間騎乗してきました。ほかにも問題点はたくさんありましたが、脚に従わせることができればその大半が解決すると考えていました。

毎日の練習では、乗りはじめに必ず左脚の反応を確認するようにしました。まず前肢旋回を行い、巻き乗り、八字乗り、輪のりの開閉などのような運動においても左脚に従っていることを確認しながら行いました。特に前肢旋回については、反対姿勢から、左脚が僅かな力で押されただけでも敏感に反応するくらいまで繰り返し行いました。このとき気をつけたことは、手綱を引っ張って口を当てることのないようにすること、そして常歩のときにしっかり前に歩かせることです。はじめのうちは、頭頸の位置を気にしないようにティーディマンを装着して運動していました。

口向きを意識するようにしたのは冬になってからでした。輪乗り上で内方姿勢をとらせて少しずつハミを譲らせ、その状態を維持したまま蹄跡行進、歩度の伸縮、大きく凶形描写などしました。これは主に速歩で行い、特に左内方姿勢でしっかり馬体を屈曲させることを意識しました。シーズンに入るころにはツースターを回することも考えて、腰内、肩内など課題を増やしていき、次はそれを速歩で練習しました。二蹄跡運動は、三歩やったら直進、というように短区間からはじめ、一歩ごとに合図するつもりで行いましたが、それがとても重要だと思います。

これらのことの効果の表れといえるかどうかわかりませんが、左脚の反応は徐々によくなり、ツースターでは左手前で腰が内に入ることが減点の対象となっていたのが少しずつ改善されたと思います。

障害に関しては、連続障害で間歩が少し長い時などすぐに一歩余分に入れつまって飛んでしまうので、コンビネーションを、はじめは間歩を短めに合わせて設定し徐々に広げていくようにしました。また、同時に単独障害の駆歩飛越もよく行いましたが、これは駆歩飛越の方がリズムを崩さずにひとつの障害に集中して飛べると感じたからです。シーベ

トは、騎手が馬を十分に集中させられているときにはきれいに飛びますが、そうでないときには自分から障碍に向かっていくというよりむしろ障碍前に失速し詰まって飛ぶ、そして騎手はその動きについていけないために邪魔をしてしまうということがよくありました。そういうことから、できるだけ自然な形で飛越し障碍に集中して向かわせる感じをつかめればと思ったのです。同様に自分から向かっていくようにするという目的で常歩飛越も行いましたが、なかなか継続的に行うことはできませんでした。時間が十分にあるとき、常歩で障碍に向かい後は脚をはさんで自分から飛ぶのを待つ、そして飛んだらよく褒めてやるということをじっくり時間をかけてやれば、シーベストの障碍に対する印象も変わってくるのではないかと思います。

経路で気をつけたことは、とにかく元気良く、詰まって飛ばせないこと、そしてアプローチをできるだけ長くとり障碍前に脚で緊張感を与えることです。シーベストはやはり常に障碍に対して積極的ではない感じがあったので、どんなに低い障碍を飛ぶときもこのことを忘れないようにしました。右鈍角のラインではそれに加えて、左肩に鞭を入れることがほとんどでした。

新緑まではLBに出場し、それほど悪くない走行だったので、次はLAに出ようと考えましたが、ここで問題になったのは、経路を一定のペースで回れないということです。それは、障碍前でつまって飛び人が邪魔をしてしまうと、徐々に重心が前にかかり、経路の後半あたりから走られるというパターンです。そこで、まず障碍前で失速させないようにすること、そして障碍間でしっかり起こすことが必要だと考え、準備運動ではとくに駈歩の伸縮をはっきりと、また脚と騎座の重心変化だけでなるべく拳の力は少なくすむように行いました。また、ペースコントロールの感覚をつかむという意味から、時間を計って分速350mや400mなど決まった速さの駈歩をする練習も行いました。

しかし、そんなときには私は怪我をしてしまい、その間、シーベストは山川弟に乗ってもらうことになりました。彼は私の指示したことをしっかりやってくれ、シーベストもよく動いていたと思います。

それなのに、その後私が再びシーベストに乗り始めてからはなかなか思うように練習できないことが多くなりました。体が起こせてないと指摘されることもありましたが、調子の悪いのを気にしすぎてしまっとうまく切り換えをできずにいたのが悪かったと思います。それまでうまくいっていると思っていても、一度失敗をしてしまうと硬くなった体をますます硬くしてしまい、悪循環に陥ることもしばしばでした。

そんな状態で北日を迎え、LAにエントリーしていたのをLBに変更したにもかかわらず、結果は3反抗と、代替わり時の目標だった110cmの経路を回ることとは程遠いものに終わってしまいました。とても経路を回るような状態にもできていなかったのだと、最後に痛感させられたのでした。

このように私たちはひどい終わり方をしてしまったのですが、練習馬という位置づけにあるシーベスト自身は一年間、その任務をパーフェクトにこなしてくれたと思います。体は丈夫で、性格は非常に温厚かつ素直だったおかげで、毎日従順に働いてくれたし、また走り回ったりする心配がないため安心して下級生を乗せられた、そのことが私にとって救いです。

本当はもっとこうしたいのに、などと自分の技量のなさをうらんだりすることもありましたが、この一年私はシーベストに乗ることができて本当によかったと思っています。

こんな私に根気よく指導してくださった方や、貴重なアドバイスをくださった方々、山川君、本当にどうもありがとうございました。



味の福々亭 満足の味と量!

札幌市北区北20条西5丁目
TEL 746-6065

各種定食 650円~	昼の部 11:30~14:00
カレー丼物 500円~	夜の部 17:00~24:00
	定休日 土曜日

10名様以上でお越しの方は、一割引します!

安い!うまい!ボリューム満点!!
肉みそラーメン・肉チャーハンの店

大 将

ラーメン

18条店 / 737-7330 (~AM5:00)
22条店 / 747-7776 (~AM3:00)
25条店 / 707-5707 (~AM1:00)
麻生店 / 736-8800 (~AM3:00)

25条店、麻生店では出前も承っております。ぜひご利用下さい。

北閃（パワフルショット）



調教報告

セン サラ 青毛
平成9年4月21日生
北海道三石郡三石町産
父 ブライアンズタイム
母 ゴールデンリッカ
平成15年11月15日入厩

池谷 雅史

全日後から卒部までパワに乗せてもらいました。人がへたくそで馬に対して調教らしい調教はほとんどできなかったの、その失敗談、1年を通してやったことを中心に書こうと思います。

1年間を大雑把に言うと「ただ乗ってただけ」。本当にこのような表現しかできない1年でした。前任の一色兄の調教報告にも書いてある通りパワは人を見て動きを変える馬であり、最後までナメられたままでした。

パワを任された直後は何をやっていいかも分からず、雪解けまでは一色兄や外部の貫名さんに見てもらったり乗ってもらったりしながら自分の練習ばかりやっていました。とりあえず馬が悪くなろうと人が上手くならなければと思いました。

最初に注意したことは脚を引いて乗ることと、まっすぐ乗ることでした。僕は鐙を踏む際、しっかり馬体をはさめていなく、脚が前に流れてしまっていました。そのため、正反動を中心に口向きなどは気にしないで、ただ脚の位置や騎座にだけ注意して輪乗りをしました。これは輪乗り運動でまっすぐ乗る練習も兼ねていました。

しかし、この時からすでにパワは肩から逃げて輪乗りをしており、僕はそれに気付かず延々と輪乗りをしてしまいました。人が上手くなる以前に、この頃からすでに自分が乗ったら逃げてもいいと馬に思わせてしまったことが最大の失敗だったと思います。後任の人にもこの関係が最初で最大の難点となるでしょう。毎日の些細なFWもこの馬にとっては重要な調教となっています。自分が乗るときはもちろんのこと、後輩を乗せる時でさえも練習内容を考えてやっていくことが最も大事だと思います。

またこれと併行して、蹄跡を使って前肢旋回、後肢旋回など自分の脚にしっかりと従わせる運動も行いました。しかし、ここでもパワは人を見ながら動きを変え（僕が下手なのが悪いのですが）、僕の脚にはほとんど反応してくれませんでした。そのため、隅角を利用して2方向に壁を作りながら45度ずつの旋回から徐々に旋回をさせていくようにしました。でも、今考えるとこの時も脚に従っていた訳ではなく、逃げていただけに思います。冬の間はこのようなことをやっている間に過ぎてゆき、何一つ完璧にできたものはありませんでした。反省としては冬の間多くのことをやろうとすすぎたことだと思います。まだできてないうちから次のステップに進もうとしたことが悪かったと思います。できないもの

はできないで、1つずつステップアップするべきでした。

雪が解けて障害ができるようになってからは、さらにパワとの主従関係はひどくなりました。春先、キャバレッティーもそこそこにクロスのバウンスで障害に慣らしていきました。速歩では天性のばねを使って落ちてきれいな飛越をしてくれましたが、駈歩では障害に向かわせれば走り、勢いで飛び、飛んでは走るといった状態でした。これは手綱に頼りすぎていてぶら下がっているからであり、しっかりと座れていれば春先だろうと問題なかったと思います。やはり冬場のうちにしっかりと座れるようになりたかった…。それでもバウンスやコンビネーションをほぼ毎日繰り返すことで少しずつ落ちていきました。

しかしやはり試合と練習は別物でした。雰囲気が違うとパワは周りが見えなくなります。それでも、夏になるまでは勢いで飛んでくれました。このような勢いだけでバネを使っていないフラットな飛びにもかかわらず、自分は飛んでくれていることに満足してしまい、ただ向けるだけの経路走行を続けてしまいました。このような走行だとやや巻き込み気味に走り、鞍上の扶助が利き難しくなります。そうなるともっと手綱に頼った走行になり、余計、馬の鞍上に対する信頼がなくなってしまいます。馬が鞍上を信じられなくなり、夏先に逃げることを思い出すと、そこからはもう飛ぶことをやめてしまいました。やはり僕との脚の主従関係ができていなかった結果だと思います。主従関係がしっかりしたものであれば雰囲気は多少違って馬のほうから人に頼ってきて落ちてくれると思います。それでもテンションが上がってしまう時はFWを多めにとり、輪乗りで扶助を与え続けることで少しずつ鞍上の存在を馬にわからせていくようにしました。

あと書いておかなければならないのはクリニックの事です。大会後に開かれる広瀬さんのクリニックには何度か出させてもらいました。その度に言われたのはやはり馬との関係をしっかりと明確にすることでした。常に人が馬の上に立ってなければならぬ。この馬の場合は特に人を見るところがあるから乗っている時も、乗っていない時も馬の主人でなければいけないのです。また、拳の力が強いことも指摘され、障害中にもっとゆるめることを求められました。広瀬さんの言葉をお借りすれば「せつかく馬が飛んでくれているのだから、ありがとうの気持ちを伝える。」もっともだと思いました。

野外に関しても障害と同じです。練習では難なく飛ぶのですが、試合になると雰囲気に飲まれてしまいます。それでも穴障害は北大で頻繁に飛ばせておいたので、少しは飛ぶようになったと思います。北日での馴致では(本番はダメでしたが)最後まで回っているので、やはりどれだけ試合でも通用する主従関係を作って挑めるかだと思います。

最後にパワを通して指導して下さった一色兄、貫名さん、広瀬さんをはじめとするNHPの方々、ほんとうにありがとうございました。サポートしてくれた後輩たちもいろいろとありがとう。今度は君たちでパワを愛してあげてください。

北遥（イクスカーション）



セン サラ 鹿毛
平成 10 年 6 月 20 日生
北海道浦河郡浦河町産
父 ラムタラ
母 インバレル
平成 16 年 9 月 15 日入厩

調教報告

前田 晋也

北遥号の調教は 4 月より前任の前野兄より引き継ぎ、10 月まで担当させていただきました。その経過を報告させていただきます。

新馬調教を OB が行うということで、馬の調教を進めていくことはもちろん、どのような方針、すなわちどのような馬を作っていくか、ということを実役と確認することを大事にしてやってきたつもりです。文章中同馬の調教報告とは少々話が逸れていますが、ご理解いただきたいと思います。

北大における新馬（というよりは所属馬）に求めることは、一言で言って、向けたら飛ぶ、ということではないかと思えます。部員のほとんどが大学から始めた初心者集団の北大馬術部において、経路走行中に十数個の障害があって、これをすべて完璧に、アプローチし踏み切らせ、随伴しすばやく手の内に入れてバランスを戻す、ということは不可能だと思います（もちろんそれに近づくための努力は必要ですが）。そこで、北大としては、人はいいリズムとペースで走らせ馬が飛びやすい体勢を作ること、飛越中馬の動きを邪魔しないこと、馬は一定のリズムで走り向けられた障害をしっかりと判断して飛越すること、これらができるようにすることが必要ではないかと考えます。そこで馬を調教していく上では、まず一定のリズムとペースで歩けること、そしてその中で障害を認識し自分で踏み切って飛越できることを求め、それを理解できるような練習計画を立てることが重要です。ただコンビネーションを飛ばせたり経路練習を行ったりするだけでなく、馬が考える余裕を持った中で、障害を認識し自分で飛び方を覚えることができるようにする必要があります。だから障害の高さや幅を必要以上に求めることはなく、むしろ、馬術部ということを考えてと下級生でも十分な難易度で何度も繰り返すことで、馬は飛び方を覚え人も経験を積むことができるようになるはずで。

以上冒頭からいきなり調教報告とは脱線していますが、このような認識のもと北遥号の調教を行いましたので、この件を最初に書きました。

それでは調教報告に移りたいと思います

まず簡単に北遥号の特徴について。北遥号は体高はあるのですがやや線が細く、脚が長

いのですが繋も立っており踏み込みが浅いため、その動きが力強いわけでも柔らかいわけでもありません。性格的には素直で、理解が早くはありませんがしっかり覚えこませたことは比較的上手くこなしてくれます。しかし、やや臆病で、怖いと思ったりどうしたらいいか分からなくなったりすると、焦って人のいうことを聞かなくなってしまう。それでも概して性格は大人しくいい意味で鈍感であり、学生向きな性格の馬、といった感じです。ですので、基本的な方針としては、簡単なことを繰り返し続けることでじっくり覚えこませ、それと同時に少しずつ体力と筋肉をつけていこう、ということにしました。

雪解け後から乗り始めましたが、まずリズムよく歩かないことが課題でした。もともと歩様がややぎこちなくリズムが悪い動きをする上に、脚反応が鈍くイライラすると脚に反抗することもありました。そのためまず常歩を中心とした運動を取り入れ、前脚旋回・反対姿勢前脚旋回などの単脚運動から始め、脚反応を高めるようにしました。脚への反抗が小さくなったら、脚と座りでリズムを作りながら、速歩・駈歩を行いました。あくまでもリズム重視でリズムの中で脚を使い、脚反応を高めながら大きくリズムカルに動くよう心がけました。また、バランスの反応はなかなか良いので、リズムが崩れたらバランスバックで一旦リズムを整え、常にいいリズムを保つようにしました。そしてリズムと同時に、人のバランスにも気をつけました。当然のことながらまっすぐに乗らないとまっすぐ歩かず、特に乗り手のバランスが悪いと肩から逃げる癖が簡単になってしまうので、左右均等特に左右の坐骨の感覚を大事にして乗るようにしました。僕は右に傾いて乗る癖があり、左坐骨が浮くことで左脚の反応や左手前での運動ができない傾向にあるので、この点は注意して乗り、時々鏡上げでのバランスの確認も取り入れました。フラットワークとしてはずっとこれらのことに気をつけながら、その精度を向上させることに努めました。

そしてこのフラットワークの延長線上として、コンビネーション障害の練習を行いました。同馬は自信を持って飛んだときのバスキュールはなかなか良く、パワーやバネがない分この点を活かして障害飛越できるようにしていこうとしました。ただし、焦った状態や集中が欠け元気のない状態で飛越させると、障害を怖がって飛び、飛越後走るようになり拒止したりしてしまいます。つまり、フラットワーク時と同様にリズムの中で動かしアプローチしなければ、馬は障害をきちんと認識する前に急に障害に向けられたと思い、焦って失敗してしまいます。なので、イメージとして単にコンビネーション障害を飛ばせる、ではなく、発進・アプローチ・飛越・停止の一連の動作をいいリズムの中でする感じで行いました。もっとも、言ってみれば至極当然なことなのですが、北大ではフラットワークはフラットワーク、障害は障害といった妙な割り切りがあり、障害練習のときはその前にただ馬のテンションをあげるだけといった嫌いがあり、十分にフラットワークと障害飛越をリンクできていないように思います。きちんと障害飛越を意識したフラットワークが必要だと思います。このことを念頭において、馬に障害を認識し判断させることを繰り返し行いました。前述のように同馬は理解がさほど早くないため理解するまで何度も行い（それが部員のいい練習になったのではと思います）、納得すれば比較的上手にこなしてくれるようになったように思います。

今後の課題としては、たくさんありますが、まず脚への反応・従順性でしょうか。その

中でもっとリズム良く歩けるようになり、必要な筋肉をつけ飛び方を覚えていくことのように思います。コース走行練習にあまり時間が割けなかったためコース走行が不慣れであり、この練習も必要でしょう。取り立てて厄介な癖のようなものはないので、いい意味で普通に乗る・その精度を上げることが肝要だと思います。

僕自身大した技量がないため、ちょっと余裕のある現役部員のような感じで半年間やってきたつもりです。新馬調教といっても特に変わったことをしたつもりはなく、またその必要もなく、あくまでも普通に乗ることの重要性を知りました。いかに自分が普通に乘れていなかったことと思います（今もできていませんが）。ですので、後輩のみなさんは、普通に乗れるように頑張してほしいと思います。そうすれば、誰でもある程度までは馬を調教できるはずですが、馬術部にいて楽しいと思うことはたくさんありまた人それぞれですが、僕は馬に乗ること、特に自分たちで馬を育てていけることが北大馬術部の最大の魅力ではないかと思います。そしてその馬が全日学に出られたら最高なことだと思います。

最初と最後が調教報告と関係のない話であり、かつ最後はOBらしからぬクサイ文章になってしまいました。大変申し訳ありません。

最後に前任の前野兄、困ったときに助言・指導いただいた貫名さん、そして大して上手くない僕に調教を任せてくれた現役部員の皆さんには大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

北遥号の今後の活躍を期待したいと思います。



北焯（ウインジーニアス）



セン サラ 鹿毛
平成 12 年 4 月 19 日生
北海道千歳市産
父 パブルアムフェロー
母 サクラギャル
平成 16 年 10 月 24 日入厩

調教報告

林 宣隆

代替わり後のジーニアスはひどい腰痛であったので、しばらく休ませました。良くなってきたら、シャンポンをつけた調馬策で少しずつ運動していきました。

フラットワークは、輪乗り上で前肢旋回、巻き乗り、輪乗りの開閉などの基礎調教を主なメニューとしました。ただこの馬は、右手前は内方姿勢をとりすぎて左腰が外に逃げ、左手前は逆に内方姿勢をとりづらく足さばきも悪かったので、特にその克服に努めました。また、譲らせるともぐっていく傾向があったので、初めは頭の位置を気にしないで運動するようにしました。

コンピネーションについては前進氣勢が足りずに、途中で速歩に落とされてしまうことがよくありました。それはただ元気がないからではなく、準備運動で脚と馬との関係がしっかりできていないためだと指摘されました。この馬はいつも全力で動いてくれるので、まず脚の作用で前に出すということテーマとしてやっていました。コンピネーションの内容は、最初は狭い 1 間歩の連続を、慣れてきたら徐々にその間を広くして一つ一つ確実に跳ばせるようにしました。箱物などの障害もコンピネーションに入れ慣れさせていきました。その後は、1 歩 1 歩 2 歩、1 歩 1 歩 3 歩など間を広くしていき、高さはあまり高くせず幅をつけて大きく飛越させるようにしました。

障害の経路に関してはやや掛かるところがみられました。ただ、ゆったりゆったり跳ばせようとしすぎるとビタッと止まるので、行く気がつくまでは前に出し、そこから良いペースに持っていくようにしました。物見はする方ですが、速歩で向かい直せばたいていは跳ぶので後は慣れだと思えます。まだまだ跳ぶときにふらついたり、間歩が合わないと思えるので、脚をしっかり挟んでおくこと、また低い障害を繰り返し繰り返し飛ぶ練習が今後必要だと思えます。

野外のほうは、春にパワフルショットと一緒に畜大に馴致に行きましたが、跳ぶ気を全く見せなかったのが森の馴致にとどめておきました。まだまだ、馬場の障害も確実に跳べているとはいえなかったのが、時期尚早だったと思えます。半年後の福島でも野外の馴致をしましたが、ここでは拾い跳びでも跳んだり止まったりしていたので、ガンガンに走らせてから跳ばしてみました。すると穴形の障害は全くだめでしたが、それ以外は跳ぶようになりました。こういった馬は、まずとにかく跳ばせること、それができたら一つずつ障

害を認識させて跳ばせるといった順番のほうがいいのかもしれませんが。もちろん跳べる馬の後ろにつけて跳ぶことは前提です。また野外をやってみて、この馬の頑固なところと逃げるクセが見られました。穴系などの障害で嫌と思ったら打脚や便をいれても動かなくなり、さらに左ハミに重くのしかかってきてどうにもならなくなるのです。単なるわがままで思うので、そうさせないように気をつけてください。

これからの課題としては、やはり基礎調教と低い障害の繰り返しで、脚に対してすべきことと、跳ぶべきものを教えることだと思います。結局まだまだ新馬です。今年は調子よく下級生を中心に乗せてしまった時期もありましたが、やはり早かった気がします。比較的、素直で乗りやすく、ファンも多い馬なのでしっかり調教して誰でも乗れるような馬にしてあげてください。



菅原写真商会

デジカメプリント

各種証明写真

北22条西4丁目 ☎716-2662

美味しさ発見

新しくオシャレになった
時の館で、一時を
すごしてみませんか。



カレーライス
焼肉丼
ソフトクリーム
各種あります。

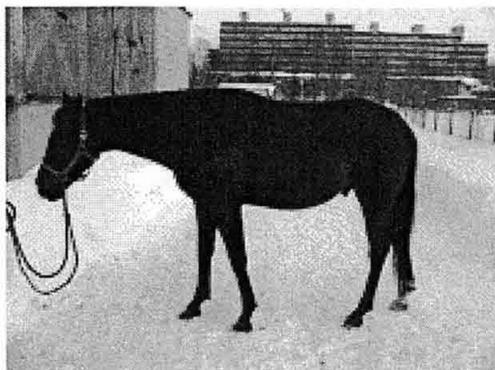
営業：11:00～24:00
N18 W7
TEL 726-0158

カレーから明日を見つめる

自由人舎 時館

◇離厩報告◇

北奏（ビバホリデイ）



セン サラ 鹿毛
平成 14 年 4 月 4 日生
北海道白老町産
父 バブルガムフェロー
母 ローズサッシュ
平成 17 年 8 月 11 日入厩
平成 18 年 6 月 18 日離厩

離厩報告

宮本 亮

北奏号は馬繋台で暴れ、転倒した際、腱を負傷し、競技馬としてのメドがたたなくなることから離厩させることにしました。このようなことになってしまったのは

- ・言うことを聞かない馬に対して人が過度に求めすぎたこと
- ・転倒した際に馬繋台につながれた曳き手がすぐに外せなかったことが原因にあります。

これらを踏まえて部では

- ・人の行為に対して馬がどのような反応を示すのかをよく考え、また起こりうる最悪の事態を常に頭に入れて行動することや
- ・馬繋台に繋ぐ際、トワインを介することで万が一強い力がかかった際にも外れるようにすること

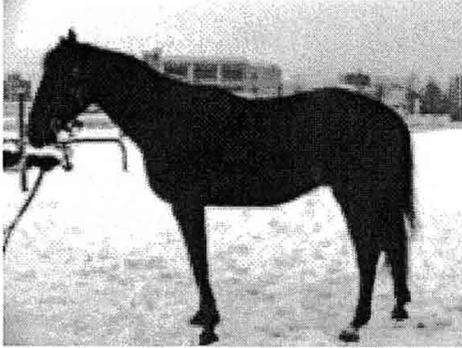
などを徹底するようにしました。

部員全員、今回の事故を忘れてはならず、また二度と同じようなことを起こしてはならないと考えています。

お忙しい中、わざわざ時間をつくって負傷したビバを診てくださった大崎兄には本当に感謝しています。ありがとうございました。

◇入厩報告◇

北創 (サクラスペリオール)



セン サラ 黒鹿毛
平成 13 年 4 月 9 日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラヒーロー
平成 18 年 6 月 24 日入厩

入厩報告

宮本 亮

北創号は北柊号と共に協和牧場より入厩しました。落ち着きに欠けるところはありますがとても扱いやすく、いい乗馬になってくれると期待しています。現在は一色兄に調教をお願いしています。

北柊 (サクラロイヤル)



セン サラ 栗毛
平成 13 年 4 月 9 日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラユスラウメ
平成 18 年 6 月 24 日入厩

入厩報告

谷山 直美

サクラロイヤルは 6 月 24 日に NOSAN の南波さんのご紹介でサクラスペリオールと共に新和牧場より入厩しました。

現在調教は前主将の林兄にお願いしています。割りと素直でおとなしくて、扱いやすく、乗馬としての成長が楽しみです。

ネイチャーヒーラー



入厩報告

セン サラ 栗毛
平成 10 年 4 月 11 日生
アメリカ産
父 Valiant Nature
母 Mintullah
平成 18 年 9 月 18 日入厩

山川 倫明

ネイチャーヒーラー号は9月18日にノーザンホースパークより入厩いたしました。普段は素直でおとなしく、とても接しやすい馬です。また、ノーザンホースパークにいた頃には既に100cmクラスの競技に出場していたようなので、障害での活躍を期待しています。これから人馬共に成長し、将来北日で戦えるのを目標に励んでいきたいと思ひます。

Let's Get a License

- ☆ 毎日入校OK
- ☆ 日曜・祝日も教習&検定実施
- ☆ 朝9時～夜10時まで教習
- ☆ 各方面無料シャトルバス運行

北大から
とっても近い
自動車学校!!

普通車・自動二輪・大型特殊

セット で取ればさらにお得♪♪

<普通自動車・大型特殊・普通二輪・大型二輪>

北海道中央自動車学校

札幌市東区北25条東1丁目1-17

TEL 711-3344

<http://www.hokkaidochuo.co.jp/>



北25条

◇OB 寄稿◇

イギリスの馬術事情

昭和41年卒 近藤 喜十郎

私は現在、学生としてイギリスで馬学を勉強しています。日本では獣医学部で大動物の部門で教育していると思いますが、こちらでは馬だけ独立して Equine Science として教えています。どれほどの大学 (Higher Education) , 専門学校 (Further Education) がこの学部を持っているかという約100校近くあります。

イギリスには約100万頭の馬がいて、週に一度以上馬に乗っている人が人口の約5% (300万人) います。ドイツ、アイルランド、オランダ、スイス、スウェーデン等も同じような割合です。ヨーロッパは馬と人間との係わり合いが歴史的に深く、馬を外してヨーロッパの歴史、文化、生活環境等を勉強するのはなかなか困難な事でしょう。

私はイギリス南西部地方 (West Midlands) で南部 Wales にも近い、Gloucester にある University of West England で Equine Business Management を一年間、そして国際馬術教官資格を取るべく専門コース (BHS Preparation Course) で2年間学びました。

現在はイギリス中部地方の Nottingham Trent University で Equine Sports Science を勉強しています。この分野はより Scientific で騎手と馬の生理的、心理的な部門を学びます。



イギリスで馬に携わっているのは女性が多く学校でも生徒の殆どは女性です。彼女達の多くは障害を飛ぶのが好きで、特に野外での障害飛越になるととても張り切ります。スピードもあり、落馬の不安を抱えながらも、果敢に挑戦してゆきます。その態度を見ているとイギリス女性の逞しさをまともに感じます。

子供の頃から親から pony を買ってもらい家の外を走り廻っていますから日本いうならば自転車に乗るようなものでしょう。

(閑話休題 馬を飼育する費用は犬を飼うより安く済むようです。外に放して草をたべてい

ますから犬のように dog food を買わなくてもいいわけです。)



三菱国際総合競技大会 (Badminton International Eventing Game) について。

皆さんもご存知のようにオリンピックでは馬術競技は性別はありません。イギリスは伝統的に日本で言う総合競技 (Eventing) が強い国です。日本では環境の違いからか、あるいは競技を行うのに費用が他の競技に比べて多くかかるので最近では国体でも複合競技になってしまいました。この国では子供の頃から野外での障害飛越に親しんでいますし、伝統的な Fox hunting も盛んです。

Badminton はロンドンから西へ約 150 キロの所でイギリスの典型的な田舎として観光地区になっている Cotswolds にあります。広大な個人の土地で大会は4日間に亘り毎年5月の初旬に行われます。参加選手は約 11 カ国からでヨーロッパはもとより、オーストラリア、ニュージーランド、南北アメリカからもやってきます。昨年と一昨年は日本から大岩選手が参加しました。彼は 2005 年では馬場で上位に入り、野外でも好成績でしたが、最終日に 4 落下してしまいました。11 位と健闘しました。

野外騎乗の日にコースの途中で声を掛けたら振り返ってくれました。日本人の応援は珍しかったかもしれません。

障害は約 20 数個でいろいろ趣向がこらしてあります。三菱の車が所々に配置してあり、飛越するのもありました。コースは約 5 キロですが、廻って見ただけでもとても楽しい気分になります。昨年は幸いにも天候が良く、野外騎乗の日には 10 万人以上の人が集まりました。日本では考えられませんが、老若男女、赤ちゃんまでがやってきて一日野外でのイベントを楽しみます。会場には沢山の店があり、馬具はもとより、衣料、化粧品、飼料、食料品などで、無論レストランやバーもあります。ビールを飲みながらイギリスタイプのハンバーグをほうばるのもこの大会の楽しみ一つです。



小さな試合(各地での試合)

試合は年中殆どの地区で行われています。簡単に参加できますし、参加費用も高くありません。時には飼料会社や馬具販売チェーンなどが主催しています。馬を持っていて参加したいと思えば試合の行われている所へ連れて行けばいいだけです。

在学している大学でも週末には殆ど試合が行われています。こちらでは自馬がある人は大抵馬運車を持っています。大体がトレーラー式です。価格は中古では30万位で買えます。むろん人が寛げ、ベッドもついている車もあります。牽引する車は普通の2000ccぐらいの乗用車です。それに馬具などを乗せてやってきます。自分の出番が終わるとさっさと帰ってゆきますので日本の様に主催者が厩舎を用意することはまずありません。

ポニークラブから試合がありますので、幼稚園児から参加できます。この試合というかお遊び祭りは障害飛越というより、日本での運動会的な雰囲気です。でもここから始めているから段々慣れて上達してくるのでしょう。

連盟組織について

馬術の大物締めをしているのは British Horse Society です。日本で言えば日本馬術連盟でしょうか。馬場は British Dressage、障害飛越は British Jumping、Eventing は British Eventing と分かれています。技術の基準になるのは EFI です。ですから馬場について言えば英国式というのはありません。障害飛越についても一流選手の個人的な指導、理論の若干の差異はありますが、英国として決まった方式はありません。

私は2002年に4年に一度行われる国際馬術大会(WEG)をスペインで見ました。最後

に行われた Jumping 競技 で100人から残った4名の選手がお互いの馬を乗り回して結果を競いました。アイルランド、フランス、デンマーク、アメリカの選手が飛越技術を披露しましたが、特に変わった乗り方をしていませんでした。馬の特徴を短時間で捉えて、馬の能力を引き出す技術には感嘆しました。

参考 web

沢山の興味のある web がありますが、今回の原稿に関係するサイトを書いております。また、私は「Konsama の UK 日記」という blog を持っています。始めてから約2年になります。馬を中心にイギリスでの生活などを紹介しています。是非覗いてみてください。

www.blog.kijuro.com/

- BHS www.bhs.org.uk
- BD www.britishdressage.co.uk
- WEG www.feigames2010.org/
- Hartpury College www.hartpury.ac.uk
- Nottingham Trent University www.ntu.ac.uk

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 北大モータース

札幌市北区北18条西5丁目1-36 番726-1526

卒部40年記念道東合宿のこと

37北馬同期会

早いもので37北馬同期会は、暦の上で卒部40年の節目を迎えました。平成16年の群馬合宿から1年少々の間に、山形の山村勝、秋田の加藤孝志の2君が静かに去り、札幌の八木多賀子が夫である八木正巳先輩を失い、そして別海の高橋昭夫が野辺の花で妻を送るという悲しい出来事が重なりました。

一方では、平成17年秋に開催された「全日本障害馬術大会2005パート2」(掛川・つま恋乗馬倶楽部)中障害Dで、音更の高野文彰ヴィクトワール号が駆けつけた4名の同期とその家族の熱い声援を受けて5位入賞との朗報が届き、ここは一番北海道にて大合宿をという機運が盛り上がることとなり、幹事長に高橋昭夫、そして幹事に帯広の小栗紀彦と高野文彰を配し、卒部40年記念道東合宿企画がスタートすることになりました。

1. 今回の合宿テーマ

平成18年2月、幹事長高橋から全国に企画書が発せられました。

題して「ウマばか尾岱沼に集う」、集いのテーマ「生命 いのち 生き生き 生き生き」とあり、こう記されていました。

「同期のみんなも、とうに還暦を過ぎ自らの体力のおとろえを感じながら、生命というものをいままでとは違った眼で静かに見つめているのではないだろうか。今回も、馬に親しみ、馬事の議論を再開し、それぞれの馬術の進歩を認め合いながら友情をさらに深めることではある。今回は、北海道は東の端っこの集いということで、ここの自然の中での、生命の躍動をたっぷりあじわうことを薦めたい」

2. 7月7日 合宿初日

5ヵ月があっという間に経ち合宿初日、再会には出来すぎ、恰好のお日よりの七夕、今回の舞台は別海町尾岱沼(おだいとう)野付ライディングファーム「まきばの宿」、夢多きもと若人が次々に到着。

1番乗りは、日本で唯一という木造建築の中標津空港に降り立ちポー川遺跡などを訪ねて宿に前泊、既に朝練1鞍と気合の入った大場善明氏ご夫妻(37同期会の5期も上の大先輩ですが、同期としての待遇を求められておりますので以下敬称略)。2番手は、大場夫妻と同便なるも世界遺産知床を巡って本日到着、東京の八木澤守正夫妻。3番目が中標津空港に高橋の出迎えを受けた磐田の黒澤道雄と河合晴夫、つくばの藤井毅それに草加の梶山泰嗣の5名。

時間はまだ15時、これだけ揃えばお馬さんに乗らねば申し訳ないと、7頭を引き出してみっちり1時間の部班特訓。手馴れた者と縁遠かった者で余りに違いすぎるレベルではありましたが、脱落者も落馬者もなく7名全員が自ずと湧き上がる笑顔で馬の背の感触を味わうことができました。



〔写真1〕



〔写真2〕

17時に女満別空港から知床経由で梶山の家族4名（ゼロ歳の孫連れ）が到着、次いで英国から帰省して一足先に道東入り、弟子屈の湖沼でカヌーの虹鱒釣りや洒落込んだ名古屋の近藤喜十郎がお目見え、しんがりには帯広から小栗夫妻が札幌の八木多賀子を伴って登場。これにて本日予定の同期会10名と家族7名が集結、宿近くの塩水泉尾岱沼温泉「浜の湯」に繰り出して疲れを癒し、さてさて中宴会への期待が膨らむ時間となって参りました。

中宴会開始、「遠路はるばるようこそお出でくださいました」と高橋幹事長の挨拶、英国馬術留学生近藤が再会を祝して乾杯の発声、だけど目の前の真っ赤に茹で上がった野付北海シマエビの山と、高橋が別海の山野で摘み揃えてくれたアイヌ葱（行者ニンニク）の山が気になることしきり。濃厚なシマエビの食感と、アイヌ葱特有の旨みが、生のサッポロクラシックと出会って、乾ききった喉を通り食道を一気に駆け下る、懐かしき友と再会できて良かった、嗚呼素晴らしき初日、明日も乗るぞ、でもその前に今夜は徹底的に飲むぞ、喰うぞ、しばし会話を忘れた餓鬼とバカスで、宴会は静かに夢深く進行したのでした。

頃合を見て、根室の地酒「北の勝」を抱えた梶山の司会で参加全員の近況報告。新聞社をあげて悠々自適の大先輩大場、元気を取り戻して自分発見に取り組む八木、別海にしっかりと根を下ろした家畜専門獣医師高橋、馬事普及に命を燃やしつつ十勝特産品の灰を使った上菓を試みる陶芸家小栗、留学中のカレッジで日本人初めてという難関の「英国馬術教官」+「ステージ3」ライセンスをつい先日取得した現役学生近藤、国際学会事務局業務の傍ら教育現場にもある八木澤、0歳から100歳までの障害者施設等を切り回す河合、林産指導者から一変してメルヘンの世界を独自の作風で描く版画家藤井、生涯現役と自宅をオフィスにして機械加工等に携わる黒澤、その昔馬方と呼ばれた陸運業の梶山と順次報告があり、そして夫々の家族からは「今日の主人公は馬ばか」と心得た控えめな挨拶がなされたのでした。

この後は、何時に変わらぬ馬談義。現役選手高野文彰の到着が明日早朝になってしまって若干迫力に欠けるきらいがあったものの、誉めることに徹して高野を栄冠に導き同期に元気をくれた小栗に感謝し、近藤のライセンスに一同頭を下げ、国体優勝の北嶺号大場の話に引き込まれ、2町歩の手作り牧場の愛馬にセルフランセ血統の仔を誕生させた高橋を祝い、そして今日の馬上体験を各自語り始めれば、それはもう果てることなく、何時の間にか家族たちが姿を隠し、宿の皆さんも消え、星の逢瀬を隠す霞みの涼気流る庭に飛び出して蛮声の「都ぞ弥生」に肩を組み、ストームが酒気を飛ばし、また酒を抱えて誰だか

の部屋に集まり、馬ばか達の延々と続く酒盛りは確実にその日を越えていったのです。



〔写真3〕



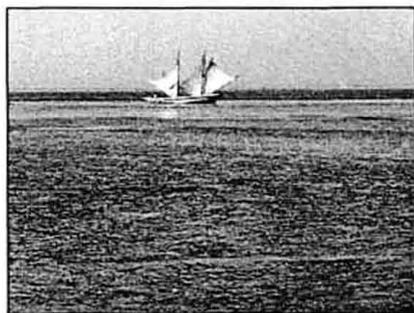
〔写真4〕

3. 7月8日、合宿2日目

朝靄に薄陽が差し、6時朝練を待ちかねる同期が5時過ぎから順次登場、騒がしげな雰囲気ファームのスタッフもにこやかに登場、本日は7頭が馬装整えての馬場入りとなる。部班運動にて準備運動、その後2面の馬場に散って思い思いの調教に、何と言っても注目は新米「英国馬術教官」の近藤と、久しぶりの乗馬を楽しむ八木。でも互いに干渉せず、己のお馬さんを手の内に入れるに懸命、或いはさほどの余裕がないと言うことか。ひとり「鬼主将」小栗が皆の騎乗を誉めまくる姿が印象的。

朝練を終えた7時過ぎ、未明に音更を立った造園設計業と現役選手を両立させている高野到着。これで同期11名、総員18名全員集合、心地よい疲れと絶品の野付アサリの味噌汁にお代わり続出の朝食、一休みの後、高橋が懇ろに練り上げた野付半島自然探索ツアーに出発となりました。

9時、尾岱沼漁港から貸切りの観光船でトドワラへ、穏やかな風連湖を渡る風にまかせたシマエビ漁の打瀬舟（うたせぶね）、アマモに腰掛けてこちらを見上げるゴマフアザラシに見送られて浮き桟橋に到着。「トドワラって何?」、「それよ」と観光船のガイドさん、百数十年前豊かなトドマツの林であったこの地に海水が徐々に浸蝕し、立ち枯れてしまったこの様が「トドワラ」と。「これからネイチャーセンターまで1時間歩く」と幹事長の指令、霧に視界を遮られ見えぬ彼方に向けて浜辺を歩み、幾人かが腰をかがめて砂を掘り返し「おおー、アサリ発見」と喜び、木道を渡り、石橋を越え、また木道に沿って進むと、辛うじての立ち姿、また支えられて斜に構え、或いは朽ちて横たわるトドマツ達、さらに霧に覆む荒涼とした野の向こうにトドマツの群生林が浮かび上がり、幻想的な景色に思わず息を呑む。中間点の花馬車待合所にて休憩、早きものと遅れし者に約500メートルの差、全員到着を待って目的地に向かう、零歳児を含む4名は花馬車に乗り、他は浜茄子の甘き芳りを味わい、今を盛りと咲き誇るエゾカンゾウやセンダイハギと戯れながら原生花園を散策したものでした。



〔写真5〕



〔写真6〕

28キロの砂嘴野付半島唯一の施設ネイチャーセンター着、ガスが少しは晴れてきたものの国後島ノツエト崎までわずか16キロも視界は開けず、喉の渴きを訴える呑み助は取り急ぎ食堂へ、毛蟹になりきれない味噌が魅力のクリガニ（とは言っても毛蟹はクリガニ科、こちらが本家でしょうが）をむしりながら生ビールで乾杯、ネイチャーセンター見学組も徐々に集まりビールの肴に雲丹や帆立、ホヤ、そしてシマエビの踊り食い、それぞれ好みで注文し、締めは海鮮ラーメンとか。

さて帰りは元来た道の引き返し、高橋企画に従って花馬車に乗車、御者を希望する数名が親方をさし置いて手綱の奪い合いも嬉しそう、客席のご婦人方は少々不安げも一本道だし、まあいいかと覚悟を決め、無事トドワラに到着したが、ここからが凄い。高橋幹事長が1人500円、18名で9,000円の馬車賃を差し出すも親方頑として受け取らない、「高橋先生から金なんか貰ったらオレの親父にぶん殴られてしまう」と逃げ惑う、結局有り難く頭を下げて無賃乗車もOK。

トドワラの帰り道、往路に見せていた霧の彼方に浮かび上がるトドマツの林が、確実に朽ち果てる時の流れの侘しさを感じさせる荒涼たる現実に変貌しており、散策用木道の下には風化し芯のみ残した巨木も横たわり、何時倒れてもおかしくない枯れ木に「がんばれよ」とひとり呟きながら、潮満ちアサリも消えた浜辺を戻りて船着場に。

復路の航海は小型の観光船、穏やかな潮路を辿って尾岱沼漁港に戻り、漁協直営店で買い物、買い物、そして買い物。一旦「まきばの宿」に戻って、直ぐ出発。次なる目的地は高橋の仔馬見学か、羅臼温泉露天風呂「熊の湯」かの選択、いずれも約1時間の行程。

羅臼からウトロに向かう国道沿いの「熊の湯」は、北は溪谷、南に山裾迫る正真正銘の大自然そのままの露天風呂、簡素な脱衣場と直径5メートルほどの岩風呂で勿論屋根なし、扉なし（女性用は簡単な板囲い）、特筆すべきは90℃源泉の熱い事この上なく、足を入れて直ぐ逃げ出し、またそろりと足をの繰り返し、「10人に7人が熱いと言うまで水を注いではならぬ」とのお触書に我慢・ガマンの根性湯となります。マッカウス洞窟の光ゴケを見物しての宿への帰路。

同じ町でありながら、信号も行き交う車も殆どない舗装道路を1時間、確かに広い別海町を実感させる高橋家コースは、仔馬と遊び、古きアルバムを括り、亡き奥様を偲んだ同期会贈呈の記念樹ヤマボウシの成長を祈り、あっという間にこれまた帰宿。

宿に戻った19時、いよいよメインイベントの大宴会。

今年6月の第41回北海道春季馬術大会（ノーザンホース）にてエントリー4種目総てに優勝、特に絶対獲りたいと臨んだ八木正巳氏の功績を称えて新設された120センチ中障害の「八木杯」をままと手中に納め、八木多賀子から直接杯を受けた高野がここは当然の主演となり、まずは「八木杯」を中心に記念撮影。そしてもう一つの主演が、どんどんと並んだ花咲ガニ、山に盛られた北海シマエビの刺身とくれば、もうドンチャン騒ぎ間違いなし。



〔写真7〕



〔写真8〕

ジョッキに最適のクリスタル「八木杯」に、氷でじっくり冷やした八木澤こだわりのシャンパンを満たし、「おめでとう」と高野の飲みのお裾分けに預かりながら全員が回し飲み、3分の1ほどの残り総てを近藤が飲み干して拍手、儀式終了。後は呑み、喰い、喋りとなりますが、何故か蟹を食べるときだけは皆静かになりますね。亡き加藤孝志の奥様から届けられた秋田の地酒も加わって時にしんみり思い出を、時に賑やかな馬鹿が出て、そして多くは馬にと話題は尽きないのですが、今回の議論の最大特徴は「技術論」が後退し、「やる気」を引き出す精神論が前面に出てきた点にあります。高野の師小栗は「悪さの指摘は止めた、いい所を見つけてひたすら誉める」と、「40年前だったら良かったのに」の同調意見も、馬術教官近藤は「いい人間関係が何より大事だね」と、2年前、藪塚温泉での喧嘩騒ぎ徹夜の技術論がまるで嘘のように穏やかな会話に包まれ、やがて夜も更けてゆくのでした。

4. 7月9日 合宿3日目

最終日、不思議なものであれほど飲んだのに5時半には全員集合。9頭を用意してもらい、2面の馬場を利用して思い思いの乗馬、空白を取り戻さんと3日で5鞍の大場はどっしり、現役選手高野は恰好の貸与馬練習とばかり、教官近藤は脚を締め上げて手の内に、アパロンのサンデーライダー八木澤は拳を止めて悠然、同期会合宿時のみ騎乗の黒澤・河合・梶山は高橋の飄々とした先導の部班運動に汗をかき、八木はマイペースの騎乗、何より皆本当に嬉しそう、身体を不自由にして乗馬から遠ざかっていた小栗も8年ぶりに満面の笑みで跨り、三々五々目覚めて馬場に集まる夫々の家族も、宿の次男君の「引き馬」の背でご満悦。

名残惜しい1時間半の朝練を滞りなく終了し、朝食を楽しみ、そしてお別れのとき。大

場があらかじめ探しておいてくれた記念撮影ポイント、宿の全景が見渡せるロバの親子繁殖地に全員集合、「はいチーズ」で合宿がめでたく打ち上げとなりました。



〔写真9〕



〔写真10〕

10時の散会時にバックに詰め込まれたお土産は、腱鞘炎気味の右手を押して刷り上げた藤井の夢溢れる「版画」、陶芸家小栗の小豆や蕎麦などの灰を上塗りして味わいを深めた「焼き物」、高橋が地元三友牧場から特別に分けてもらった「手作りチーズ」、八木正巳氏が蒐集した「馬コレクション」の形見分け、そして呑兵衛には秋田の地酒がおまけとなり、今回参加できなかった松尾英彦が、ガマの油売り用の刀を振りかざして悔しがること間違いないの豪華な品々、都合つかなかった呉富士彦、片寄藤両君にも申し訳なし。

本当に充実した合宿でした。

「まきばの宿」の皆さん我侭でうるさい爺さんたちをもてなしてくれてありがとう、嫌な顔せずつきあってくれた同期会家族の皆さんありがとう、大場先輩最後までお気遣い戴きありがとう。

〔参考資料〕

①大場先輩が帰京後、「まきばの宿」に送ったメールの一部抜粋

「まきばの若草 陽炎燃えて

早朝の静寂に木霊する若駒の嘶きに、まどろみの夢を破られた「まきばの宿」での4日間。緑したたる朝霧の中で、オンマさんたちから沢山の元気を頂きました。ありがとうございます。早朝から深夜までお世話をしてくれた宿主様、奥様、あゆみ様。そして引き馬で、鞍の跨り方から馬への接し方を親切丁寧に指導頂いた大和君、裕心君、心温まるおもてなしに感謝いたします。50年ぶりの乗馬合宿、鞍上までに苦勞しましたが、「3日で5鞍」の集中騎乗では、青春のポプラ並木馬場が蘇りました。覚束ない不安定な鞍上ながら、どのオウマさんも素直に一生懸命動いてくれました。どの馬も素晴らしい夢を与えてくれ、驚きと欲びで感謝一杯嘯み締めております。」

②「まきばの宿」オーナーの牧場日記より抜粋

「7/8 今朝は北大馬術部OB会の皆さんが朝練で8頭用意、早い人は自分が厩舎に出る前から準備を！気合が違いますね、5時半から用意のできた方から騎乗、皆さん昨夜は遅

くまで酒盛りしていたのに、元気ハツラツです。」

「7/9 今朝も北大馬術部OB37年会の皆さんが朝練を、早い人は5時前から厩舎に顔を出し、6時には皆さん騎乗していました。馬場に8頭（ウイン、エース、シズク、アンナ、昇竜、ガイモン、カルー、シュンセツ）コースで引き馬1頭（ハイランカー）の登場でした。」

文責 梶山泰嗣

モモセライトレーディングファーム

札幌市清田区美しが丘3条3丁目

TEL 881-0470

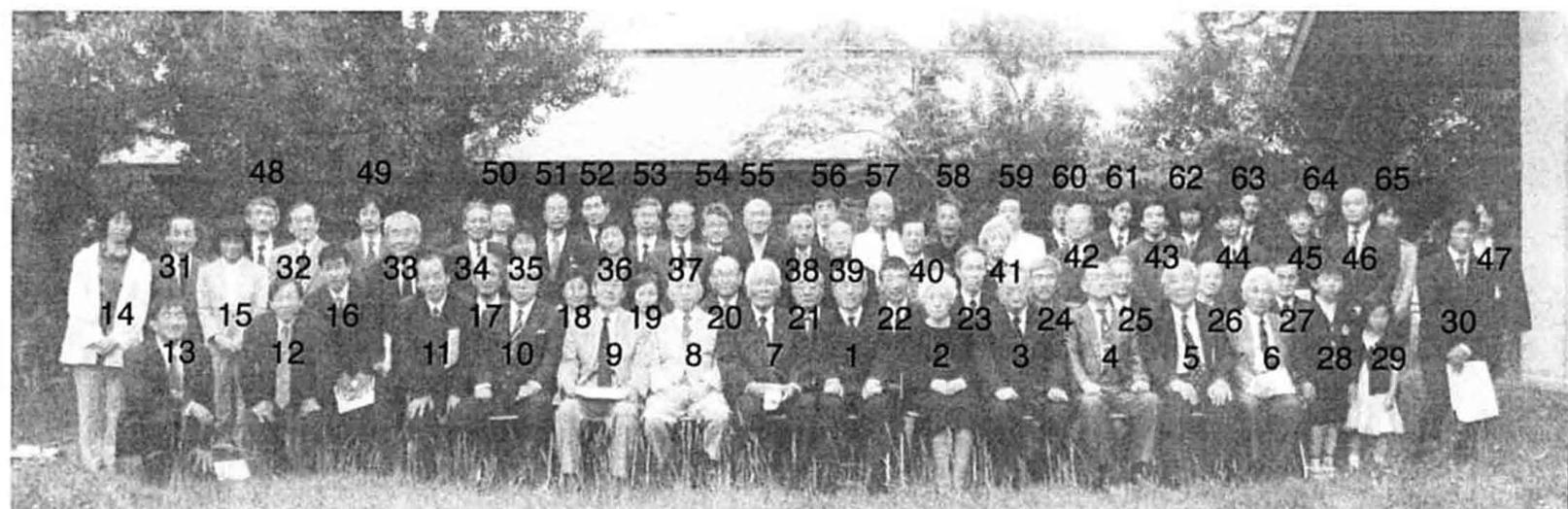
追悼特集

第六代部長 半澤道郎氏

監督 岡田光夫氏

第八代部長 小池壽男氏

平成 18 年 5 月 4 日に半澤道郎第六代部長が、7 月 2 日に小池壽男第八代部長が、9 月 1 7 日に岡田光夫監督が相次いでお亡くなりになりました。北海道大学馬術部に部長、監督として深く関わってくださり、また馬術界において偉大なご功績を残された先生方に敬意を表して特集を組むことといたしました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



番号	お名前	ご所属・卒部年
1	半澤 進	半澤先生御長男
2	半澤 直子	半澤先生御奥様
3	齋藤 善一	第9代部長、OB S28
4	河田 啓一郎	第7代部長
5	鎌田 正人	北海道乗馬連盟、OB S29
6	千田 哲生	OB S31
7	小野 忠	RCメインフィールズ
8	新矢 国夫	北海道乗馬連盟
9	谷口 建一	フロンティア乗馬クラブ
10	三浦 勲	旭川乗馬倶楽部
11	市川 瑞彦	第10代部長、OB S38
12	松井 亮	OB S46
13	井上 京	現部長、OB S57
14	野中 千加子	OB S61
15	中川 千夏子	OB S60
16	成田 慎二	特別後援会員
17	水野 佑亮	OB S40
18	八木 多賀子	OB S41
19	大澤 竜子	OB S40
20	熊谷 圭	宮城県馬術連盟
21	荒川 清	OB S32
22	加藤 正昭	OB S42
23	片寄 隼	特別後援会員
24	小栗 紀彦	OB S41
25	宮浦 実	旭川乗馬倶楽部
26	柴田 好	特別後援会員
27	寺澤 実	北大農学研究院
28	(中野)	中野兼一・理香夫妻ご子息
29	(中野)	中野兼一・理香夫妻ご息女
30	井戸田 悠作	酪農学園大学現役4年目
31	今井 敏郎	OB S47
32	南部 孝一	OB S49
33	大木 誠示	OB S40
34	山崎 善輝	北海道乗馬連盟

番号	お名前	ご所属・卒部年
35	斉藤 委久子	OB S58
36	川俣 由美子	OB S57
37	松下 敏昭	北海道乗馬連盟
38	三味 直吉	マオイホースパーク
39	高野 文彰	OB S41
40	久保田 学	十勝柏友会乗馬倶楽部
41	奥野 静子	OB S35
42	粟津 健太郎	OB S35
43	半浦 剛	OB S53
44	中野 兼一	OB H1
45	中野 理香	OB H4
46	石川 信行	OB H2
47	関田 愛子	北大馬術部現役4年目
48	山川 雅裕	OB S52
49	世良 健司	OB S59
50	陣川 雅樹	OB S62
51	千葉 幹夫	OB S34
52	本村 洋文	OB S51
53	横山 豊昭	OB S48
54	堤 秀世	OB S46
55	森本 悌次	OB S35
56	仲村 秀喜	OB H2
57	鍋谷 康次郎	碧雲クラブ
58	広瀬 春行	ノーザンホースパーク
59	鷺田 潤弥	碧雲クラブ
60	林 宣隆	北大馬術部現役4年目
61	久保 裕道	北大馬術部現役4年目
62	住江 康晴	北大馬術部現役3年目
63	前田 晋也	OB H18
64	池谷 雅史	北大馬術部現役3年目
65	上田 靖子	OB H6
不在	吉崎 敏之	スパイス乗馬クラブ

撮影者 日野 恵介 OB H17
 受付 川崎 佳子 OB H12
 受付 馬場 絃子 OB H17

List of Books concerned to
Horses

Michi Harzawa

- All About Horses* Orbit Publishing London
The full color guide to schooling, riding and managing horses
- All About Riding* (Dorothy Johnson) Stanley Paul / London 1968
Learn to Ride it and Ride well with an Introduction by David Braine
- All Colour book of Horses* (Elizabeth Johnson) Octopus Book Limited
reprinted 1974 pp. 72
- Album of Horses* (Marguerite Henry) Rand McNally & Company
Illustrated by Wesley Dennis pp. 87 1979
- Animal in Motion* (Eduard Muybridge) Dover Publications, Inc. New York
edited by Lewis S. Brown 1957 pp. 183
- The Art of Long Reining* (Sylvia Stamer) J. A. Allen & Co. Ltd
An Instructional Treatise 1972 pp. reprinted 1978
- An Atlas of Animal Anatomy for Artist* (W. Ellenberger, H. Baum and
H. Dietrich)
2nd Revised and Expanded Edition 1949 96

- The Batsford Book of Horses* (Doriam Williams) B.T. Batsford Ltd
1974 (first published 1971) pp.
- Caravetti* (Reiner Klimke) Franck'sche Verlags handlung Stuttgart
Ausbildung von Reitern und Pferd über Badenwiesles pp. 128
- Caravetti* (Reiner Klimke) Translated by Daphne Machin Goodall 1988
Schooling of horses & rider over ground rail. J. H. Allen & Co Ltd London
- The Classic Encyclopedia of the Horse* (Dennis Staquer) Bantam Books
New York (original published 1967) 1980 Edition pp
- Cheval Ma Mia* (Yves Benoist-Gjonière) Librairie des Champs-Élysées
400 Croquis légendes sur la Pratique de l'équitation 1979
- Cheval Mon Cher Louis* (Yves Benoist-Gjonière) Librairie des Champs-Élysées
Tous des Soirs Aux Chevaux En 500 Croquis Légendes 1983, 1976
- The Colour Book of Horses & Ponies* (Jane Reid)
Mandarin Publishers Ltd Octopus Books Ltd 1982

- Commonsense Horsemanship* (Vladimir S. Litauer) New Revised Edition
1974 Arco Publishing Co Inc
- The Complete Book of The Horse* (Consultant Editor Pamela Macgregor-Morris
Technical Consultant Jane Stankov with a Foreword by Lucinda Prentiss Palmer)
Hamlyn London New York Sydney [4 Red Book] Toronto 1979
- The Complete Horse Encyclopedia* (Compiled by Richard Meade)
Salamanca Book published by Hamlyn
- The Country Life Book of the Horse* (Robert Finem) Grisewood & Dempsey
Ltd 1979 (first printed in 1979)
- Cross Country Riding* (Michael Clayton) Country Life Books 1977
pp 224
- Designing Courses and Obstacles* (John H. Fritz Edited)
Shah Jumping / Paola Casarossa; Hunter Seat Equitation / Georg H. Morris
Hunters / Christina Jones Hogan; Eventing / Bill Thomason
1986 Houghton Mifflin Co Boston

- Dressage Begin The Right Way* (Lockie Richards) ^{1st publ. 1975} 5th impression 1984
David & Charles, Newton Abbot London North Pomfret (VT) U.S.A.
- The Dressage Formula* (Erik F. Hebermann) J. H. Allen, London 1984
Foreword by Egon von Neindorff
- Dressage Riding* (Richard L. Watjen) J. H. Allen & Co
A Guide For the Training of Horse and Rider
- Dressage Terms* (Léonie M. Marshall) J. H. Allen London & New York
(Glossary of judges' dressage terms. 1979, Reprinted 1981, 1982, 1984)
- Dressage Tests Folder* (British Horse Society) J. H. Allen Co. & Ltd.
- Das Dressur Pferd* (Harry Boldt.) 1978 by Edition Harberbeck pp. 351
- Effective Horsemanship for Dressage Three-Day Event Jumping and Polo*
Diagrams by David Rook 1967 Arca Publishing Company Inc. New York
- Encyclopedia of Horse* (Elwyn Hartley-Edwards (editor))
1977 Octopus Books Ltd. printed in Great Britain

- Equitation* (British Horse Society) 1982
Training of Rider and Horse to Advanced Level
Country Life in Association with the British Horse Society
- The S.R. Direct Mail Books of Eventing* (Alan Smith & Brian Giles)
1984 Stanley Paul & Co. Ltd. pp. 221
- The Family Library of Horses* (Elwyn Hartley-Edwards) pp. 80
(first published in 1981 by Octopus Books Ltd. (Printed in Hong Kong))
- The Festival of Dressage* (Jane Kidd) 1981 Stanley Paul pp. 142
- Great Riding Schools of the World* (Dorian Williams) Weidenfeld and
Nicolson, London 1975
- Guide to the Horses of the World* (Caroline Silver) 1976 Elsevier
Publishing Projects, S. A. Lausanne (over 120 breeds described)
- Guide To Riding & Horse Care* (Elaine Knox-Tompson Suzanne Dickens)
1977 Paul Hamlyn Limited pp. 156

- L'Habit Du Cheval (Selle et Baide Par Christian H. Tardard)*
Format 25x28cm 296 Pages, 244 illustrations couleurs, 250 illustrations
en noir et blanc, 130 Dessins. Office du Livre, Fribourg (Suisse)
- The Hamlyn Guide to Horses and Ponies of the World (Elwyn Hartley Edwards)*
The Hamlyn Publishing Group Ltd. 1979
- The Handbook of Riding Essentials (François Lemaire de Ruffieu)*
Harper & Row, Publishers. New York. 1986 pp. 11
- To Handmake a Saddle (J.H.L. Shields)* J. H. Allen, London. 1975
- Horses (Maira Duggan)* Golden Press, New York. 1974
- Horses (Angela Layer)* Multimedia Publications (UK) Ltd. 1984
- Horses (Maira Duggan)* Western Publishing Co. Inc and The Ridge
Press Inc Ill. 1974
- Horses and Ponies (Judith Campbell)* Published by The Hamlyn Publishing
group Limited 1970. Hardback edition published 1979

- Horses and Ponies (Judith Campbell)* Published by the Hamlyn Publishing
Hamlyn all-color Paperbacks Group Ltd. 1975
- Horses and Ponies (Neil Duggall)* 1976 Octopus Books Limited
Including the Breeds of the World, the trails of racing and show-
jumping and the care of your own horse or pony. pp. 120
- Horses and Ponies (Robert Owen)* Hamlyn London 1978 pp. 61
- Horse and Pony Dictionary (Robert Owen)* Country Life Books, 1984
- Horse and Pony Manual, The Salamander (Compiled by Tania Kidd)*
A comprehensive guide to caring for training and riding
your horse, published by Salamander Books Limited, 1977, 1984
Consultant and co-authors: John Kidd, David Hunt, Sheila Ludwick,
Pamela Macgregor-Morris, Steven Price, and Tani Webber.
- Horse of the World (Pamela Macgregor-Morris and Nereo Lugli)*
In full colour - a description of today's horse and pony breeds,
their history and evolution, 1973 Orbis Publishing, London

The Horse (Michael Seth-Smith (general Editor)) Octopus Published 1979
 printed in Italy pp. 479

The Horse (Candida Gueddes Editor) Octopus Books Ltd 1978
The Complete Book of Horses and Horsemanship

Horses' Heads in Oils and Pastels (Don Schwartz)
 A Walter J. Foster Publication

Horses in Action (Walter J. Foster) Published by Walter J. Foster

Horse in Japan (Nevienne Kensick) J. A. Allen & Co 1964
 printed in Japan by the Hokuseido Press for J. A. Allen & Co. Ltd.

Horse Owners Handbook (Lesley Eccles)
 A Practical Guide, Emap Books, 1985

Horsemanship, Basic for Intermediate Riders (Evelyn Perrier)
 Arca Publishing, Inc. New York, 1984

Horseback Riding (Sports Illustrated) J. B. Lippincott Company, 1971

How to Become A Better Rider (Bill Weikel, Editor)
 The Farnam Horse Library, March 1976, Eight Edition

How to Break and Train the Western Horse (Bill Weikel, Editor)
 The Farnam Horse Library, October 1975, Seventh Edition

How to Buy the Right Horse (Margaret Cabell Self) Bill Weikel Editor
 The Farnam Horse Library, Jan. 1977, Sixth Edition

How to Correct the Problem Horse (Dore Jones) Bill Weikel Editor
 The Farnam Horse Library, March 1976, Fifth Edition

How to Draw Horses (Walter J. Foster) A Walter J. Foster Publication
 A simple way to draw Horses

How to Raise A foal (Peggy Pittenger) Bill Weikel Editor
 The Farnam Horse Library, January 1977, Fifth Edition

How to Shoe Your Horse (Robert H. Wiseman) Bill Weikel Editor
 The Farnam Horse Library, January 1977, Seventh Edition

How to Show Your Horse and Win (Ronnie Richards)
The Farnham Horse Library, 1974

An Illustrated Guide To Horse and Pony Care (Jane Kidd (compiled))
A comprehensive guide to training, schooling and caring for your horse
Published by Salamander Books Limited, 1981

An Illustrated International Encyclopedia of Horse Breeds & Breeding
(Jane Kidd). Salamander Books Limited, 1985

An Introduction to The finer points of Riding (A. K. Frederiksen)
J. A. Allen & Co Ltd 1969 revised 1978

The International Horseman's Dictionary (Zdyislaw Baranowski)
Lexique International du Cavalier, Internationales Pferd Lexikon
Pitman Publishing London 1955, this edition 1975

The International Horseman's Dictionary (Charles Stratton)
The Hamlyn Publishing Group Ltd, 1975

Kavalkade (Wagner/Meyer) Herausgeber Reiter Revue
Olympische Reiterspiele Montreal '76

078 28-35 (27x23)

Kavalkade (München) (Wagner/Meyer) Olympische Reiterspiele 1972
Herausgeber von Reiter Revue International im Lapp Verlag

Know All About Tack (George Dulanev)
The Farnham Horse Library, November 1974 Third edition

Know All About Trail Riding (Sharon Saare) Bill Weikel Editor
The Farnham Horse Library, January 1977 Third edition

Know the American Quarter Horse Bill Weikel Editor
The Farnham Horse Library 1972 October Fifth edition

Know the Anatomy of the Horse (Donald L. MacDonald) Bill Weikel Editor
The Farnham Horse Library, April 1974 Third edition

Know the Arabian Horse (Gladys Brown Edwards) Bill Weikel Editor
The Farnham Horse Library, April 1974 Third edition

Know English Equitation and Training (Bruce and Sue Coen)
The Farnham Horse Library 1972

078 28-35 (27x23)

Know first Aid for Your Horse (G. Morris Beeman, D.V.M.)
Bill Weikel, Editor, The Farnam Horse Library, March 1976

Know Practical Horse Feeding ^{seventh edition}
The Farnam Horse Library, Bill Weikel, Editor, March 1976

Know Stable Design and Management (Lawrence Langer)
Bill Weikel, Editor, The Farnam Horse Library

Let's Ride (Carol Green) 1979, Octopus Books Limited

Mounted Games and Gymkhanas (A British Horse Society Publication)
1961, Northbourne Press Limited, Coventry, eng. 3 Pf.

The Noble Horse (Monique and Hans D. Rosenbach)
König Pferd 1938, G. K. Hall & Co. 1985 pp. 448

Picture The World of Horses (Sally Gordon and Peter Roberts)
1983, Sally Taylor, published by Hodder and Stoughton Children's
Book 1983, printed in Italy

Pratique du Jumping Moderne (Comte Tostani) Arthaud, 1971

Progressive Step in Riding (Peter Churchill)
Further principles of Horsemanship, 1964, London Blandford Press

Reiten - fahren - Voltigieren (Erich Oese) Verlag J. Neumann-Neudamm
Ein Handbuch für die Ausbildung von Reiter und Pferd, 1973

Das Reitpferd (Von Albert Brandl, Fotos Thomas Mayer, Gestaltung Rolf
Lange, Edition Haberbeck) 1977 by Edition Haberbeck Dr. H. und
Dr. H.R. Haberbeck Verlagsgesellschaft mb.H. Lage-Lippe 4 Auflage 1979
11 397

Riding Gymkhana Winner (Martha Josey) Bill Weikel, Editor
The Farnam Horse Library, January 1977, Fourth Edition

Riding Newnes All Colours Guide (Robert Owen & John Bullock)
Newnes Books, England, 1984

Riding The Show-Ring Hunter (Jane Marshall Dillon) Bill Weikel,
Editor, The Farnam Horse Library, printed in U.S.A. 1971

Saddlery (E. Hartley Edwards) first published in 1963
Reprinted in 1981 J. H. Allen & Co. Ltd.

Saddlery and Equipment, The Country Life Book of (Elwyn Hartley Edwards) Country Life Books, 1981 printed in Italy pp 256

Das schwierige Pferd (R. S. Summerhaas) *The Problem Horse* (J. H. Allen & Co.)
Unterrichten im Stall und reitenden Reiter, Frankische Verlagshandlung, Stuttgart, 1975

The Sport of Queens (Dick Francis) Harper & Row, Publishers
The exciting life story of a champion steeplechase jockey, who is also a world-famous suspense novelist, 1969

The Sporting Horse (Peter Churchill) Marshall Cavendish, London & New York
The history, the riders & the rules of popular equestrian sport, 1976

Das Spring Pferd (Fritz Thiedemann) 1979 by Edition Harberbeck

Spring Reiten (H. Paalman) Frankische Verlagshandlung Stuttgart 1975
Ausbildung von Pferd und Reiter für den Spring Sport Parcoursreiten,
Parcours Gestaltung

078 53-25 (21x22)

Steeplechasing (John Hislop illustrated by John Skeaping) 1970
first published 1951, J. H. Allen & Co. Ltd. London

Teach Yourself to Ride a Horse (Cynthia G. Hurlock)
Prentice-Hall, Inc. Englewood Cliffs, New Jersey, 1978

Textures of Animals (Walter J. Wilderding)
A Walter J. Foster Publication

Thinking Riding (Molly Sirewright) J. H. Allen, London 1979
Book I Training Student Instructors

Thinking Riding (Molly Sirewright) J. H. Allen 1984
Book II "In Good Form", Horsemanship - Study and teaching

The treasury of Horses (Contributors Charles Cheneria Trench,
Judith Campbell, Walter D. Osborn, Michael Seth-Samish,
Elwyn Hartley Edward
first published 1972 by Octopus Books Limited, reprinted 1975, pp 137

078 53-25 (21x22)

This is Riding (Gunnar Hedlund) English translation George G. Harrap & Co.
Dressage, Jumping, Eventing in Words and Picture Illustrations
D.L. 63 11130. 1978.1. Printer Industria Grafica sa Provenza, 393
first published by Albert Bonniers Forthlag, Stockholm 1978 under the
title *Detta är ridning* (Gunnar Hedlund) 1978.

Training The Young Horse The first Two Years (Anthony Crossley)
Stanley Pahl & Co Ltd 1978 pp. 191

Training Your Own Horse (Mary Rose & Beth Hild.) (Author of *The Horseman's*) notebook
Harrap Limited 1977 Reprinted 1979, '82, '83, '84 (twice) '85 pp. 217

Understanding Horse Psychology (Bill Weickel, Editor)
The Farnham Horse Library March 1976 Sixth Edition

The United State Cavalry An Illustrated History (Gregory J. W. Ursin)
Illustrated by Ernst Lisle Beedstrom 1984
Blandford (Press) Books Ltd

L'univers du cheval (Mirsula Baums/Elisabeth Weiland)
Office du Livre, Fribourg 1977 (Suisse) Printed in Germany

The Wonderful World of Horses (Matthew Lang)
First published 1976 by Octopus Books Limited, London pp. 96

The Wonderful World of Ponies (Angela Saeffer)
Hamlyn London New York Sydney Toronto 1978 pp. 95

The Wonderful World of Horses (Jane Burton & David Gibbon)
produced by Ted Smart. Colour Library International Ltd. 1976.

The World of Horses (Judith Campbell)
Published by Hamlyn Publishing Group Limited 1969

World Encyclopedia of Horses (Introduction by David Braame,
edited by Maureen Clerkia) 1977 Octopus Books Limited

The World of Nature Horses of the World (Pamela Macgregor Morris
and Nereo Lugli) Orbis Publishing London 1973 pp. 129

The Young Rider (Robert Owen & John Bullock) 1977
Country Life Books by The Hamlyn Publishing Group Limited

日本語版書目 (例)

No. _____

乗馬教科書			社団法人 日本馬術連盟
乗馬の教科書			"
馬術の教科書			"
乗馬の教科書 (上級人馬への訓練用)			"
乗馬の教科書			"
乗馬の教科書 乗馬の教科書			関西愛馬倶楽部連合会
乗馬の教科書 乗馬			日本馬術連盟
乗馬の教科書 乗馬の教科書		乗馬の教科書	日本中央競馬会
乗馬の教科書 乗馬の教科書			"
乗馬の教科書			"
乗馬の教科書 乗馬の教科書		乗馬の教科書	"
乗馬の教科書 乗馬の教科書			監修 千葉謙夫
乗馬の教科書 乗馬の教科書			監修 千葉謙夫
乗馬の教科書 乗馬の教科書			日本中央競馬会
乗馬の教科書 乗馬の教科書			日本馬術連盟
乗馬の教科書 乗馬の教科書			日本中央競馬会
乗馬の教科書 乗馬の教科書			"
乗馬の教科書 乗馬の教科書			監修 千葉謙夫 監修 監修
乗馬の教科書 乗馬の教科書			千葉謙夫 監修
乗馬の教科書 乗馬の教科書			千葉謙夫 監修
乗馬の教科書 乗馬の教科書			千葉謙夫
乗馬の教科書 乗馬の教科書			小津英太郎

柔らかなまなざし

正富宏之（S30卒）

半澤先生の、岡田さんの、あの柔らかなまなざしを、私は今も忘れることが出来ない。半澤さんというお名前は、中学生のころから知っていた。ただしそれは、半澤洵、つまり納豆博士といわれた半澤道郎先生の父上を通じたものであった。大学生になって、私の家から魔の踏み切り(今ではそう呼ばれていたことを知る人も少ない北7条の JR 踏切。高架橋になって今はない)を通る道すがら、当時まだ閑静であった桑園のお宅の前を、表札をみながら歩いたものだ。

馬術部にはいって、半澤道郎先生に初めてお目にかかったのがいつかもう忘れてしまったけれど、お父上(2・3 度お宅付近でお姿を拝見したことがある)に似て細身の、メガネの奥に柔らかなまなざしを持たれた先生という印象が残っている。

先生に接する機会が多くなったのは、馬術部員であったときより、北大乗馬同好会に所属するようになってからだ。大学院時代と北大の非常勤講師をしていたほぼ 9 年間、行事などの折にお目にかかることが多かった。ときには、当時理学部教授の高杉直幹先輩が、半澤先生のことを「みっちゃん」などと呼びかけられた、ごくくだけた場所にご一緒したこともある。そんなときにも、あの柔らかな目が、めがねの中にあっただものだ。

岡田さんに初めてお目に掛かったのは、まだ北大に乗用馬がないため、競馬場前の広場で練習をしていたころではなかったかと思うけれど、はっきりとは思い出せない。その後は、やはり同好会時代に、お目にかかることが多かった。背をすっと伸ばし、きびきびと鞍付けをされながら、トレードマークのソフト帽の下の眼鏡の奥に、やはり柔らかなまなざしを湛えておられた。

「あの人は、ほんとにまじめで一生懸命だから、やりにくいよ」といった、半ば敬意を込めた市会議員のぼやきを聞いたこともある。岡田さんは市役所の幹部だったから、議会でのやり取りも大変だったと思うが、馬場での岡田さんからは、そんな苦労など微塵も感じとることは出来なかった。競技中にお乗りの馬が障害を嫌って待機場へ帰ってきて、「失敗！失敗！」とおっしゃりながら、眼鏡の奥から、いくぶんの悔しさをにじませて、馬へ柔らかなまなざしを注いでおられた。

お二人のことを思い浮かべたとき、そのまなざしはいつも柔和なイメージを持って私の脳裏をよぎる。人や、あるいは生き物に、私はいつも柔和な目を向けているだろうか。冷笑やさげすみや憎しみ、さらには卑屈なまなざしを向けていないだろうか。人生の終わり近く、多くの人にお会いしてきて、私はどれだけの方に柔らかなまなざしを印象として残し得ただろうか。まさに、忸怩たるものがある。

だからこそ、私はお二人の柔らかなまなざしを、今も忘れることが出来ないでいる。

半澤先生・岡田監督の思い出

東京OB会 会長 樋口正明(S34卒)

ポプラ並木横の厩舎・馬場に、いつも通っていた学生時代から、半世紀がたっている。その頃から、半澤・岡田両先輩のご指導を受けてきているが、ここではOBになってからに、絞らせていただくことにする。

昭和34年、東京OB会が在京OBの有志によって発足している。半澤先生が、学会・馬術連盟などのことで上京されると、先生を囲むOBの集まりが催され、東京のOBと先生とのご縁は長く続いていた。馬術部創立40年の写真集（半澤先生退任記念）に、東京OB会の武田朝男さん・東園基文さんが、半澤先生について書かれた思い出をご覧になった方もあると思う。東京OB会の行事にも参加されている。あるときは、先生の日程に合わせて東京OB会を開催し、喜んでいただいたこともある。

馬術部長としての先生は、馬術部のことをいつも考えておられた。ある時代、調教・練習などについて、部の役員の対応を心配されて、OB会から役員に提言して欲しいとのお話があって、千葉幹夫さんをお願いをしたこともある。

折にふれてお話をしているうちに、先生が中学時代、お父上の半澤洵先生（納豆菌の）とともに、海軍軍人だった私の父が乗っていた軍艦を見学されていたという、思いがけないご縁を知ることが出来た。OBになってからしばらくたった頃のことと思う。

OBになってから岡田さんにお会いしたのは、卒業して4年ほど後のことだった。勤めていた東京都庁乗馬部の人達と、札幌競馬場で合宿をしていたとき、岡田さんが訪ねて来てくださった。東京OB会による馬術部の支援が続いて、OB組織の誕生をとっても喜んでくださったのが印象に残っている。

札幌オリンピックの後年、北海道出張の機会に、早朝の馬場に行ったことがある。その朝は、岡田さんが来ていらして、東京OB会の乗馬会が話題になったのを覚えている。そのあと、車で北18条の馬場から大倉山シャンツェ等の、オリンピック施設を案内していただき、札幌の都市計画を説明していただいたことも思い出される。

馬術連盟の審判講習会で一緒になり、鎌田先輩をまじえ、杯を挙げたこともある。また、岡田さんのお嬢さんが私の家の近くにいらして、ご案内したご縁もあった。

昨年（平成18年）11月、全日本学生の競技会の際、東京OB会の激励会が催された。若い部員諸君と話をしているうちに、いつしか半世紀前の馬術部が重なり合い、懐かしい半澤・岡田両先輩の馬上姿が浮かんでくるのだった。

森本 悌次 (S35 卒)

半沢先生とは在学中よりは卒業してから深いお付き合いをさせていただいた。日本橋に勤務地があった頃、もう40年以上も前のことで、時折上京された先生が訪ねて来られることが。その夜はお酒のお供をするのが常で、よく新橋あたりでお相手をしたのもつい最近のこのように思い出されます。又、私が札幌へ言った折も必ず先生に電話を入れるとその夜はススキノでのハシゴ酒となりました。夜中にタクシーでお宅まで送っていくと明日朝は馬場で待っているからねと言われて、こちらもやっと北18条の馬場へ行くと先生は出掛けにビール1本飲んで歩いてきたと言われてそのお元気に脱帽したこともありました。

先生は確か明治の終わりのお生まれで、私の親父と同じご年輩で、その意味で失礼ながら親父と一緒に酒を飲んでいるような気持ちでした。その自分もその頃の先生のお年をすでに越してしまいました。昨年先生の追悼の会に出席して奥様のお元気なお姿を拝見して安心しました。今はその頃の自分より年長になった息子と二人でよく居酒屋で飲んでいます。



世界のライダーに愛用される
ARIAT ブーツ
その理由は履けばわかります



ARIAT COBALT DEVON PRO

乗馬用品専門店
(株)ライトスポーツ・ルウム

〒550-0015 大阪市西区南堀江 4-2-3
TEL 06-6533-0777 fax 06-6533-0778
URL: www.ruhm.co.jp
E-mail: info@ruhm.co.jp



カラー: ブラック、コードバン
価格: ¥38,850(税込)

ポプラ並木に道祖神

大場善明 (S37卒)

手稲の山脈をわたる風がさわさわとポプラの梢を揺らし、一瞬天を突く静寂が蒼空に立ち塞がる。まるで忍び足で迫る猫が、一瞬立ち止まり振り返るときのように。そして再び何事もなかったように、さわさわとポプラの葉づれのみが消えてゆく。札幌を思うときそんな光景が繰り返し蘇ります。このところ不器用なマジックハンドの遠隔操作にも似て「ポプラ並木再生」、「馬運車支援」、「後援会ホームページ」とのお手伝いもどきに、隔靴搔痒の思いもあわせて響きます。ふとあれこれ思い過ぎすうち、さらに今も確実に時の流れが刻まれていることにも驚いています。

私どものあの頃、中谷宇吉郎先生の「人工雪誕生碑」がある中央通り両脇に、大きなポプラが聳えていた。あのポプラも十数年前には台風被害で朽ち果て、交通事情の安全から切り倒されるニュースを東京で聞いたときも悲しくなった。今すぐにでもあの「大野池」に佇み、ポプラの梢を思い出したい衝動に駆られてくる。去年は、半澤道郎第六代部長、小池壽男第八代部長、そして岡田光夫監督までにもお別れすることになるとは。一期一会の虚しさをかみ締めながら、なおかつ、とても恩師の“歩幅”には及びもしないのを承知の上で、その“蹄跡”をささやかに追憶し踏みしめてみたい。ともにご冥福をお祈りする。

私の在籍時の北大馬術部長は、第四代部長「太秦康光先生」だった。この太秦先生は戦中、戦後の北大馬術部休眠状態が途中あったにせよ、わがまま身勝手な部員を戒め、「部長」を23年間もお勤めいただいた。時代遅れの表現で不適切かも知れないが、言ってみれば私たち馬術部の団体意識、結合の象徴とも言える「鎮守様」だったと思う。

同じように響えるなら第六代部長の「半澤道郎先生」は、組織の守り神、繁栄と安全を支える「道祖神」のように私には思える。いつの時代も難問を抱えた馬術部の節目々々には、必ず決まって「半澤道郎先生」がおられた。日本の古くから、村々の入り口を示す道程標一里塚、あるいは田圃の畦道に柔和な笑顔を傾け、繁栄と安寧を授ける石仏「道祖神」のような「恩師」だったことを思い返している。

昭和29年の札幌国体開催。そして北大馬術部初めての馬術部専用“自馬”の繁養。第一農場管理から学生部への“自馬”移管。「ポプラ並木馬場」廃止に伴う移転先の交渉確保。「18条馬場・厩舎・部室」の施設新築。いずれの難事業も総て「半澤道郎先生」が成し遂げて下さった。私どもの卒業後、その競技会誕生までの詳しい経緯は知らないが、五月に開かれている公式競技会「太秦杯馬術大会」が、いつのころからか「半澤杯記念大会」の名称に変わっているのにも、「半澤道郎先生」これらのご功績を思えばなんら不思議でもないし、当然のこととして受け入れられる。奇しくも半澤先生のご命日が、平成18年5月4日、半澤記念杯の無事終了した「当日」であったことも強い印象として残る。

昭和三十年代の終わり、まだ馬術部の部室が第一農場の大谷石造りの一角にあったころ、

「半澤道郎先生」は部室前で見せるにこやかなお顔とは正反対に、きりりと真一文字にお口を結ばれた厳しい表情で、第一農場事務所の扉に向かわれる姿が日常となっていた。馬術部の恒常的資金難から、「支払いが遅れ、いつもの店が燕麦を売ってくれない」、「雪道に氷上鉄（スパイク）が磨り減っても、てつ（蹄鉄）屋に連れて行けない」。そんな部員の代弁のために、毎日のように農場事務所に陳情されたお姿は、今も忘れない。あのころは、馬術部の所管を農場から学生部に移譲するための極めて重い毎日だった。

だがしかし、必ず毎週土曜、日曜のポプラ並木馬場には、「エリザベス」（北翠）の鞍上にこぼれるような半澤道郎先生の笑顔もあった。そのむかし札幌の道営競馬「繁駕レース」を軽快に走っていた「中半血」とのこと。速歩がことのほか得意で、部班運動ではすぐに前の馬に追いついてしまい、馬間隔を取るのに部員の誰もが苦勞させられたものだ。馬術部の自馬の中でも、とりわけ半澤道郎先生に可愛がられた馬「エリザベス」もいた。

またあるとき東京OB会の「乗馬会」が、千葉幹夫先輩の計らいで馬事公苑で開催されていた。たまたま半澤道郎先生も日馬連の理事会出席のために上京、馬事公苑のOB乗馬会にお見えになられたことがあった。乗馬会も終わりに近づいて、千葉幹夫先輩が調教中の茸毛の馬場馬を供覧のため特別に馬場へ連れてこられ、全員で見学することになった。千葉幹夫先輩の「パッサージュも教えている」の声に、馬装のOB会員には恐る恐る見上げるのが精一杯だった。私たちの時代、馬場内に立ち入るにはどんなときも、きちんと「馬装を整えて」からが鉄則であり、先輩からの厳しい教えで貫かれていた。そのとき後方から頭越しに、半澤道郎先生が「僕にも乗せて！」と会議場でのネクタイ正装、タウンシューズのまま馬場中央に駆け込んできた。Yシャツのカフスポタンも飛び散るばかりの勢いで、あっという間に飛び乗られたのには正直驚いた。あの時の得意満面、先生のあの笑顔も忘れられず、私には蘇ってくる。

とにかく情熱を振りまき、理論家の半澤道郎先生には、とことん自分で試される信念がいつも垣間見えていたのを思い出します。わが恩師へ、今となっては、ただ感謝の気持ちだけがこみ上げてまいります。ありがとうございました。合掌。

半沢先生

昭和 37 年林産学科卒

志水一允

私は深川木場の材木商の息子で、化学が好きでした。また、母方の祖先は徳川幕府の騎兵隊でしたので、DNA がうずいていました。大学では、林産学科と馬術部に入ることを決めていました。必然的に半沢先生にお世話になることになっていました。

私が林産学科の学生になった頃は先生がアメリカ留学から帰られてまもなくの頃だったと思います。留学中に乗馬に興じられておられた写真を見せていただいた記憶があります。当時教授室で、先生は分厚い洋書を顔を擦り付けられるようにしてよく読んでおられました。ある時、先生を訪ねたおり、書物から顔を上げられて「目が悪くて人の半分も勉強できない」と嘆かれました。私は「よく障害を飛ばれますね」と訊ねると、「あれは馬が飛ぶんだ。障害はぼんやり見えているだけだ」と言われて吃驚したことがあります。

先生にはいろいろお世話になりましたが、その一つに就職があります。私は、当時、旭川にあった「北海道木材化学工業」を就職先として希望していました。北海道の広葉樹材を 1 日 100 t 処理して、ブドウ糖（グルコース）を生産する工場です。私が 3 年目の昭和 37 年に操業を開始したばかりでした。昭和 37 年は、東京オリンピックの開催される前々年に当たり、日本の産業が高度成長をはじめ始めた頃ですが、日本はまだ貧しくて甘味料が不足していました。私の同期の実吉君は合宿の折には疲労回復のためよくブドウ糖を舐めていました。この工場のブドウ糖は「エルムシュガー」のブランドで売られました。

夏休み近くなって、先生から「あの会社はどうも軌道に乗っていないようだ。秋に林業試験場の採用試験があるからそれを受けるように。」と願書を手渡されました。その年の国体と学生自馬選手権は 10 月に岡山で開催されることになっていましたので、岡山に行く途中、東京で受験することに決めました。試験場に行ってみると、採用人員 2 人に対して受験者は 30~40 人もいてとても狭き門です。とても受かるとは思えず、すっかり落ち込んで岡山に行きました。

岡山では気を取り直してともかくも演習をはじめましたが、ここでも意気消沈してしまいます。私の馬は“北楡”でした。この馬は、千葉幹夫先輩が乗られて、国体で優勝した実績をもっていました。私もこの馬と相性が合って、4 年生の頃はかなり自信をもって乗っていました。しかし、長旅の所為か北楡も元気がありませんでした。国体北海道チームの監督だった(?) 鎌田正人先輩が見るに見かねたのでしょう私に代わって乗られました。私は太い丸太で後頭部を殴られたようなショックを受けました。北楡の動きがまったく違うのです。自分の恋人だと思っていた女性が他の男と嬉々として歩いているのを見たような気分です。鎌田先輩は下馬して「この馬は千葉君がうまく乗ったんだ」といって立ち去られました。まったく自信を喪失して呆然としてしまいました。

学生自馬選手権には清水洋、岡田征至両君とチームを組んで出場することになっていました。清水君は国家公務員試験(畜産)に合格し、岡田君は拓殖銀行に内定していて、何の屈託もなく嬉々としていましたが、私はダブルパンチを受けて落ち込んでいました。

そんな折でした。半沢先生から毛筆でかかれた分厚い封書が私宛に届きました。ご存知の方も多いと思いますが、先生はとても達筆の方でした。開いてみて驚いたことに、「貴君

は成績が一番ではなかったが人物が評価されて(本当にそう書かれていました)合格したとの連絡を受けた。安心して試合に臨むように」とありました。小躍りして喜び、勇んで試合に臨みました。勿論上位の成績をと思いましたが、そうは問屋が卸しません。北楡との折合いがとうとうつかず、惨敗で、すごすご岡山から帰ってきましたが、見事な筆跡の手紙が胸を熱くしていました。その年の学生王座決定戦では、チームの優勝に貢献することができて、先生のご期待に応えることができました。

後でわかったことですが、半沢先生と林業試験場のそのときの部長とはポン友同志で、半沢先生の強い推薦があつての合格だったのです。また、旭川の木材糖化工場は操業 1 年余後の昭和 39 年に閉鎖されてしまいます。現在、地球温暖化、京都議定書の発効、石油価格の高騰などでバイオ燃料、バイオアルコールに関心が集まっていますが、この工場が存続していたらと感慨しきりです。林業試験場に就職して以来、研究生活 45 年になりますが、この間ずっとこの工場の再興が私の研究課題となってしまいました。半澤教室で学んだ木材化学で 45 年を過ごしたことになります。

もう一つ、忘れられない出来事があります。大学卒業 10 年後、札幌オリンピックのあった年ですが、私は運良く科学技術庁の試験に合格して、スエーデンに留学することになりました。その手続きのため、スエーデン大使館によく通いましたが、たまたま、これから北海道に観光旅行に出かけようとしているスエーデンのチャルマース工科大学(私の留学先)の学生夫婦に会いました。彼らは修学旅行で日本に来ていました。そこで、「北海道大学の半沢先生を訪ねなさい。きっと力になっていただける」と先生を紹介してしまいました。先生には「こんな学生が行くかもしれませんので、そのときはよろしく」と軽い気持ちで電話をしてしまいました。そうしたら、先生は札幌駅に馬術部員を連れて行って張り込み、彼らを捕まえ、彼らの北海道旅行の段取りをすっかり付けて下さいました。このことがあって、わたしは彼らにすっかり信頼され、彼らのおかげでスエーデンでの留学生活は素晴らしいものになりました。毎週末には、パーティー、スキー旅行、バドミントンなどのスポーツ、サウナ風呂などに招待してくれました。馬にも乗りに行きました。そんなことで一年はあっという間に過ぎてしまいました。大学での研究も順調に進み、この 1 年間で研究成果を基にして農学博士と学会賞を受けることができました。半沢先生も大変喜んでくださいました。このときは恩返しをすることができました。

私の研究生生活をいま振り返ってみて、大切なときに先生の後押しがあったのか先生の後押しがあったから大切なときになったのかわかりませんが、またとない大切なときに幸運を授かりました。

先生ありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

第8代部長小池壽男先生を偲んで

昭和53年卒 本城敬文

昭和52年3月に第7代部長河田啓一郎先生が北大獣医学部を退官されることになり、当時現役部員最上級生であった私は、同期の連中やOBの方と後任の部長をどなたにお願いしたらいいか頭を悩ませていた。我々の希望としては、できれば馬術部OBで部の活動内容や活動方針をよくご存知の方が理想で、さらに日頃病氣や怪我で獣医学部にお世話になることが多いため獣医学部の先生ならなおさらありがたいという考えであった。馬術部OBで大学におられた先生はほとんどおられなかったので、どなたにお願いすればよいかは明確であった。その先生を少しは存じ上げていたので、私がまず部長を受諾していただけるか探りを入れに伺ったところ、僕はもう（馬術部は）いいからと全くつれないご返事であった。体育会運動部としては在学の先生に部長になっていただかなくては部の存続に関わる大問題であり、頭を抱えてしまった。

私は、獣医学部3年生で外科学教室に所属していた。外科には酒井保先生という名物教授がおられたが、すでにラグビー部の部長をやられていたので無理であった。また私は馬匹という役職柄、外科学助教授の小池壽男先生にもいろいろお世話になっていた。そこで、小池先生にご相談したところ、〇〇先生がおられるじゃないかと返されたので、正直に断られた旨ご説明し部長を引き受けていただかないかとお願いした。

先生は、しばらく考えておられたが、しょうがないな、私が断ればあなた達も困るでしょうと言って快諾してくださった。今考えても、小池先生に断られていたら他に頼みに行く宛は全く無く、途方にくれるしかないところであった。

先生には、部長として馬術部の顔になっていただくとともに、繋養馬の治療や健康管理に一方ならぬお世話になった。今でもよく覚えているが、日曜日の練習で馬が転倒してしまい、重度の外傷を負ってしまったことがあった。多少の怪我は馬術部では日常茶飯事であり、消毒や湿布、抗生物質の筋肉注射などは見様見真似でやっていたが、その怪我は私がそれまで経験したこともないほどひどいものであった。さらに、平日なら当然獣医学部の家畜病院に連れて行くところだが、休日ゆえ病院は開いていない。しかたなく藁にもすがる思いで小池先生にお電話し、我々の手には負えないひどい怪我であるとお伝えしたところ、しょうがないなと言いつつも白石（だったと思う）からお休みのところだったにもかかわらず、すぐに駆けつけてくださり治療していただいた。

物静かで一見取っ付きにくそうな第一印象のあった先生であったが、前述のように我々学生の分際であっても、頼まれれば嫌とは言わない非常に心の温かい懐の深いお人柄であった。

また、全日学への遠征時に、遠征馬の疲労回復剤を準備するにあたって、先生のご指導の下、サリチル酸やブドウ糖を調合し精製水に溶かして滅菌して持っていったことを思い出す。あの当時は、研究室で行っていた実験のなどの調剤と同じ手順であり、大したことをやっているという感覚は無かったが、今思うと結構大胆なことを行っていた。とはいえ、その疲労回復剤が功を奏してか、昭和52年の全日学での成績は、障害の個人優勝・団体2

位という北大馬術部の歴史に残るものとなった。

私は昔の多くの馬術部員と同様、獣医学部卒業というよりも馬術部卒業といった方が正しい不勉強学生であったが、小池先生の配下である以上、外科の授業は真面目に出席していた。ただ勉強はあまりしなかったので成績は確か良どまりであった。教室の勉強会では、馬術部の私の参考になるように配慮してくださったのだと思うが、馬の関節炎の文献を与えられた。語学力の無い私は、単語を辞書で引くので手一杯であり、直訳して意味のわからない説明をしていると丁寧にフォローしてくださった。

4年生の秋、あまり就職願望も無かったが、馬に接する仕事がいいと思い、先輩のいる JRA を受験したら、周囲の予想に反して強力なライバルを押しつけて合格してしまった。その後、本命のマスター入学試験を受けたが、日頃の勉強不足がたたり見事不合格。これまではほぼ順風満帆であった私の受験人生で2度目の敗北であった（一度目は英検）。敗者復活の望みをかけて臨んだ教授会面接で、すでに JRA に合格していることを話すと、小池先生がそれならいいねと発言されあっさり不合格が確定してしまった。

現在、私が JRA で仕事をしていられるのは、小池先生のおかげである。先生は、私の人生のターニングポイントでこの道に導いてくださったのだと今になって思える。私は2年間しかご指導いただかなかったが、先生はその後昭和58年に外科学教授になられ、北大を昭和63年に退官されるまで11年間もの長期にわたり部長を続けてくださった。これは歴代部長のなかで第4代の太秦康光先生の23年に次ぐ長さである。

あらためてこの紙面をお借りして、小池先生の生前のご指導・ご活躍に対しお礼を申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

◇北海道大学水産学部馬術部◇

主将：工藤俊彦

[活動内容]

北水馬術部ではJRA函館競馬場乗馬センターにおいて競馬場の先生方のご指導のもと、学校のある平日は早朝に、土日祝日は一般の方・少年団と練習を行っています。

現在部員数は移行生16名を含め28名となりました。練習は基本的に自由参加なのですが、部員全員が毎日真剣に練習に取り組んでいます。今後も部員それぞれが目標意識を高く持ち、なにより部として楽しくやっていたらと思っています。

最後になりましたが、今後の北大馬術部のさらなるご活躍を部員一同、心より祈っています。これからもよろしくお願い致します。



[活動報告]

平成18年度の主な活動をお伝えします。

4月 春合宿：函館競馬場にて5日間の合宿

岩大招待試合：工藤(3年) 予選一回戦敗退

5月 半澤杯：70cm障害 佐藤(4年) 5位

庄(4年) 10位

中井(4年) 準優勝

90cm障害 坂井(4年) 10位

6月 代替わり：坂井前主将から工藤現主将に代替わり

北日本選手権：坂井(4年) 予選一回戦敗退

庄(4年) 予選一回戦敗退

中井(4年) 予選一回戦敗退

工藤(3年) 準決勝敗退

函館競馬開催

7・8月 函館競馬開催

9月 夏合宿：函館競馬場にて5日間の合宿

10月 移行生入部

山下杯：80cm障害 佐藤(4年) 3位入賞

寺野(3年) 3反抗失権

60cm障害 岡村(3年) 1反抗完走

笠原(3年) 優勝

森屋(3年) 準優勝

クロスバー障害 赤間(3年) 3位入賞

金川(3年) 優勝

11月 学祭：揚げアイス屋「アゲ♂アゲ♂EVERY☆ハイジ」を出店

ミニ大会：函館競馬場にて

12月 乗り納め会：函館競馬場にて

◇卒部に当たって◇

●一色 真明（前会計・車両、葉）●

とりあえず、この4年間は「楽しんでいこう♪」ってことを思ってきた。馬に毎日乗れて楽しい。高い障害が跳べて楽しい、試合に勝って楽しい…などなど。

やっぱり楽しまないとこんな厳しい部活やっていけないと思う。でも楽しければなんでもいって訳じゃなく、みんながhappyになるためには嫌でもやらなくてはいけない事はたくさん出てくると思う。うまくいかなくて悩むこともたくさんあるだろう。でもそこで腐ってしまわずに、悩みながらも、文句を言いながら、とにかく前に進んでみよう。その壁の向こうにはきっと今より何倍も楽しい事が待っているはず…。何かあったら、ゆずの「栄光の架け橋」を聞いてみてください。今年の部のテーマソングでした。名曲です。

なんて、僕がここまで適当に楽しくやってこられたのも、信頼できるドンパがいてくれたからこそです。僕はこの代の一員になれて本当に幸せでした。これからもよろしくね。そして多くの先輩方や後輩のみんな、本当にありがとうございました。兄弟のいない僕にとって本当の兄弟のような感じでした。先輩方を兄姉と呼ぶのがわかったような気がします。そして多くのお馬さんたち、君たちと一緒に過ごせて楽しかった、本当にありがとう。

—有言実行

—誰にも見せない涙があった？悔しくて眠れなかった夜があった？

—「ゲーネしゃん！」

—たこわさ好き

●久保 裕道（前主務、農）●

永い筈であった3年半があつという間に過ぎ去ってしまった。その時間を僕は流されていたのか駆け抜けていたのか、今となっては寧ろわからない。正しいと信じた道を信じ抜き、理想に裏切られたこともあった。自分の間違いに気付くことがあってもそれを信じたことを悔やまないようにやってきた。迷ったこともあればif話を思いつくこともあったけれど、それでもツギハギだらけの自分の旅に後悔したことはなかった。卒部するまで当たり前だったことが当たり前ではなくなったことが少し寂しいけれど、誇るべき道を歩めたことを嬉しく思う。

もうすぐ新しい旅が始まるけれど馬術部生活の中で多くの人や馬に関わって得たこと、知ったこと、学んだことを活かしていこうと思う。そんな僕の旅に関わってくれた皆さん、本当にありがとうございました。

—何事にもまっすぐでした

—追い鞭にあってます

—あなたに飲まされないと寂しいです

—入退場門ピョン！は伝説です。

●関田 愛子（前馬匹、葉）●

卒部して、いろいろな人に

「よく4年間続いたね！w(´o`;)w」 と言われました。

私はすぐにやめてしまうと思われていたようです。

でも実は、私が4年間も続いたことに一番驚いてるのは、私自身だと思います。

やめようと思ったことは何度となくありましたが、そんなときに励ましてくれた人、

優しくしてくれた人、厳しくしてくれた人、

陰で支えてくれた人、馬術の素晴らしさを教えてくれた人、

それから、かわいい馬たち。

そんな全ての人たちののおかげで私は4年間を馬術部で過ごし、

馬に乗る喜びを知ることでもできたのだな、と思います。

みなさん、どうもありがとうございました (o_+o)▼

—癒し系の関田姉がいなくなって部内は荒んでいます

—卒部してキレイになった気がします

—自分を曲げない姿勢はすごいです

—結局、乙女の心は分からずじまい

●林 宜隆（前主将・北日幹事、農）●

馬術部は馬好きだけが集まった変な集団でした。この四年間は馬と睡眠中心の生活でしたが、ただ馬と一緒にいることが楽しくて、ただ仲間と一緒にいることが楽しくて毎日部室に通いました。特に外乗は大好きで毎週のように行ったし、放牧されている馬たちや青草を幸せそうに食べている馬を眺めたりするのも好きでした。また、後輩を巻き込み、泊りでワイワイやったり馬場でサッカーや野球をしたりするのも部活での楽しみでした。馬とは関係ないですが、長岡さん帰りの温泉も好きでした。そんな楽しい日々を一緒に過ごした大好きな馬たちと大好きな仲間たちと全日の舞台に立ちたくて、今年はその思いを全て試合にぶつけました。結果はどうであれ4年間やってきて最後の試合になったとき、こんな思いになれたのは幸せだったと思います。ここで得られたものは一生の思い出と仲間という宝物です。馬が与えてくれた、一期一会の日々でした。本当にありがとうございました。

—頼れる主将

—主将の中の主将

—まさにリーダーの鏡です

—もう電話しないでください。怖いので・・・

●池谷 雅史（前副務、水産）●

この部活に入ってオレの人生プランが大きく変えられてしまった（気がする）。1年半で卒部できると思ったが早2年半。オレの考えが甘かったのか、これが運命だったのか…。

でも最後の1年が最も充実した1年でした。一般的に、客観的に見たらただのサボりの1年かもしれませんが、オレにとってはいままでの、そしてこれからの人生にとって不可欠な1年になりました。とくに自馬を持ったことでの楽しさはもちろんのこと、その責任の重さなどはやってみないと絶対にわからない貴重な体験でした。パワちゃんホントにありがとね。ほかにも社会性や部の経営、大会運営、日曜大工から農業、植林、除雪などなど…ホントなにやっつてんだろと思ったりもしましたが今考えると全てが自分を成長させてくれた気がします。

部に入ってからいろいろな人に迷惑をおかけしました。先輩方、わがままばかりで手を焼いたと思います。いろいろとお世話になりました。後輩たち、オレが暇だからっていろいろ付き合わせちゃってごめんね。悪い手本として自分を見直し、部を担っていく存在とってください。住江、山ちゃん、最後の1年やることはいっぱいあるけど、なかなか優秀な後輩もいるんだからそんなのは後輩にまかして悔いの残らない1年にしてください。パワちゃん、いい子にしてるんだよ。ありがと。

パワちゃん（・V・）イイ!!

- 一原チャリの音が懐かしいです
- 一どSですが素敵です
- 一上下関係なくいじり倒していた
- 一よく札幌に帰ってきます。またきてね

●沖 瞳（前馬備・記録、水産）●

馬術部に一年半所属して、自分の甘さというものを強く感じました。

初めて親元を離れ、初めての北海道暮らし、初めての大学、初めての馬との生活……と、初めて尽くしの一年半でしたが、その中で私は、自分が他の人の温情、支援に頼らなければ生きていくのもままならないちっぽけな存在であることを強く認識しました。

自分が何一つ立派に出来ない、どうしようもない駄目な人間だということを知りました。しかし逆に、それが分かってこそ開ける道もあるということも知りました。

この一年半、様々な楽しいこと、嬉しいこと、もちろん辛いこともありました。しかし、馬術部に入ったからこそ学べたことも数多くあります。

今では、馬術部で得た経験をもとに、どこに行ってもそれなりに立ち回れるのではないかという自信もつきました。

馬術部に入って良かったと、心から思っています。

一年半、一緒に現役生活を過ごした先輩、後輩、特に同輩には本当にお世話になりました。私の適当・気まぐれな性格に嫌気がさした人もいるとは思いますが、一緒に現役生活が送られて楽しかったです。ありがとうございました。

また、様々な場面でお世話になった方々にも、この場を借りてお礼を申し上げます。本

当にありがとうございました。

これで私の卒部の言葉を終わらせて頂きます。ここまで読んで頂き、ありがとうございました。

願わくば、現馬術部のアイドル・ゲネこと北碁が、いつまでも健やかに過ごせますように。

—助けてほしいときにぐっと来る一言をかけてくれました

—やっぱりおっきーの存在は大きかった

—ゴシップ好きだけど、意外に情報が遅い

—ゲネ



赤ひげ

で

よくコンパをやります。次のコンパが楽しみだ。

札幌市北区北22条西5丁目2-5

TEL 707-5076



一色兄と北碁号

久保兄と北旋風号





関田姉と北椎号



林兄と北鳳号

◇部員紹介◇

4年目(左から、谷山姉、住江兄)



●住江 康晴(主将、獣医)●

目覚ましをかけずに眠れる日々もあともう少しでくると思うと、月日の流れる速さを感じます。やり残しがなく思い切り眠れるようがんばります。

- 大変そうです
- 後輩だらけのなか部をまとめています
- 日野2世の呼び声が高い
- もうかぎ壊すなよ

●谷山 直美(馬匹、農)●

「馬が好き」だけじゃやっていけないけど、「馬が好き」だから続けています。あと1シーズンとなりましたが、「よかったね」って卒部できるようがんばります。

- シーズンに乗った谷山姉が好きです
- 部屋にアロエはなかったですね
- 影の主将
- 影の首領!?

3年目(左から、吉村兄、山川兄、小島兄、山中兄、谷口兄、宮本兄)



●小島 真宏(会計、経済)●

去年の部報のときから、さまざまな事情により名前を変えました。

- 率先して仕事をこなす後輩泣かせです
- とりあえずダイエット
- やせる気は無し
- ドンパにも後輩にも先輩がいる

●谷口 善彦(バイト関係・北日幹事、農)●

気が付けば馬術部生活も折り返し地点。今年は勝負の一年です。

- ムードメーカー
- 世界最軽量
- ナイーブな一面もあるらしいです
- 先輩なんて何もいえません

●宮本 亮（副将・車両、獣医）●

ここ2年間馬に乗るのが楽しすぎて単位をとるのを忘れてました。

- やっぱり宮本兄にはオーラを感じます
- 真面目で努力家の兄
- いままで話がかみ合ったことはありません
- 部員総会中によく変顔してます

●山川 倫明（主務、経済）●

もう少し協調性を持って周りの声を聞くようにしたいと思います。

- バイトご苦労様です
- あらゆる面でキャパってます
- バワとのコンビがかっこいいです
- 君が一番かっこいい by〇ぐりん

●山中 謙司（後援会、工）●

最近授業が面白くなってきました。

- 周りに興味がなさそう
- なぜか東北と仲がよい
- 気がつくと姿が見えない
- たまにリーズンに浮気する

●吉村 誠司（副務、獣医）●

3年連続で部室で年越しです。

- 超高度なテクニックを駆使して名ギャグを放つ
- 以前よりもキレが鈍った
- 実習中の睡眠時間は獣医学部1
- 天才的過ぎてついていけません

2年目（上段左から、斉藤、野村、真田
下段左から、内山、村木、武藤、田中、平野）



●内山 知（飼料・企画、農）●

オレッチってだれがつけたんですか？

—オレッチ

—部に欠かすことのできないお調子者オレッチ

—曳き馬でも刺さる坐骨がうらやましい

—パバラッチされました（笑）

●斉藤 孝洋（馬備、文）●

馬術部どうしよもない男ナンバー1！

—名実ともに馬術部のエース（コンバ時）

—壁は頼んだ

—馬術部一の人気者

—いい人すぎる、悪いことをしてるのを見たことない

●真田 有貴（記録、水産）●

減量します。

- 不機嫌なときの目は半端じゃない
- 仕事人の手をしてる
- マック率高し
- なんか変

●田中 里枝（ビデオ、農）●

この部活に入ってますます時間がたつ早さを感じます。

- たまたに挙動不審
- 厚別
- 生活すべてに前進氣勢を感じる
- ちょっと変

●野村 基惟（作業、獣医）●

いろいろな経験をして一步一步進んでいけたらと思います。

- イケメン過ぎて男の僕まで緊張しちゃいます
- あなたの大胸筋にほれました
- 馬も女もお手の物
- 鼻毛には気をつけよう

●平野 沙衣子（大会関係・部報、獣医）●

毎日馬と一緒にいれることが幸せです。

- 馬術部のドンになるでしょう。地盤も磐石
- 平野さんには逆らえません
- なんか癒される
- 高校の先輩なのに敬語使わせてごめんなさい

●武藤 将充（大会関係・部報、工）●

自分でも自分が良くわかりません。

- 部室の住人
- なんかもうよくわかんないです
- 他の二年生にじゃれる姿はまるで小学生
- 寂しがり屋さん

●村木 泰子 (薬品、獣医) ●

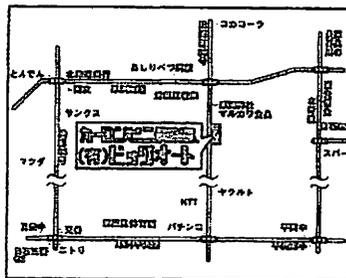
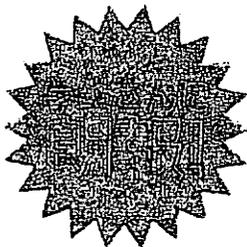
冬の朝は寒いですが、夜明け前の明るくなり始める頃は一瞬幸せを感じます。

- 二年のなかで最も怖い
- たまに男子部員を調教してる気がする
- だめな男よりよっぽど頼りになる
- 乙女心は馬術部—

 **カーゴジビ俱樂部**

愛車のキズ・ヘコミを

最短**45**分~で直しちゃおう!



 **カーゴジビ俱樂部**

(有)ビュウオート

Tel.011-888-6888

Fax.011-888-2042

〒004-0871 札幌市清田区平岡2条2丁目1番55号

営業時間：8:30~20:00 休業日：日曜日・祝日 (日・祝受付のみ可)



ノーザンホースパーク

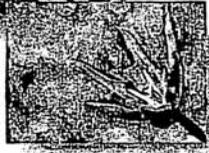
新千歳空港より無料送迎有り

K's Garden

〒059-1361 苫小牧市美沢 114-7

TEL 0144-58-2116 FAX 0144-58-2377

www.northern-horsepark.co.jp/



北大生協は

北大馬術部を

スポーツ用品の
ご注文は生協へ!!

応援しています

チームウェア等
オーダーマーキングも承ります

北部店

購買部
スポーツコーナー

電話:747-2181 FAX:716-9886
大学内線:5424



北海道大学生協同組合 〒060-0808 札幌市北区北8条西7丁目

<http://www.hokudai.seikyou.ne.jp>

<広告主への感謝の言葉>

この度、平成18年度北海道大学馬術部部報発行に際し、絶大なるご援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げますとともに諸社・諸店のご繁栄を心より祈り、ここに深く感謝いたします。

編集後記

昨年度に引き続き、井上先生になかなか原稿を提出していただけなかったため、部報の発行が大幅に遅れてしまいました。本当に申し訳ありませんでした。来年度はこのようなことにならないよう、何か対策を考えたいと思います。

平成18年度は北海道大学馬術部に大きな足跡を残された半澤道郎第六代部長、岡田光夫監督、小池寿男第八代部長が相次いでお亡くなりになり、先生方の追悼特集を組ませていただきました。特集に関して、お忙しい中ご協力してくださいましたOBの方々、ありがとうございました。

馬匹等の原稿は3月までに回収したものであるため、現在の状況と異なる点があるかもしれませんが、ご了承ください。

最後になりましたが、原稿の執筆や回収等、部報の発行にご協力してくださった皆様、ありがとうございました。

平野 沙衣子
武藤 将充

北海道大学馬術部部報

部 報 第52号

平成十九年七月 発行

編集者 北海道大学馬術部部報担当

平野 沙衣子
武藤 将充

印刷所 北大生協 印刷・情報サービス部

〒060・0808

札幌市北区北8条西八丁目

クラーク会館1階

TEL (011) 747・8886

FAX (011) 757・7971

発行所 北海道大学馬術部

〒001・0023

札幌市北区北23条西十二丁目

TEL (011) 737・1626

FAX (011) 737・1626

